

環境保全措置事例一覧  
(1/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-1	植物	ヨシ(群落を含む)	ヨシ原	当該計画範囲を含む加古川河口部付近の干潟には広大なヨシ原が広がっており、工事の影響を最小限にとどめることが必要となった。	低減	阪神淡路大震災の後	-	保全対象:ヨシ原及びヨシ原を中心とした生物の生息・生育空間・ 措置の内容:工事区域内に生えているヨシを事前に先立って仮移植し、工事完了時に戻して植生の再生を図ることで、生物の生息・生育環境の復元に努める。低水護岸を覆土するとともに、T字型水制を並べることによってワンドの形成を促す。	動植物等の有識者からなる「河川環境保全委員会」による検討・ 仮移植後の生育調査結果を護岸・水制工事事後後の本移植に活かした。	記載なし	あり	ヨシの生育状況調査、魚介類の調査を継続的にしている。	本移植後	なし	効果判断結果は不明:植生の復元状況をはじめ生物の生息・生育環境の回復状況について検証が行われている。	記載なし	RIVER FRONT(PDF版)2001/Vol.41	事業名不明:河川堤防の耐震対策(治水機能の改善を含む)・ 施工箇所:兵庫県加古川市の加古川河口)	その他	記載なし	阪神淡路大震災後
T-2	魚類	ミヤコタナゴ	ミヤコタナゴ	記載なし	代償	1973	工事中	保護地の造成:元々この場所を流れていた岡和久堀と呼ばれる自然の農業用水路と新たに造成した人工水路、人工池からなる。周辺水路等で採捕されたミヤコタナゴを保護地に放流した。	記載なし	記載なし	あり	ミヤコタナゴの生息数	造成一年後(S50)、S51、S52、S55、H4、H5	なし	効果の判断結果は不明:生息数減少に伴って他水域のミヤコタナゴを新たに放流してきたが、生息数減少は、繁殖に必要なニセマツカサガイの減少によるものと判断し、同種の生息環境改善のための改修工事を始め、平成7年に完了した。今後はニセマツカサガイが自然繁殖できる場とするために、さらなる検討が必要である。	あり	「魚から見た水環境 - 復元生態学に向けて/河川編 -」監修:編集 森 誠一 1998年第1版1刷 信山社サイテック	事業名不明:県による大規模圃場整備事業・ 施工箇所:栃木県大田原市滝岡	その他	保護地 面積 3,860m <sup>2</sup>	1971 -
T-3	魚類	ネコギギ	ネコギギ	工事場所付近のネコギギの絶滅・激減を防ぐため	低減	1992	-	1.工事場所におけるネコギギの生息環境・生息状況に関する現地調査、2.工事場所からのネコギギの一時避難、3.飼育、4.工事場所の生息環境復元(魚巣ブロック設置)、5.工事終了場所への飼育個体の放流(標識放流)、6.放流後の生息環境・生育状況に関する事後調査	県土木事務所が市の教育委員会の要請を受けた。 避難個体を他の場所に放流せず、一時飼育して工事後に元の場所に放流することにした理由は、周辺の生息場所の環境収容量や生息密度が不明であり、多数個体の放流が生息に悪影響を与える可能性が考えられたこと、そして工事後の生息状況をモニタリングし、復元対策を評価するため。	県土木事務所	あり	生息状況調査を5回、河川環境調査を2回行った。また、その後も適宜、写真撮影や生息状況調査を継続している。	はじめの放流後(1993年11月)から1995年まで	なし	効果の判断結果は不明:放流後の調査の結果、捕獲個体数は0 - 13個体であり(平均0 - 3.3個体/時間)、これらは工事前の捕獲個体数(平均15.5個体/時間)よりも有意に小さい値であった。捕獲個体には標識・無標識個体の両方が含まれており、周辺域からの移入個体が存在したことや、標識個体の定住性が低かったことが明らかとなった。また、魚巣ブロックの内部では全く観察されなかった。すくなくとも、中・短期的には個体数の減少が認められた。	記載なし	「魚から見た水環境 - 復元生態学に向けて/河川編 -」監修:編集 森 誠一 1998年第1版1刷 信山社サイテック	事業名不明:橋の掛け替え工事・ 施工箇所:伊勢湾周辺域の河川中流域	その他	記載なし	1992年
T-4	魚類	カジカ	カジカ類	遡上力が弱く、環境変化に敏感な魚種の代表種としてカジカ類(小卵カジカ、アユカケ)が指摘されたため。	低減	1995	-	せせらぎ魚道を設置した。魚道全幅15m、水路幅3m、勾配1/110、流速0.3m/s程度、水深0.3m程度。水路の横断面は三角断面を採用。縦断面は瀬、淵を交互に配置。水路断面に玉石を用い、大玉石も適宜配置。水量調節機能付き。	せせらぎ魚道は水路底に粗石を配置することにより、水路内の流れを様々に変化させて多様な流速が生じるように配置し、自然界の小河川で一般にみられる流れの状態を再現するものである。	事業主体:建設省中部地方建設局等	あり	魚類の遡上、降下を含めた生態、水質及び底質、防災の項目について、幅広く分野に渡り実施している。	1996年 -	あり	せせらぎ魚道で採集された魚介類の種類数は他の魚道に比べて大差なかった。また、小卵カジカについては、他の魚道でも遡上稚魚が採集されたが、せせらぎ魚道での採集量が明らかに多かった。	記載なし	「応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して -」監修 廣瀬利雄 1997年8月第1版第2刷	長良川河口堰事業	堰	記載なし	~1995年
T-5	環境	特定場所の環境	東沢の環境	東沢は工事に際して土捨て場として利用し、放置されていたため、スズキ等が生息し大変単調な環境になっていた。	代償	1992 -	供用後	湿地帯を中心とした農村的ビオトープを整備した。	自然復元の本来の主旨から言えば、溪流環境を復元すべきであるが、以下の観点より農村的ビオトープを整備した。 ・1.盛土した地形であるため、溪流的自然を復元しようとする大規模な掘削が必要となり、土捨て場が崩壊する危険がある。 ・2.盛土によってできた環境は、周辺に生息するしか等の「ヌタ場」として利用されることが期待される。 ・3.水没地域内には農村集落があった。 ・4.全国的に湿地環境が失われつつある。	記載なし	あり	哺乳動物、鳥類、は虫類、両生類、昆虫類、魚類調査	記載なし	なし	効果の判断結果は不明:宮ヶ瀬に一般に見られる生物の他に比較的水辺に生息する生物が多く見られる。今後は石積壁、石囲い等を計画している。(これは追加措置?工場の工程?)	記載なし	「自然復元特集3水辺ビオトープ - その基礎と事例 -」自然環境復元研究会編 1994年第1版1刷	宮ヶ瀬ダム	ダム	高さ 156m、 体積 200万 m <sup>3</sup> 、 湛水面積 460ha、 総貯水量 約2億m <sup>3</sup>	1991年 -
T-6	魚類	魚類全般	魚類等	記載なし	低減	1984	-	魚道の設置。この魚道の特徴は、大潮期に堰下流の水が堰上流へ逆流することを防ぐため、魚道上流端に3連のフラップゲートが設けられている。	当該堰は、有明海から上ってくる稚アユ、稚ガニ等にとつての最初の堰であり、ここでの上流、移動阻害は魚類の生活や堰上流の漁業に影響するため魚道を設置した。魚道設計にあたっては、筑後大堰魚道検討委員会を設置し、水理模型実験をはじめとする種々の調査、検討が行われた。	水資源公園	あり	堰下流の魚類分布調査(S59-60:船上から投網を打って魚類を採集した。)、稚アユを対象にした調査(S59-現在:稚アユが遡上する2 - 5月のうち、1週間に1回、両岸の階段式魚道4箇所の魚梯部で、日の出から日入りまでに魚梯部最上段のフラップゲート上を通過する魚類の種類個体数を目視にて計数した。このほか、フラップゲート上に採集カゴを設置したり、プール内の水を排出してその中にいる魚類を採集し、魚種の確認を行った。)、稚ガニを対象にした調査(S61-現在:稚ガニの遡上は冬季の夜間であることから、調査は12月から翌年の3月にかけて毎週1回、両岸の堤防側魚梯部最上段に24時間採集網を設置し、入網する稚ガニを計数した。また、両岸の魚道内に16個のバイブシエーター(塩ビパイプ13本を接着したもの)を沈設して、これを1週間に数回取り上げて入網する個体数から遡上時期、遡上量の一つの目安とした。)、開門式魚道の調査(S62-現在:開室内の底に網を敷いて、開門式魚道としてのゲート操作後に、敷き網を引き上げて遡上中の魚類を採集した。また、採集カゴを河床に設置し、ゲート操作終了後にこれを引き上げて魚類等を採集する方法、開室内の水を水中ポンプで汲み出して魚類等を採取する方法)、アユ資源の再生産の実態把握を目的とした仔アユの降下実態調査(S60-現在)など。	1984 - 現在(平成6年出版)まで	なし	効果の判断結果は不明:これまでの調査で筑後大堰の魚道を利用する魚類等は階段式・開門式をあわせて魚類39種、甲殻類4種が確認されている。	記載なし	「自然復元特集3水辺ビオトープ - その基礎と事例 -」自然環境復元研究会編 1994年第1版1刷	筑後大堰	堰	河口から約23km上流に位置する総延長約500mの可動堰	1984(堰完成)

環境保全措置事例一覧  
(2/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-7	魚類	魚類全般	魚類等	記載なし	低減	記載なし	-	魚道の設置。この魚道の特徴は、隔壁間の高低差を可能な限り小さくしたこと、及び魚道上がり口につながる水路が堰下流に設けられたことである。	魚道設計にあたり、「中津大堰魚道検討委員会」を設け、堰付近の魚類調査などをともに種々の検討が行われた。	記載なし	あり	平成3年以降	あり	遡上調査から、魚道を利用する稚アユは約30から90万尾と推定され、平成大堰の魚道は魚類等の遡上に十分な役割を果たしていることが明らかとなり、また、調査を共に行った地元漁業者もこの魚道を高く評価している。	記載なし	「自然復元特集3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - ;自然環境復元研究会編 1994年第1版1刷	平成大堰	堰	山国川河口から4km上流地点に設置された全長218mの可動堰	記載なし
T-8	魚類	アユ	アユ漁場	記載なし	創造	1990-1992	-	アユ漁場に適さない場所に巨石(40-150cm)を投入した。	巨石投入により漁場の創出を行う。	事業主体:北海道開発局	あり	記載なし	なし	短期的な効果 (文献における効果)巨石の投入により、川の流況が複雑化し、アユをはじめとする多くの魚類の生息が確認されたことから、魚の生息場所として良好な空間を提供できた。アユの漁場でなかった場所が巨石の投入により友好りができる漁場となった。 (聞き取り結果1996年)一部はまだ残っているが、ほとんどは出水のたびに埋まっていった。	記載なし	「応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - ;監修 廣瀬利雄 1997年8月第1版第2刷	事業名不明- 施工場所:北海道尻別川	その他	記載なし	1990-1992
T-9	魚類	アユ	アユの餌場	記載なし	創造	1980-1985	-	河床に巨石(40-150cm)を投入し、変化をみた。	河川改修による大石の減少により、生息数が減少した。	実施主体:建設省、鳴瀬吉田川漁協	あり	記載なし	なし	短期的な効果 (文献における効果)藻類生産量は投石前に比べ増加した。 (聞き取り結果1996年)埋まってしまい、毎年掘り起こし作業が必要になっている。	記載なし	「応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - ;監修 廣瀬利雄 1997年8月第1版第2刷	事業名不明- 施工場所:宮城県鳴瀬川	その他	記載なし	1980-1985
T-10	魚類	アユ	アユの餌場	記載なし	創造	1980-1985	-	本枠等を設置し、直径50-60cmの巨石を詰め込んだ。	本流の礫のサイズが小さい	建設省、新潟県水試等	あり	記載なし	なし	短期的な効果 (文献における効果)漁獲尾数、平均体重等は隣接部より大幅に良好な値を示した。 (聞き取り結果1996年)ほとんどが埋まってしまったが、まだ見えるところも残っている。そこでは効果が継続していると思うが、調査していない。	記載なし	「応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - ;監修 廣瀬利雄 1997年8月第1版第2刷	事業名不明- 施工場所:新潟県三面川	その他	記載なし	1980-1985
T-11	魚類	魚類全般	魚類のすみよい環境	記載なし	創造	1980-1985	-	木工沈床等の護岸を施し、直径40cm以上の石を投入した。	河川改修による河床の平坦化により魚類のすみよい環境が消失した。	実施主体:長野県水試	あり	記載なし	なし	短期的な効果 (文献における効果)河床のみの改善区間や未改修区間よりも魚類の平均採捕量が多かった。 (聞き取り結果1996年)同時に作った淵は埋まってしまった。巨石はまだあるかもしれないが、調査していない。	記載なし	「応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - ;監修 廣瀬利雄 1997年8月第1版第2刷	事業名不明- 施工場所:長野県農具川	その他	記載なし	1980-1985
T-12	魚類	アユ	アユのすみよい環境	記載なし	創造	1980-1985	-	岩石の搬出された瀬に石を投入した。	河床の岩石掘削によりアユのすみよい場所が消失した。	実施主体:群馬県水試、南村上野村漁協	あり	記載なし	なし	効果の判断結果は不明 (文献における効果)増水により巨石は流されるか砂に埋もれてしまった。 (聞き取り結果1996年)増水により巨石は流されるか砂に埋もれてしまった。	記載なし	「応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - ;監修 廣瀬利雄 1997年8月第1版第2刷	事業名不明- 施工場所:群馬県神流川	その他	記載なし	1980-1985
T-13	魚類	アユ	アユの生息場所	記載なし	創造	1980-1985	-	中洲を除去し、大石はそのまま残し変化をみた。	中洲の拡大による生息場所の減少により、アユ生息数が減少した。	事業主体:広島県水試、西条川漁協	あり	記載なし	なし	短期的な効果 (文献における効果)釣果は向上し、はみあとが広がった。 (聞き取り結果1996年)おそらく変わってしまったら、一時的にアユの生息環境は良好になるが、常にメンテナンスの必要がある。	記載なし	「応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - ;監修 廣瀬利雄 1997年8月第1版第2刷	工事名不明- 施工場所:広島県西条川	その他	記載なし	1980-1985
T-14	魚類	アユ	アユのすみよい環境	記載なし	創造	1980-1985	-	巨石を流路に配置し、流れの変化をみた。	河川改修による河床の平坦化により魚類のすみよい環境が消失した。	広島県水試、吉和村漁協	あり	記載なし	なし	短期的な効果 (文献における効果)流れに緩急がつき、早瀬や淵が形成され、魚の生息場所ができた。しかし、不十分な箇所もあるため、投石の配置等再検討が必要。 (聞き取り結果1996年)大出水で埋まるか、流された。	記載なし	「応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - ;監修 廣瀬利雄 1997年8月第1版第2刷	工事名不明- 施工場所:広島県太田川	その他	記載なし	1980-1985
T-15	魚類	アユ	アユの定住場所	記載なし	創造	1980-1985	-	河路を川石の多い河川中央部に移動させ、変化をみた。	石面の荒い山石では藻をはみ難く、定住しにくい。	広島県水試、太田川漁協	あり	記載なし	なし	短期的な効果 (文献における効果)釣果が向上した。 (聞き取り結果1996年)大出水で埋まるか流された。	記載なし	「応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - ;監修 廣瀬利雄 1997年8月第1版第2刷	工事名不明- 施工場所:広島県太田川	その他	記載なし	1980-1985
T-16	環境	特定場所の環境	自然環境	当該地域ではかつてはサシバやキツネが繁殖していたが、自然環境が悪化するにつれてそれらは姿を消してしまった。	創造	記載なし	-	河川敷にある生き物の少ない麦畑や牧草地などの平坦地を改善し、隣接する北本自然観察公園と合わせて大規模な自然環境を確保することとした。荒川ビオトープ内には水路やワンドの設置、旧水路の保全、凹凸地を設けるなど多様な生物が生息できる環境を整備した。また、現地は野生生物の生息環境に配慮して、人の立ち入りを制限している。	全体計画策定には地域の環境NGOなどと相談しながら実施した。	記載なし	あり	施工後	なし	効果の判断結果は不明(カワセミやキツネの巣穴が確認されたほか、国や県のレッドデータブックに記載されている貴重な生き物も戻ってきているなど、良好な自然環境の回復が徐々に確認されている。)	記載なし	RIVER FRONT(PDF版)2001/Vol.41	工事名不明- 施工場所:埼玉県北本市、川島町	その他	記載なし	記載なし
T-17	魚類	魚類全般	魚類	遠賀川は、サケが遡上する南限の川であり、魚がのぼりやすい川づくり推進モデル河川、の指定を受けている。	創造	記載なし	-	既設のコンクリート護岸を取り壊し、計画低水路法線まで高水敷を一部切り込むとともに、カゴマットと覆土による隠し護岸を施工。また、主流部と切り離すための鳥打の部分を残し、増水時の魚類の避難場所とした。覆土は自然による植生の回復を期待して、積極的な植生は行わなかった。右岸のワンド状河岸は3-6割の緩傾斜とし、水際まで近づきやすい構造とした。ワンド内の水路に巨石によるフィックスポイントをつくり、水路内の土砂閉塞が起こらないようにした。	魚類の遡上をはじめ、河川生態系に配慮しつつ、地域住民にも親しめるような川づくりを行う。具体的には、「洪水時の魚の避難場所の確保」、「魚の移動経路の形成及び流水の変化の創出」、「水際の植生の回復」、「住民参加に寄る川づくり」が目標とされている。 設計の段階から地域住民が主体となった「直方川づくり交流会」での議論を重ね、かつ、専門家からのアドバイスを受けてできる限り取り入れた計画案とした。	記載なし	あり	施工後	なし	効果の判断結果は不明(ワンド内では主流部よりかなり遅い(流速20-30cm)静水域が形成されていること、植生の回復は全体的に良好であることなどから、当初の目標がかなり達成されている)	記載なし	RIVER FRONT(PDF版)2001/Vol.41	工事名不明- 施工場所:福岡県直方市遠賀川	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(3/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-18	魚類	魚類全般	魚類	当河川の改修区間は、渓流魚(ヤマメ、オイカワ、ウグイ等)の生息に好環境な区間であるが、従来の河川改修工事では、河床の単調化・落差工設置による魚の遡上への影響が生じることになる。	低減	1991	-	河床を掘り下げて瀬(6箇所、深さ約50cm)と淵(5箇所、深さ約1.0m)を創造し、渓流魚の生息場所を確保する。落差部はコンクリートの垂直の落差とし、既存の岩盤を利用して、魚の遡上しやすい構造とする。岸は玉砂利・岩盤でできている。	既存の岩盤を利用し、瀬と淵、落差を創造し、魚の生息、遡上へ寄与する。淵は魚が石に付いた藻を食べる等の餌場となり、淵は休息場等となる。	事業主体:秋田県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判定結果不明:改修箇所では釣り人が多くなっているため、魚が増えているようである。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:河川改修工事 施工箇所:秋田県雄勝郡羽後町元西 雄物川水系西馬音内川	その他	施工延長210m、河川幅24m	1991
T-19	魚類	魚類全般	魚類等	記載なし	低減	1991	-	のり面の保護および緑化のため、しがら枠による栗石粗朶や柳枝工を施工した。・低水護岸に杭を並べ、その中に石を詰めた詰杭を設置し(洗掘防止)、河床に石を敷いて瀬や淵をつくり魚類に配慮した。	洪水対策のため川幅を広げる河川改修に際し、多自然型河川の工法を取り入れた。	事業主体:山形県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判定結果不明:魚の生息が多く見られるようになっており、効果はあがっていると思われる。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:洪水対策の河川改修工事 施工箇所:山形県西村山郡河北町大字畑中 最上川水系横川	その他	施工延長2km、河床幅9.5m	1991
T-20	魚類	魚類全般	魚類	当河川はアユ、ヤマメ等魚類が豊富に生息している。	低減	1983-1988年	-	木工沈床、杭欄工、空石積等の工法を用いて川幅に変化をもたせた。・自然石にあり、人工淵や置き石を設置し、河床の平坦化を避けた。	本地区の上流において、圃場整備と一体になった河川改修により、魚類の生息環境が悪化した。そこで、本地区の改修においては、木と自然石主体の工法により、自然的な河川の保全を図り、魚類の生息環境に配慮した。	事業主体:長野県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判断結果は不明:魚が豊富な河川であったが、河川改修後も数は減ってあらず、護岸には雑草が繁茂し、自然の河川に近い形に復元された。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:河川改修工事 施工箇所:長野県大町市信濃川水系農具川	その他	施工延長右岸925m、左岸890m	1983-1988年
T-21	魚類	オヤニラミ	オヤニラミ	水質悪化、乱獲、河川改修により、その生息地も数も激減したといわれており、町では昭和58年に町の天然記念物に指定し、その保護に努めている。	低減	1990	-	魚の集まるように上流に帯工を設け、その下流に淵を造成し、水路を連続させてバラエティに富んだ自然の河道に近づけた。・対策工の実施スペースは、治水機能と両立を図るため、計画河床以下とした。・帯工は、水流を集めることにより、淵と水路が安定して維持できるよう半円形とした。・生息条件のポイントは、静穏な水際の淀みと植生であることから、水路の水際に自然の素材を用いた粗朶欄、木工沈床、フン籠をそれぞれ入り江状に配置した。	町内では中小河川の改修工事を実施しているが、残工事区間にオヤニラミの生息が集中しているといわれていた。そこで、オヤニラミの保護を目的として、生息環境の実態や、魚の種類についての調査をするとともに、得られた知見をもとにした保護対策工を試験的に施工した。	事業主体:鳥根県津和野土木事務所	あり	記載なし	毎年	なし	効果の判定結果は不明:毎年行う追跡調査の結果、数ヶ月で水草やヨシが生息し始め、オヤニラミも住み着いているのが確認された。カワムツ、ヨシノボリ、クハヤ、オイカワ等の魚類も多く見られる。粗朶欄は、そのほとんどが流亡しており、耐久性に欠ける。淵は土砂がたまり浅くなる傾向にあり、また、大型魚類も確認されないことから、より深い淵の造成が必要であると思われる。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:河川改修工事 施工箇所:鳥根県鹿足郡六日市町大字注連川地内高津川	その他	試験施工のため90mの区間	1990
T-22	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	創造	1987-1993	-	保全対象:アブラハヤ、ドジョウ、モツゴ、メダカ等 措置の内容:河床に低水路や瀬、淵を設けるとともに、落差工は自然の早瀬を基本にした斜路工(木工沈床)とし、魚の遡上が可能な構造とした。・低水路は植生ロールで根固めをした。・河原には、ミソソバ、ツルソバ、セリ、マコモ等の植生を復元するとともに、護岸の天端部に土のり面を設け、植生を回復した。・旧河川の蛇行部の直線化を極力避け、現存する自然林保全のため、ヤナギ類を植生した蛇籠による緩傾斜蛇行護岸とした。	周辺の自然環境に配慮し、生態系の保全、保護とあわせ、改修後の自然の復元および周辺景観との調和を目的とした。	事業主体:横浜市下水道局	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判断結果は不明:すでに植生が回復している。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:施工箇所:神奈川県横浜市緑区三保町 鶴見川水系梅田川	その他	施工延長900m	1987-1993
T-23	魚類	魚類全般	魚類等	記載なし	創造	1982-1992	-	保全対象:(魚類)コイ、フナ、モツゴ、ドジョウ、モクズガニ、オイカワ、(植物)ガマ、セキショウ、サンカクイ、カンガレイ、クレソン 措置の内容:河床に低水路を設け、平常時水深を確保し、瀬や淵、河原を復元し、生物の生息しやすい河川とした。・約15幅の河床を30-40cm掘り下げ、5-6m幅の低水路を設けた。・低水路の両側に掘削土量と同量の土を盛り土して河原を設けた。・低水路の水際部は固めず、直径150mm-300mm程度の礫を緩やかな勾配で敷き、転圧した。	中小河川では河川改修によって河床が平滑化し、瀬や淵が失われ、かつ平常時の水深が浅くなり、河川植生を失ったため、生物の生息環境に大きなダメージを与えた。	事業主体:横浜市下水道局	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判断結果は不明:植生が回復し、流水に多様性が回復したため、生物の生息環境が改善された。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:施工箇所:神奈川県横浜市栄区公田町~上郷町境川水系いちぢ川	その他	施工延長2,800m、河床幅約15m	1982-1992
T-24	植物	植物全般	植物等	記載なし	創造	1990-	-	保全対象:カモ、シギ等の鳥類、ヨシ等の水生植物 措置の内容:のり面は芝植生、のり据部は堤外の湿性植物(ヨシ)を保全するため、土羽による緩傾斜護岸とした。・河岸沿いの植生には水鳥や野鳥、昆虫類の小動物との触れ合いが楽しめるように、野鳥が好む実のなる木や花の咲く木や植物を植栽した。	ふるさと川モデル事業に認定され、その整備計画に基づき自然豊かな水辺空間を創造するよう河川改修を行った。	事業主体:徳島県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判定結果は不明:水鳥はカモ、シギ等が見られ、水際にヨシが復元している。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:施工箇所:徳島県徳島市徳島市 吉野川水系多々羅川	その他	延長600m、河道幅約80m	1990-
T-25	植物	植物全般	植物等	記載なし	低減	1990	-	保全対象:ニッコウキスゲ、ホザキシモツク等貴重植物、魚類 措置の内容:環境庁の指導により、自然に近い柳粗朶工による護岸を施工した。・二割ののり面に木杭を暮盤状に打ち、柳粗朶をそれに絡ませ、土砂をかぶせてのり面の安定を図り、植生を施した。	本工事区域は日光国立公園内特別保護地区である。湯川による洗掘で土の斜面が浸食され、遊歩道の確保が危うくなったため、護岸工を実施した。自然遊歩道に面し、貴重な天然記念物の群生地帯のため、周辺の景観となじみ、また、魚類等の生息環境の確保に配慮した。	事業主体:栃木県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判定結果は不明:柳粗朶を実施した部分は、洗掘が進んでいない。現在は工事場所がわからないほど自然復元されている。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:護岸工事 施工箇所:群馬県日光市野場ヶ原 利根川水系湯川	その他	施工延長25m、堤防幅4m	1990
T-26	魚類	魚類全般	魚類等	記載なし	創造	1991	-	保全対象:コイ、フナ等 措置の内容:(低水護岸)木枠工、木工沈床、石羽口工、(高水護岸)木欄階段(根固)フン籠工	治水対策を兼ねて、古来からの使用材料である木材、石材を使用し、親水性のある河川環境を整備するとともに、水生動物の生息環境を確保した。	事業主体:静岡県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判断結果は不明:以前の状況よりもコイ、フナ等の魚類の隠れる場所ができた。全体計画は800mであるため、今後、問題があれば全体計画に生かすために検討する。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:施工箇所:静岡県静岡市巴川水系浅畑川	その他	施工延長60m、川幅約30m	1991
T-27	魚類	魚類全般	魚類等	記載なし	創造	1990	-	保全対象:アユ、イwana、ヤマメ等 措置の内容:地産産物である林業より出てくる間伐材を用い、護岸を木欄で階段形状で施工した。のり先部分は根固として捨石(0.5-1.0t)を施工し、洗掘防止と水生植物の住みやすい環境とした。	これまでコンクリートブロックによる護岸であったが、水のきれいな山間の河川であることから、護岸を自然の木、石による階段木欄護岸とすることで、アユ、イwana、ヤマメ等の淡水魚類の生息場所を確保するとともに、親水性をもたせ、周辺環境ともマッチするよう自然環境保全に配慮した。	静岡県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川環境部 平成6年2月	事業名不明:施工箇所:静岡県天竜市天竜川水系阿多古川	その他	施工延長72.8m、河床幅10.2m	1990	

環境保全措置事例一覧  
(4/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-28	魚類	魚類全般	魚類等	記載なし	創造	1991	-	保全対象: コイ、アユ、ウナギ、カジカ、ハヤ等・ 措置の内容: これまでは隙間をコンクリートで埋めた練積み護岸であったが、魚類を考慮し、コンクリートを使用しない藻のつきやすい多孔質の空石積護岸とした。・ 護岸の高さ3m、勾配5分	河川の一部に平行する道路が、河川の側に約5m拡張されるため、対岸の護岸を同様に約5m広げることとなった。それに先立ち、地元「蘆川を美しくする会」よりできるだけ自然に近い状態にして欲しいとの要望があり、空石護岸とした。	事業主体: 愛媛県土木部道路建設課	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・道路工事に伴う護岸工事・ 施工箇所: 愛媛県喜多郡内子町 脇川水系蘆川	その他	施工延長100m、川幅7-8m	1991	
T-29	魚類	魚類全般	魚類等	魚類・植物	創造	1991	-	保全対象: ハヤ、フナ、コイ、ウナギ、ナマス等、植物・ 措置の内容: 旧河川敷を利用して引堤を行い、定規断面外に捨石および低木を設ける。(魚の隠れ場及び鳥の止まり木)・ 引堤については、緩傾斜勾配とし、水際を広くとり、魚および水生昆虫の生息場をつくり、また、人が水辺に近づけるようにした。・ 護岸は緑化を図るために連架欄、根固めは洗掘防止のために粗朶沈床とした。	京田川はこれまで主にコンクリート護岸であったので、護岸の一部の区間について彫り込みをもたせた形で堤防を移動し、そこにできた空間に自然のもつ多様性を尊重し、生態系の保全を図り、良好な水辺空間を創造する。	事業主体: 山形県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所: 山形県東田川郡余目町・藤島町 最上川水系京田川	その他	施工延長130m、河川幅約20m	1991
T-30	魚類	魚類全般	魚類等	記載なし	創造	1992	-	保全対象: オイカワ、アユ等に配慮するとともに、水際に自生していたアカシア等の立木は、極力残す方向で河川改修した。・ 措置の内容: 低水護岸を三割程度の緩傾斜張芝構造とし、浸食防止のためのり面を金網で被覆した。・ 本川から引き込んだ「せせらぎ水路」は玉石積または杉丸太を使用するとともに、魚類等の生息環境に配慮して近自然的な魚巢も創造した。	当河川は、親水性の乏しい河川であったため、「人と自然にやさしい川づくり」を目指して河川改修を実施した。	事業主体: 群馬県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所: 群馬県佐波郡玉村町大字小泉 利根川	その他	施工延長340m	1992
T-31	魚類	魚類全般	魚類等	多摩川中流部で、コイ・ギンブナ等魚類の生息場、産卵場が少なかったため、これに主眼をいれた。	創造	1992	-	保全対象: ・ (植生)オギ、ヨシ、タチヤナギ、クサヨシ、オオシタテ、マコモ等、(魚類)コイ、ギンブナ、モツゴ、ヨシノボリ、ウグイ、オイカワ、タモロコ、(甲殻類)スジエビ、ヌカエビ、(昆虫)トンボ類、カゲロウ類・ 措置の内容: ・ (のり面)付近に多いオギを主体として工事前に仮置き移植して、のり面の早期自然回復を促した。(護岸)7-20mセットバックした高水敷を掘削しフロン籠を入れ治水に対する防御を行うとともに、地下水移動を妨げない効果をあわせ持った。(ワンド)アドバイザーの意見を参考に、当面、素堀のみの池とし、魚類の影響をみるとし、伏流水を期待した水深4mのワンドとした。	特に魚類に着目し、学識者のアドバイスを得ながら、施工地域上下流の多摩川の自然環境を文献と現地調査より抽出し、その結果、現地にあった既存のワンドを大型化、再生することとし、その工事方法として素堀りワンドおよびオギ等の移植による植生回復を行った。	事業主体: 建設省京浜工事事務所	あり	記載なし	なし	効果の評価結果は不明: 多いときには200尾を超える魚が確認されている。植生では、移植により自然植生が早期に回復し、60に及ぶ種が確認されている。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所: 東京都調布市染地二丁目地先 多摩川河川敷左岸	その他	ワンド延長194m、最大幅65m、最小幅30m	1992	
T-32	魚類	魚類全般	魚類等	記載なし	創造	1991-1992	-	保全対象: ・ (魚類)コイ、ゲンゴロウブナ、ハゼ等・ (鳥類)オナガガモ、コアシサン等・ (植生)ヨシ原・ 措置の内容: 河川敷に人工的に植えたヨシ原と砂を敷いた干潟と、ワンド(池)を設けた。・ 本流との間に治水上必要な鋼矢板護岸を設置し、その上に直径1mほどの自然石を敷き、水が通るようにし、潮の干満によりヨシ原等に本流の水を引き込むようにした。	過密市街地における貴重な水と緑のオープンスペースである荒川で、特に親水性と自然性を醸し出す目的で施工した。・ 水際に繁茂する植生および、魚類等の餌となる底生生物に着目し、現地調査を行った。	事業主体: 建設省荒川下流工事事務所	記載なし	記載なし	なし	効果の評価結果は不明: ワンド内に植えたヨシが増え、池に魚が生息している。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所: 東京都足立区五反野地先荒川	その他	施工延長200m	1991-1992	
T-33	植物	ヨシ(群落を含む)	ヨシ群落	本地区は、漏水対策としてのプランケット施工時にヨシ原がなくなってしまっている。このため、プランケット前面にヨシ原の復元を行った。	創造	1991	-	ヨシ原としての土壌水分を確保するために植栽帯に用いる浸透土は粘土質のものを使用し、その上にヨシ根の混入した土砂を表土として、30cm厚で敷均した。・ ヨシ根の混入土は、他事業で発生したものを利用するなど極力ヨシ原が復元するよう心がけた。・ 前面にはフロン籠を置いて植栽帯が流出しないようにした。	長良川下流部は自然環境が豊かな所であり、景観および動植物の生育環境に配慮する必要があるため、構想の段階から専門家を招いて委員会を設置して治水と動植物の生育環境の両面から植生復元の検討を行い、本地区の設計にも反映できた。	事業主体: 建設省木曾川下流工事事務所	記載なし	記載なし	なし	効果の評価結果は不明: 現在ヨシは水際部では十分な定着が確認できているが、全体的には十分な定着となっていない。これはヨシ植栽の位置が、長良川河口堰湛水後の水位上昇を考慮した計画であるためであり、湛水後は、ヨシに適した生育環境となり、ヨシの定着が十分なものになると考えられる。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所: 三重県桑名郡長島町上坂手 長良川	その他	施工延長500m、復元幅約20m	1991	
T-34	魚類	アユ	アユ等	用沢床止工下流は河床の落差が5m以上あり、アユ等の遡上が不可能であった。ここに魚道を設置し、アユ等の漁場の効率的な利用を図った。	創造	1991	-	階段式魚道全面越流型 水位調節装置付き・ 水位調節装置: 魚が遡上しやすくするために、一定以上の水が魚道に入り込まないように、魚道入り口に長方形の穴があいている。穴に入らない水は溢水路に流れ込む。・ 勾配1/20、高低差3.95m	神奈川県淡水魚増殖試験場が模型実験を行い、開発した水位調節機能付きの新しいタイプの魚道である。	事業主体: 酒匂川漁業組合	記載なし	記載なし	記載なし	あり	多くのアユが魚道を遡上し、効果が認められた。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所: 神奈川県足柄上郡山北町山市場 酒匂川水系河内川	その他	魚道延長46m、幅2.8m	1991
T-35	生物全般	水生生物	両生類等	当該地区周辺はアユや天然記念物のオオサンショウウオが数多くみられる。	創造	1991	-	保全対象: オオサンショウウオ、アユ等・ 措置の内容: 既設堰の一部を削って魚道とした。・ 魚道下流に魚等を誘導するような湾筋を確保し、さらに魚道入り口には深みをつくり魚道に跳躍して進入しやすくした。・ 魚道直下に河床を守るため、フロン籠を設置した。・ 魚道勾配は1/6	農業用の取水堰により遡上が不可能となり、上下流の連続した生態系を復活させるよう、地元の要請があったため、魚道を設置した。・ 魚道の種類は、対象を特定種に限定しないよう2種類(デニール、階段式)の魚道を設置した。	事業主体: 広島県土木建設部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	あり	実態調査は行っていないが、下流に放流したアユ等が上流でも見られるため、効果があったと考える。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所: 広島県高田郡高宮町川根 江の川水系田草川	その他	魚道延長: デニール式7m、階段式7m、魚道幅: デニール式0.31m、階段式1m	1991
T-36	両生類	オオサンショウウオ	両生類等	オオサンショウウオの生息が確認されたため	低減	1990-1994	-	保全対象: オオサンショウウオ、オイカワ等・ 措置の内容: オオサンショウウオに配慮した巢穴工、瀬工、魚道工を採用するとともに、護岸の改修に当たって川幅を拡張した。・ 事業完成後、エサとなる魚が戻るなど、オオサンショウウオの生息環境が整った後、川に戻す。	河川災害復旧助成事業により台風被害に対する復旧中、オオサンショウウオの生息が確認されたことから、専門家の意見を取り入れながら、生態に配慮した復旧工法を採択した。・ 自然石を使って施工したもので、オオサンショウウオの餌となる魚類等の生物にも良い影響を与えるものと思われる。	事業主体: 兵庫県土木河川課	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所: 兵庫県養父町大坪・井ノ坪 丸山川水系建屋川	その他	施工区間11km、4年度未だに約6kmを完了	1990-1994

環境保全措置事例一覧  
(5/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-37	魚類	ミヤコタナゴ	ミヤコタナゴ	区画整理事業にともなう農業用水路の新設に際し、保護団体から保護対策の要望が出されたため。	低減	1988-1990	-	ミヤコタナゴとその媒体であるマツカサイガイが生息できるように水路側面の交互に約20mに1箇所窪みを設けて待避所とした。 ・河床は、水草等が繁茂するよう底張りなしの土づくりで蛇籠を左右護岸交互に設置し、自然水に近づけるよう蛇行させて平水時の流速を0.3m/s程度にした。 ・水路の構造は1.5m毎にコンクリートの柱を建て側面にコンクリート板をはめ込む形式である。	記載なし	事業主体:千葉県農林部 耕地第一課	あり	記載なし	記載なし	なし	効果の評価結果は不明:追跡調査ではミヤコタナゴが何匹か確認されたが、まだ大きな効果があるとはいっていない。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所:千葉県	その他	施工延長 179m、 水路幅 1.5m	1988- 1990
T-38	両生類	アズマヒキガエル	アズマヒキガエル	湖尻水門改築と同時に下流護岸を整備しているが、この箇所はアズマヒキガエルの産卵場所になっている。	低減	1987-1990	-	カエル道勾配45度、護岸勾配75度 ボックスカルバートはコンクリート製である。産卵場所は河川敷内の草むらの中水深約20cmの水たまりである。	護岸の整備にともない、カエルの生活場所である雑木林と産卵場所に通じる移動経路が閉ざされるため、カエル道を設置した。	事業主体:神奈川県小田原土木事務所	あり	記載なし	記載なし	なし	効果の評価結果は不明である。追跡調査の結果、産卵期には多くのカエルが産卵していた。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所:神奈川県足柄下郡箱根町元箱根地先湖尻水門	堰	カエル道延長 約13m	1987- 1990
T-39	昆虫	ホタル	ホタル	ホタルの生息地として知られているので	低減	1985-1986	-	極力コンクリートを使用しないように自然石を使用し、傾斜を3分としてホタルの幼虫が這い上がるような構造にした。 ・ホタルの幼虫および餌となるカワナガが生息できるよう、河床には洲をつくり、水深の浅い水溜まりを設けた。材料はすべて自然石を使用した。	素堀状態でのり面崩壊の危険が生じ、水路機能保全のための整備を実施したが、当水路は水深1-2cm程度で水量も少なく、ホタルの生息地として知られていたため、ホタルの生息に支障のないよう配慮し、整備した。	事業主体:横須賀市下水道部管渠建設課	記載なし	記載なし	記載なし	あり	かなりのホタルが生息しており、効果があるが、 ・豪雨時に河床が洗掘されるおそれがあり、周辺が山林であるため、土砂の堆積が予測される。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・水路機能保全のための整備・ 施工箇所:神奈川県横須賀市西見町三丁目3番地先	その他	施工延長 80m、 河床幅 1.3m	1985- 1986
T-40	昆虫	昆虫全般	昆虫類等	記載なし	低減	1984-1988	-	保全対象:ゲンジボタル、シジミ、カワエビ、サワガニ等 措置の内容:護岸の傾斜は約60度、水路の幅を広げ、流速をホタルが生息しやすい0.5m/sと緩やかにした。護岸にはホタルブロックを設置。	当用水路は天然護岸(盛土)であるため、護岸の決壊、付近田畑の流失を招くことがあった。本水路にはシジミ、カワエビ、サワガニなどのほか、ゲンジボタルの生息があり、これらの保護と水路の改修の両面から整備を行った。	事業主体:小城市商工観光課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の評価結果は不明:平成3年5月中旬には、ホタルの数が10万匹にもおよんでいる。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所:宮崎県小林市大字出ノ山 出ノ山ため池用水路	その他	施工延長 116.2m、 河床幅 3.5-4.0m	1984- 1988
T-41	昆虫	ゲンジボタル	ゲンジボタル	鱒淵川のゲンジボタルは国の天然記念物に指定されている。	創造	1984-1986	-	現況の河道にはゲンジボタルが生息しており、洪水時に餌となるカワナガが流れないよう、現況河道に平行してバイパス水路を施工した。 バイパス水路と現況河道との分岐点には分流堰があり、一定以上の水量になると自動的にバイパス水路をに水が流れ、水量が調整される。 ・河床勾配1/80、低水路幅約3m、平常水深30cm・ 現況河道:H.W.L幅16m、L.W.L幅6m、平常水深40cm	ゲンジボタルの生息環境に影響を与えないよう河川整備を行った。	事業主体:宮城県土木部河川課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の評価結果は不明:工実施前と変わらず多数のホタルが生息している。	記載なし	「自然にやさしい技術100事例 人と自然との共生をめざして」神奈川県環境部 平成6年2月	事業名不明・ 施工箇所:宮城県登米郡東和町鱒淵地内 北上川水系鱒淵川	その他	バイパス水路延長 500m、 水路幅 15.4m	1984- 1986
T-42	環境	干潟	干潟	広島県でも有数の水鳥の飛来地である八幡川河口部の干潟が、埋立により分断・消滅することから、水鳥類の望ましい環境条件を回復するため。	代償	1978-1990	不明	干潟造成 24ha	不明	事業主体は広島県空港港湾局	あり	鳥類調査:昭和63年1月-平成10年1月 ・ ペントス調査:干潟完成後(平成3年2月)-平成9年12月・ 干潟の粒度組成:干潟完成後(平成3年2月)-平成9年12月・ 干潟の沈下:干潟完成後(平成3年1月)-平成10年1月・ 干潟の漂砂:不明	記載なし	あり	[鳥類]造成前の天然干潟(八幡川河口部)での調査結果と比較して、出現種数、個体数ともに造成工事中には減少したが、造成後2年目には、種数、個体数ともに回復している。 ・ [ペントス]人工干潟の生物湿重量は、造成後から平成8年7月までは季節変動はあるものの、ほとんどの時期において他の干潟の平均値(293g/m <sup>2</sup> )を上回っていたが、平成8年10月以降は軟体動物の減少により他の干潟の平均値を下回っている。 ・ [干潟の粒度組成:沈下・漂砂]6調査地点中5地点は礫分が高い。若しくは礫分の割合が多くなってきている。人工干潟完成後(平成3年1月)から平成10年1月までの累積沈下量は干潟部で80-120cm程度、増堤部で30-40cm程度である。漂砂は、河口部では堆砂傾向、沖合部では全般に浸食傾向である。	あり	「自然と生物にやさしい」海洋環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター-港湾・海洋環境研究所)・ 「広島港五市地区人工干潟工事誌(平成8年3月、広島県広島港湾振興局)	港湾整備公共関連事業(これは広島港五市地区港湾整備事業関連)	公有水面埋立及び干拓	154ha	評価書発行年1986年
T-43	生物全般	干潟生物	干潟生物	トカゲハゼが生息しているのは、沖繩本島の中城湾沿岸だけであり、さらに中城湾は世界的な分布域の北限に当たり、湾内全体の生息数が少ないことから、学術的に貴重な種とされているため。 ・トカゲハゼなどの干潟生物や野鳥の生息環境の保全・創出を図るため	低減	1993年度-	-	・回避及び低減と考えられる。 ・これは調査研究に位置づけられている。 ・人工干潟造成 約3.3ha	トカゲハゼ等の干潟生物や鳥類等の現在の生息地を厳正に監視、管理して保全することが基本であり、個体数の復元及び万一減少した場合に備えて新たな生息環境を創造することが重要である。そのため、旧港湾計画では泥質性の干潟を連続して埋立てる計画であったが、既存の陸域から約70-280mの範囲の埋立は行わず、開発と環境保全との調和に配慮するために実施した。	沖縄県商工労働部企業立地推進課	記載なし	調査研究内容は、人工干潟造成、トカゲハゼの生息数調査、干潟生物出現種数と生物量調査等をおこなっている。	記載あり	あり	人工干潟試験造成地の追跡調査によると、底質の物理的条件並びに化学的条件は、ともにトカゲハゼ生息地に適する状態で維持されている。 ・ ・造成当初は全くみられなかった各種の干潟生物も次第に周囲から進入しており、出現種数、生物量ともに増加し、泥質性干潟の生物相としては豊富になり安定してきた状況である。 ・ ・特に冬季-春季には、周辺域からトカゲハゼの成魚が侵入し、生息孔を作って生息していたことが確認されており、成魚の生息地として機能することが証明されている。さらに稚魚の接岸、着底も確認されたことから、干潟域へ戻ってくる稚魚の着底基盤としても機能することが証明された。	記載なし	「自然と生物にやさしい」海洋環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター-港湾・海洋環境研究所)・ 「中城湾港(新港地区)公有水面埋立事業に係る環境影響評価書	中城湾港新港地区人工干潟(これは中城湾港(新港地区)公有水面埋立事業関連)	公有水面埋立及び干拓	66.4ha	評価書発行年1994年
T-44	生物全般	水生生物	水生生物	埋立が行われる羽田沖は、もともと水深が浅く、東京港内でも魚類の多い豊かな自然環境であったため、羽田沖埋立事業の実施にあたっては、この豊かな自然環境を守るため、事業実施区域に比較的浅い場所(浅場)を形成することによって、積極的に水生生物が生息しやすい環境の回復などを図ることを目的としている。	代償	1988年度-継続中	供用後	浅場造成規模 約250ha	不明	東京都港湾局	あり	水質、底質及び潮流等の環境調査・ 魚介類定着状況調査・ 魚介類生育状況調査・ 等	詳細は不明であるが1988年度から継続中	あり	平成9年9月と11月に、前年度に設置した水域環境施設への魚類の集積状況を潜水目視調査した結果、メバル、スズキ、アイナメの他、東京湾奥部では稀なクロソイ、イシダイ、カワハギの成魚が確認されるなど効果がみられる。 ・ ・造成した浅場を水生生物の生息環境を良好な状態に維持していくためには、維持管理(干潟・浅場の「耕うん」や不良土の除去、良質土の補給)を適切に行っていくとともに、稚魚や稚魚を放流していくことが必要と考えられる。	記載なし	「自然と生物にやさしい」海洋環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター-港湾・海洋環境研究所)	羽田浅場造成事業(これは羽田沖埋立事業関連)	公有水面埋立及び干拓	約250ha(浅場造成面積)	1988年度

環境保全措置事例一覧  
(6/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-45	植物	アマモ	アマモ	本事業の一部である海水浴場予定地内にはアマモの群落があり、同海域の生態系に重要な藻場として機能を果たしていると考えられることから、事業により消滅するアマモ場1900m <sup>2</sup> の生育地を計画地内に代替造成し、そこにアマモを移植するミチゲーションを実施した。	代償	1989～1990年度	工事中	アマモ場の生育地を計画地内に代替造成(1900m <sup>2</sup> )を行った。 そのために、アマモの生育環境の調査、移植地の設計、移植時期と移植方法を検討して実施した。	不明	熊本県	あり	・アマモの生育状況 ・海域生物の(魚類)調査 ・魚卵、仔稚魚調査	不明	あり	・25株/m <sup>2</sup> の密度で移植したアマモは、移植1年目には平均20株/m <sup>2</sup> とやや減少したが、移植後2年目には平均51株/m <sup>2</sup> へと増加した。 ・移植地内には、メバル、ウミナゴ等のアマモ場によく出現する魚類が多数観測された。 ・アオリイカやアメフラシなどの卵塊、ハゼ科やネズボ科の幼稚魚も確認された。 ・沿岸生物の産卵、生育場として機能していることを確認。 ・移植マウンドの洗掘や移植アマモが着生するかといった課題があった。 ・追跡調査の結果、洗掘は確認されず、種子からの発芽個体加入が行われ、長期的に分布域が拡大していると思われる。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	熊本県漁港海岸環境整備事業	その他	アマモ場造成1900m <sup>2</sup>	1989～1990年度
T-46	環境	海域	海域環境	・護岸空港島の埋立護岸は、経済性、海象条件、埋立後の土地利用等を考慮して4種類の護岸構造を採用しているが、護岸全長の約80%を占める約8.7kmには、周囲の海域環境に与える影響を軽減するとともに海域生態系の新たな生育場としての機能を持たせることを目的として緩傾斜石積護岸を採用している。	低減	1987～1991年度	-	緩傾斜護岸(8.7km)	不明	関西国際空港株式会社	あり	藻場の分布調査	記載では1996年まで	あり	・観察された藻類は、珪藻植物1種類、緑藻植物1種類、褐藻植物20種類、紅藻植物21種類の合計53種類を確認した。 ・海藻類の出現種類数は冬季に多く、夏季～秋季にかけて減少する季節変化を繰り返しながら徐々に増加しており、緩傾斜石積護岸における出現種類数は、直立護岸での出現種類数を常に上回っていることから、緩傾斜石積護岸が着生・成育に適した構造であることを示す。 ・空港島に創出された藻場は、カラム場が10.9ha(大阪湾全体のカラム場の26%)、海中林が20.3ha(大阪湾全体の海中林の5%)、テングサ場は10.5ha(大阪湾全体のテングサ場の16%)、アオサ場は7.3ha(大阪湾全体のアオサ場の4%)であることから、大阪湾全体の藻場面積が20年の間に減少している可能性が高いことを考えると、空港島藻場が大阪湾において果たしている役割は大きいものと考えられる。 ・出現した魚介類は、軟体動物11種類、節足動物5種類、棘皮動物6種、原索動物1種類、魚類86種類、ほ乳類1種類の合計110種類を確認した。 ・魚介類の出現種類数は夏季～秋季に多く、冬季に減少する季節変化を繰り返しながら徐々に増加しており、緩傾斜石積護岸における出現種類数は、直立護岸での出現種類数を常に上回ることから、緩傾斜石積護岸が魚介類の成育に望ましい構造であることを示す。 ・空港島全体の生物学的効果を明らかにするには、定量的な調査及び底生性魚類等も含めた多角的な調査を今後継続的に進める必要がある。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	関西空港護岸(これは関西国際空港建設事業関連)	飛行場	護岸全長11.2km、うち緩傾斜石積護岸8.7km	1987～1991年度
T-47	環境	海域	海域環境	近年において、海底に汚泥が堆積し、富栄養化や赤潮、貧酸素水塊(青潮)の発生など水質の悪化が進み、観光イメージのダウンを余儀なくされてきた。本事業は覆砂及び干潟造により汚泥からの溶出物の封じ込めを図るとともに、潮干狩りなどの海洋性レクリエーション地の造成により海域環境の創造を行う。	創造	1991～1998年度	-	干潟区域30ha、覆砂区域35ha	不明	愛知県土木部港湾課	あり	底質・水質調査、底生生物調査	平成9年度まで(記載されている調査結果年度)	あり	[底質] ・底質のCOD、強熱減量が大きく減少した。 ・覆砂区域の底質からのCODや栄養塩の溶出量と酸素消費量は、覆砂をしていない対象区域と比較してかなり低い水準で押さえられており、良質の砂による改善と封じ込めの効果が持続していることが確認された。 [水質] ・貧酸素水塊の発生する航路と覆砂実施区域との境に潜堤を設置した結果、潜堤が航路一帯に分布する貧酸素水塊の覆砂実施区域への広がりを妨げている効果が観測された。 [底生生物] ・事業実施前(平成4年)と実施中(平成9年度)の底生生物の調査結果より、平成4年度には環形動物門の占める割合が非常に多かったが平成9年度には減少し、軟体動物門の占める割合が多くなった。(一般に環形動物は水質、底質環境が良くなるにつれてその個体数増殖率は減少する)	記載なし	自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	三河港蒲郡地区シーブールー事業	その他	全体面積約65ha	1991～1998年度
T-48	環境	海岸・海辺	浅場(三枚洲)	・葛西沖に残されたハゼや水鳥の住む海「三枚洲」を保全するため	創造	1980～1989年度	-	・導流堤(磯に生息する生物の生息環境にも役立つよう石積式緩傾斜堤構造) ・渚の造成(68ha・水域含む)	不明	東京都港湾局	あり	海域環境調査(水質、底質、生物調査) ・記載されている項目:水質(COD、DO)、底質(強熱減量、硫化物、シルト・粘土分)、生物調査(底生生物、鳥類)	1972年度(事業実施前)から毎年	あり	・水質、底質については、周辺水域との交換があるせいか、目立った改善の傾向は認められない。底生生物についても同様である。飛来鳥類は、個体数、種類数も整備後の方が整備前よりも多い。(数値の相対比較) ・西なぎさの砂流出が多く、維持工事費の負担が大きい。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	葛西海浜公園	その他	開園面積411.7ha(うち水域411.5ha)	1980～1989年度
T-49	環境	海岸・海辺	人工海浜	記載なし	創造	1982～1993年度	-	人工海浜の造成と緑地の整備	・当該地区の埋立事業に併せて、埋立地の地先に失われた海岸線の再生と自然生態系の回復、並びに砂遊び、潮干狩り等市民レクリエーションの場としての利用を目的として、人工海浜の造成および緑地の整備を行った。	福岡市港湾局開発部環境対策課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判断は不明 ・海浜での生物相の早期回復のため、当所計画ではアサリなどの連いの放流を検討したが、モニタリング調査結果ではアサリ等底生生物の自然着底が確認されたことから、海浜生態系が順調に回復しているものと思われる。 ・砂の流出を防ぐために、突堤・離岸堤で人工海浜を取り囲んでいるため、堤防内が静穏な水域となり、アサリやゴミなどの清掃が必要である。また、砂の流出防止が完全でないため、毎年砂を補給している。	記載なし	自然とやさしい技術100事例(1994年2月、神奈川県環境部)	事業名不明・施行場所:福岡県福岡市中央区地行浜、早良区百道浜、西区愛宕浜	その他	人工海浜の延長約2.5km、人工海浜の面積10.1ha	1982～1993年度

環境保全措置事例一覧  
(7/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年	
T-50	環境	海岸・海辺	魚類	記載なし	創造	1987～1992年度	-	・親水性と水生生物に配慮した護岸に改良した。 ・階段式護岸の先の水面下に500kg内外の自然石を大量に沈めた(潜堤)。	・海岸保全としての機能を重視した直立護岸をやめて、親水性を持った水際の工夫が各地で取り組まれている。 ・一方、東京湾等の海域汚染に対しては、浅瀬や潮間帯の果たす効果が文献などにある。 ・本埋立地の一部護岸に海水浄化に寄与する自然石利用の潜堤を設計し、築造した。	横須賀市港湾部埋立事業課	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判断は不明・施設が完成したばかりであり、水質浄化の指標として、海生生物の付着状況を追跡調査(1993年2月)した結果、魚類、ムラサキイガイ、ツノマタ等の水生生物が確認され、当所の目的に近づきつつある。	記載なし	自然にやさしい技術100事例(1994年2月,神奈川県環境部)	事業名不明・施行場所:神奈川県横須賀市 横須賀港安浦地区	その他	施行延長 190m	1987～1992年度	
T-51	環境	海岸・海辺	魚類	記載なし	創造	1991年度	-	・人工リーフの断面に段差をつけることによる静穏域の形成と、生物着生を促す渦流が発生しやすい構造とした。 ・中積石を多く利用することにより、魚介類に適した構造を造成した。 ・近くに天然の藻場がないので、被覆ブロックの表面を海藻が着生しやすいように加工し、実験中である。	・小田原漁港海岸は海岸線の後退が著しく、海水浴場の減少、海岸後背の住宅に対する波浪影響、西湘バイパスに被災等多くの問題が指摘されている。 ・これらの問題に対して、単に海岸浸食対策だけでなく、漁業者や地元住民が安心して海岸、海域を利用できるように保全計画を進めている。 ・近年、景観や親水性に重点を置き比較的新しい工法として海面下となる人工リーフ工法が採用されてきた。 ・そこで、海岸保全や高潮対策だけでなく、付加的な目的として水産業の振興を併せ持つことで計画を進めている。	神奈川県西部漁港事務所	記載なし	記載なし	記載なし	なし	効果の判断は不明・高波の破壊騒音等については、沿岸住民により効果の評価を得ている。また、砂の還元状況も徐々に測定結果が表れている。浸食防止を図るとともに、構造物を作ることによって、海藻類が付着し、魚類などがよってきた。今後、これら構造物が魚礁効果を果たす役割が大きい。	記載なし	自然にやさしい技術100事例(1994年2月,神奈川県環境部)	事業名不明・施行場所:神奈川県小田原市本町地先小田原漁港海岸	その他	潜堤:幅18m、長さ120m 人工リーフ:幅50m、長さ200m	1991年度	
T-52	環境	海域		記載なし	創造	1972年度～	-	・浸漬岩を利用して人工魚礁を造成。	・関門航路の拡幅工事等の浸漬により発生した土砂は豊瀬及び菊田沖の土砂処分場等につつまれてきたが、1972年度以降関係漁業協同組合等の同意のもと、浸漬岩を利用して人工魚礁を造成することとなった。	不明	記載なし	・水質、底質調査、水中照度調査等 ・浮遊生物、付着生物、底生生物調査及び漁獲試験、水中観察等	記載なし	あり	・魚礁の造成により付着基盤が増え、魚類の主要な餌である付着生物の増加が見られ、魚礁が餌場としての機能を発揮。堤魚に対しては棲み場、隠れ場としての効果が期待できる。魚礁の素材が近(の海底から採取した)ものであり、人工魚礁に比べて海底の底質になじみやすいと考えられる。	記載なし	沿岸海洋研究ノート,第24巻,第1号,pp33～39,1986	事業名不明・施行場所:関門航路周辺	その他	人工魚礁:6地区 浸漬岩 17,500m <sup>3</sup>	1972年度～	
T-53	環境	干潟		記載なし	創造	1981～1986年度終了予定	-	・工事に伴って発生する浸漬土砂の処分として人工干潟の造成に活用する試み。	・瀬戸内海環境保全特別措置法に基づき、海面埋立が厳しく制限されており、港湾工事に伴い発生する土砂の処分が困難をきたしている。広島港では港湾整備が進められてきており、工事に伴って発生する浸漬土砂の処分として人工干潟の造成に活用する試みが行われた。	不明	記載なし	記載なし	記載なし	あり	・水質の環境改善等直接的な期待できないが、レクリエーション、水産活動の場あるいは野鳥等の生息場所など海辺の利用空間の拡大をもたらす。	記載なし	沿岸海洋研究ノート,第24巻,第1号,pp33～39,1986	事業名不明・施行場所:広島港	その他	人工干潟:18.4ha	1981～1986年度終了予定	
T-54	環境	底質環境	底質環境	記載なし	創造	不明	-	・水深21mの海底に覆土厚50cmの区域1.92ha、覆土厚30cmの区域4.48haを造成	・呉湾全域が底質のCOD濃度40mg/gを超える強汚染区域となっているため、この一角で覆砂の試験工事を実施した。	不明	記載なし	・底質含有量試験・溶出試験 ・底生生物調査	記載なし	あり	・覆砂をすることで比較的長期にわたって栄養塩の溶出を削減することが認められた。 ・生物回復効果は底生生物で見ると対照区は年間を通じて個体数は著しく少ないが、秋から冬にかけて多毛類を中心として個体数が増加する傾向がみられる。また、季節的には甲殻類の回復も見られ、覆砂によって底生生物の回復が図られるものと期待される。	記載なし	沿岸海洋研究ノート,第24巻,第1号,pp33～39,1986	事業名不明・施行場所:呉湾	その他	覆砂面積:6.4ha	不明	
T-55	環境	底質環境	底質環境	記載なし	創造	1987年	-	・覆砂の試験工事は、東西150m、南北100mの領域を厚さ50～60cmで実施された。用いた覆砂材は、湾口部の中山水道から汲み上げた海砂である。	・三河湾の汚染負荷は、総量及び単位面積あたり、単位体積当たりの負荷量は東京湾に比べて小さいが、かなり汚染されている。 ・この原因は種々考えられるが、汚染された底泥からの栄養塩の溶出も大きな原因であると考えられる。(運輸省の試算では、三河湾の底泥からの無機態磷の溶出は、湾周辺からの流入負荷の83%に相当) ・底泥からの栄養塩の溶出を削減するために、覆砂工法の現地実験を実施した。	運輸省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	・底質のCODは非常に小さい値を示しており、工事後6年の段階ではまだ効果が持続している。(ただし栄養塩は工事後1年は改善効果が見られたが、その後は徐々に増加している) ・覆砂区域の底生生物の個体数と種類数は、原地盤と比較して種類数は増加し、また、汚染に強い種が占める割合も低くなっている。	記載なし	沿岸海洋研究,第36巻,第1号,pp83～89,1998	事業名不明・施行場所:三河湾	その他	覆砂面積:15000m <sup>2</sup>	1987年	
T-56	貝類	二枚貝	二枚貝	干潟の有用作用であるため	創造	記載なし	-	・二枚貝増殖による干潟改良、海底面にD <sub>0</sub> を供給することによる底泥海域の改良をした。 ・形成されている砂州を切取盛砂してならし、地盤高の調整し、作れい工を併用した。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	m <sup>2</sup> あたりのアサリの生産量が増大した。	記載なし	ヘF口, No.58, 1993.9, pp17-24	事業名:不明・施行場所:愛知県福江湾	その他	記載なし	1982～1988年度
T-57	貝類	ホッキ貝	ホッキ貝	水産漁種の生育環境を考慮した事例である。	創造	記載なし	-	・人工リーフを水深6～7mに設置した。	・当該海岸は夏から秋にかけて風浪が激しく災害が頻発する海岸であったため、沖合に人工リーフを設置し、面的な防波を図ることとなった。 ・設置水深の問題で、地元水産関係者の反対をうけたため海岸保全施設の設置に伴う漁場への影響緩和方策を検討し、設置位置6～7mの地点に設置することとなった。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	・現在、施設設置後4年が経過しているが周辺生態系への影響は良好である。 ・当所懸念されていたホッキ貝への影響はなく、反対に増加傾向となっている。 ・人工リーフそのものが魚礁効果を有し、水産資源増加効果を発現している。	記載なし	ヘF口, No.60, 1994.5, pp30-36	事業名:不明・施行場所:北海道胆振海岸	その他	設置位置 6～7m	記載なし	
T-58	は虫類	アカウミガメ	アカウミガメ	・宮崎県住吉海岸一帯は、希少種として保護が要請されているアカウミガメの国内有数の産卵場として知られている。 ・しかし、同海岸では、高波浪による浸食によって海岸線が後退してきたためアカウミガメの産卵できる区域も減少した。	低減	1982年度～	-	・高波浪時の浜線の浸食に対する後退防止対策として緩傾斜護岸を施工している。 ・緩傾斜護岸の構造については、従来型の緩傾斜護岸では、護岸と砂浜の接合部周辺で層厚がないために産卵率が悪い点を考慮して、ブロックに段差をつけて層厚を確保できるようにアカウミガメへの配慮や吸い出し防止など年次毎に改良が加えられている。段差はアカウミガメの産卵穴の深さである50cmとしている。	・宮崎県では1988年からアカウミガメの陸域、海域における行動様式を調査し、それを踏まえた一つの対策手法として改良型緩傾斜護岸を設置した。 ・さらにその効果や既設構造物とアカウミガメの産卵行動の関係を調査するなどしてアカウミガメに配慮した浸食対策手法について検討している。	宮崎県土木部河川課	あり	・海域・陸域における行動様式調査・アカウミガメの産卵行動と海岸構造物	1988年度～	あり	・改良型緩傾斜護岸区域では、自然海岸区域と同程度に産卵率が高く、改良部分に砂が堆積している限りアカウミガメの産卵行動に大きな支障はないものと考えられる。 ・課題として、砂浜の減少は継続する傾向にあり、堆砂効果を有し砂浜の復元を図れる、より積極的な浸食対策方法の実施が求められている。このため、今後とも対策方法の検討とその効果やアカウミガメへの影響把握のための調査・検討が必要である。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター・港湾・海域環境研究所) ・ヘF口, No.60, 1994.5, pp30-36	宮崎県住吉海岸浸食対策事業	その他	全体計画延長 4,500m	1982年度～	

環境保全措置事例一覧  
(8/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-59	環境	底質環境	底質環境	飯閉鎖性海域である津田湾は、長年にわたる陸域からの流入負荷が湾内に蓄積し、海底に有機汚泥が堆積しているため	創造	1991～1993年度	-	・対象区域(420,000m <sup>2</sup> )に備置瀬戸航路浚渫工事で発生した良質土砂を活用・ ・覆砂適地及び覆砂層厚を事前検討し、航路浚渫により発生した砂を海底に覆砂して、直接的・二次的效果を追跡調査。	記載なし	運輸省第三港湾建設局	あり	・底質の溶出試験・ ・底質含有量試験・ ・粒度組成・ ・底生生物調査	1993～1996年度	あり	・底泥からの栄養塩類の溶出の削減と底泥有機物量の削減、底泥硫化物の減少が認められた。 ・底生生物については、覆砂区域内外と比較した結果、覆砂区域内の方が多様性指数が高く、良好であると考えられる。	記載なし	ヘド口.No.66,1996.5,pp62-72	津田湾シーブルー事業(覆砂事業)	その他	覆砂面積:420,000m <sup>2</sup>	1991～1993年度
T-60	環境	海岸・海辺	砂浜	記載なし	創造	1978～1979年度(養浜工事)	-	・面積約70ha(浜部約46ha、島部約24ha)、砂浜延長約1km、幅約90m・ ・養浜材料は山砂を使用・ ・基本形状は海底勾配は平均1:100と緩いこと、潮間帯を中心とした浅い部分における生態空間の確保などを前提条件とする。	この地域は、古くから金沢八景の名で知られ、特に計画地の海岸は潮干狩りの名所でもあった。このため、計画に当たっては、「魚や貝が生息し、潮干狩りもできる広々とした砂浜をつくる」等が目標としてあげられた。	横浜市港湾局	あり	・海浜地形・ ・水質調査・ ・砂浜の生物生息調査	1979～1996年度	あり	・海浜地形には大きな変化はみられない。 ・CODの年度平均値はほぼ一定である。 ・砂浜の主要な生物であるアサリ、バカガイ、シオフキガイの資源量及び個体数の経年変化より、資源量には変動がみられるものの、この変動は自然変動と見られ、砂浜の環境、生物の生息といった点においては、人為的管理の継続は必要であるものの、既に十分安定したとみなされる。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	横浜港金沢・海の公園(この事業は金沢地先埋立事業関連)	公有水面埋立及び干拓	記載なし	1978～1979年度(養浜工事)
T-61	環境	海岸・海辺	砂浜	古くから金沢八景の名で知られ、潮干狩りの名所でもあった。この事業計画の目標としては以下のような目標を掲げている。 ・魚や貝が生息し、潮干狩りもできる広々とした砂浜をつくること・ ・水と緑に囲まれた自然味のある空間をつくること・ ・水際と海を利用したレクリエーションの場とすること・ ・多様なレクリエーション活動にこたえられる場とすること・ 等	創造	1978～1979年度(養浜工事)	-	・砂浜の造成(浜部約46ha)	不明	横浜市港湾局	あり	記載されている調査のみを以下に示す。 ・海浜地形調査・ ・水質(COD)調査・ ・水生生物(アサリ、バカガイ、シオフキガイ)調査	1979～1994年度	あり	・海浜地形に大きな変化はみられない。 ・水質(COD)の年度平均値はほぼ一定である。 ・対象種の資源量に変動はみられるものの、この変動は自然変動とみられ、砂浜の環境、生物の生息といった点においては、人為的管理の継続は必要であるものの、既に十分安定したとみなされる	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	横浜港金沢・海の公園	その他	面積約70ha(浜部約46ha、島部約24ha)、砂浜延長約1km、浜約90m、砂浜砂量約110万m <sup>3</sup>	1978～1979年度(養浜工事)
T-62	環境	海岸・海辺	不明	海洋性スポーツレクリエーションゾーンとされている15号地海浜公園の先端部に、安全かつ快適に釣りや磯遊びができる人工磯を整備し、前面水域も公園区域とする計画を策定	創造	1984～1985年度	-	・人工磯:450m	不明	東京都港湾局	あり	・底生生物調査・ ・魚類調査	1980～1996年度	あり	調査は3エリアに分割し、実施された。人工磯はBエリアに位置する。 ・底生生物をみると、個体数はAエリアとBエリアでほぼ同様の傾向を示しており、1994年後半からは、それ以前に比べ減少したままである。一方、Cエリアにおいては、全体的に個体数が少なめの時期が長く、かつ増減の幅が大きい。また、他のエリアと比較すると、軟体動物門の割合が大きいものとなっている。 ・魚類についても、底生生物と同じく、個体数、種類数とも、Aエリア及びBエリアでほぼ同様の傾向を示しているが、Cエリアの種類数は全体的に少なめであり、特に平均個体数は、Aエリア及びBエリアの半分以下となっている。 ・以上の結果より、若洲海浜公園の周辺の水域環境は、Cエリアに比べて、Aエリア、Bエリアの方が良好であるといえる。 ・人工磯の存在と調査結果の直接的な関係については、今後、人工磯の近傍での調査を行い、従来から行っている調査箇所の結果と比較検討する必要がある。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	若洲海浜公園人工磯	その他	人工磯450m	1984～1985年度
T-63	環境	海域	海域環境	・松島湾内の悪化した水質や底質を改善し、日本三景松島の優れた自然環境や景観を保全することを目的とした松島湾リフレッシュ事業の一環として、海水交換の悪い松島港において、底泥からの溶出や底泥の巻き上げ等を抑制するため	創造	1992年度～継続中	-	・浚渫・覆砂:面積218ha、作湾:1,200m、人工海浜:1500m、アマモ造成:149ha	不明	宮城県土木部港湾課	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	・事業の詳細な効果は、事業の進捗に伴い、今後モニタリング調査を行って検討していく	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	松島湾シーブルー事業	その他	全体面積218ha、浚渫・覆砂面積218ha、作湾1,200m、人工海浜1500m、アマモ造成149ha	1992年度～継続中
T-64	環境	海域	海域環境	・内水域の底質改善などにより良好な海域を創造するため・ ・Iホ-トモデル事業の一環	創造	1994～2000年度	-	・覆砂:面積7.8ha	不明	横浜市港湾局	あり	・水質調査・ ・底質調査・ ・海生生物(底生生物、付着動物、魚介類)調査	覆砂前(1995年度)と覆砂後(1996年度)	あり	・水質について、覆砂の効果による明確な変化は確認できないが、数値自体は水質が概ね良好な状態にある。 ・底質では、含有量試験、溶出試験とも、覆砂前と比較して覆砂後で低い値を示しており、確実に改善が進んでいると考えられる。しかし、覆砂を行っていない区域との境界付近では、新たな汚泥の堆積がみられる。 ・底生生物では、個体数、湿重量が大幅に増えているが、出現種に関してはあまり変化がなく、生物層の変化までは至っていない。 ・付着生物の出現個体数、湿重量はともに概ね増加しているが、水質の影響を受けやすいことから、水質同様覆砂の効果による明確な変化は確認できない。 ・魚介類については、覆砂後、きれいな海に生息するウミナゴが確認されたことから、良好な環境が安定してきていると考えられる。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	横浜港新港地区シーブルー事業	その他	覆砂面積7.8ha	1994～2000年度

環境保全措置事例一覧  
(9/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-65	環境	海域	海域環境	・津田湾の水質環境の改善と良好な生態系を復元するため	創造	1991～1993年度	-	・覆砂面積:42ha	不明	運輸省第三港湾建設局	あり	・底質調査・ ・底生生物調査	1991～1996年度	あり	・底泥有機物量、硫化物量は、覆砂による減少効果がみられ、工事後5年以上経過した時点でもその効果は維持されている。 ・底泥粒径は、覆砂層では、覆砂下現地盤及び区域外より粒径が大きい値となっている。また、工事後5年以上経過した時点でも粒径は大きく、覆砂層は維持されていると考えられる。 ・底生生物において、覆砂区では底質環境の改善により、多様で豊富な底生生物が回復してきており、結果的には底魚類の多様化と生物量の増大が図られたものと考えられる。また、アサリやワタリガニ等の有用生物の増加にも繋がっており、漁獲量の増加による経済効果及び間接的には漁獲による栄養塩の取り上げ量の増大にも結びつくものである。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	津田湾シーブラー事業	その他	覆砂面積:42ha	1991～1993年度
T-66	環境	底質環境	底質環境	・底質から栄養塩などが溶出することを良質な土砂で覆うことにより抑制するとともに、底生生物の回復を促し、環境改善を図るため	創造	1989～1991年度	-	・覆砂:盛砂部 39,000m <sup>3</sup> 、覆砂部 13,000m <sup>3</sup> ・ ・潜堤:60m	不明	広島県空港港湾局	あり	・底質調査・ ・水質調査・ ・ペントスの浄化能力調査	1989～1993年度	あり	・覆砂部では、覆砂前後で大きな差異はみられなかった。盛砂部では、砂泥・泥質から砂質に変わったことで、COD1mg/g、強熱減量1%以下、硫化物で0.07mg/gであったが、酸化還元電位はマイナスを記録したところもあり、還元化の兆候が認められた。 ・水質(溶存酸素量)は覆砂事業と干潟造成事業を行う以前は、海底上1mの海水中の溶存酸素量は5.1～5.6mg/Lで、覆砂工事後では3.6～7.0mg/Lであった。 ・ペントスの浄化において、COD除去量は、干潟造成前には約5g/m <sup>2</sup> であったものが、造成後には約310～940g/m <sup>2</sup> に増大した。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	広島港シーブラー事業	その他	64,700m <sup>2</sup>	1989～1991年度
T-67	環境	海域	海域環境	・水質、底質などの海域環境を改善し、快適で潤い豊かな海辺の空間を創り出すため	創造	1988年度～継続中	-	・覆砂面積:7500ha、土量:37,500千m <sup>3</sup>	不明	運輸省第四港湾建設局	あり	・底質調査・ ・底生生物調査・ ・魚介類調査	1988～1997年度	あり	・底質について、覆砂区域は、COD、T-S、IL等で在来泥区域に比較して大きな改善効果が現れている。また、浮泥堆積厚はほとんど変化なく推移している。 ・底生生物について、覆砂区域は、在来泥区域に比較して種類数、個体数とも多くなっている。また、生物種の内容からも、覆砂区域には清浄海域の指標種であるゴカイやワレカラ等が生息していることから、覆砂により海域環境が改善されたことが認められる。 ・アサリの生育試験を行ったところ、在来泥区域では1年目までにほとんど死滅したのに対し、覆砂区域では60%以上の生存率となっている。 ・覆砂区域近傍において、覆砂施工前後の漁獲量を比較すると、覆砂施工後には大幅に漁獲量が増加しており、回遊魚、底魚等が相対的に増加している。 ・底曳網による漁獲物の出現種を分類すると、砂礫域、岩礁域を好む種が極めて多く、覆砂施工後の環境が砂礫性の環境になっていることを示している。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	周防灘シーブラー事業	その他	覆砂面積:7500ha、土量:37,500千m <sup>3</sup>	1988年度～継続中
T-68	生物全般	海生生物	海生生物	・特徴的な自然景観や破壊の進んでいない海生生物を含む生態系への影響を配慮するため	創造	1997年度～継続中	-	潜堤:L=150m、W=33m	不明	奥尻町	記載なし	記載なし	記載なし	なし	・背後地の国土及び自然景観を保持するとともに、生物の着生・増殖を促進させる施設を設置することにより、特にコンブ等の藻類が繁茂し、豊かな海生生物が生育する海岸が創出されるものと期待	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	奥尻港海岸エココースト事業	その他	潜堤:L=150m、W=33m	1997年度～継続中
T-69	環境	海域	海域環境	・良好な漁場を広域に形成させるための人工湧昇流発生構造物を設置し、底層の栄養塩を上層まで上昇させ、プランクトンを増殖させることにより、海域の生産力の増大を図るため	創造	1996～1998年度	-	湧昇流発生構造物の設置:3セット	不明	長崎県	記載なし	記載なし	記載なし	なし	漁獲量及び湧昇流による潮流、栄養塩、透明度などの環境条件を遡追調査する必要がある。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	長崎県五島東地区人工湧昇流造成事業	その他	湧昇流発生構造物の設置:3セット	1996～1998年度

環境保全措置事例一覧  
(10/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-70	植物	コンブ	コンブ	北海道でも有数のコンブ生産地である日高沿岸に位置する様似漁港の護岸建設に際して、護岸の越波低減、反射波低減機能を保持した上で、護岸前面の既存コンブ群落を保全し、新たなコンブ群落を創出するため	創造	1994～1995年度施工	-	西護岸消波工：L=200m	不明	北海道開発庁北海道開発局	あり	海藻現存量、種類数調査・底生動物調査	1993年度秋季に事前調査、施工後42ヶ月	あり	天然岩礁の海藻現存量は、季節変化が認められるが、変動幅は小さく安定している。施工後1年以上経過すると、傾斜堤前面法面及び背後小段の現存量は、天然岩礁の現存量と同様の季節変化を示しながら、天然岩礁の海藻現存量と同程度まで増加している。 ・傾斜堤前面法面及び背後小段の海藻種類数は、施工後1年以上経過すると、天然岩礁と同様な出現状況を示しながら、天然岩礁の海藻種類数に近づいている。 ・以上のことから、天然岩礁と同様なミツシコンブを優占種とする海藻群落の、複断面傾斜堤に形成されつつあることが推測される。 ・背後小段を有する複断面傾斜堤の海藻群落は、沖側と比べ「大型個体」「成熟」であることから、適度な波浪減衰効果が期待できる岸側は、沖側よりコンブ類の繁茂環境として好適であると考えられる。 ・背後小段を有する複断面傾斜堤に出現する底生動物の現存量及び種類数は、天然岩礁の海藻の季節的消長に合わせて、季節変化がみられる。また、海藻類の増加に伴うカマキリヨコエビ科、ワレカラ科等の葉上葉間動物の増加が認められ、それらを餌料とする幼稚仔魚の増集が観察されている。施工後1年以上を経過すると、傾斜堤前面の底生動物の現存量は、天然岩礁と同程度まで増加しているが、背後小段の底生動物の現存量は天然岩礁や傾斜堤前面法面と比べ、極めて少ない場であることが伺える。 ・潜水目視調査では、海藻群落に稚仔魚やアイナメ、カジカ等の魚介類の増集が観察されたことから、背後小段を有する複断面傾斜堤に形成された海藻群落が魚介類の生息空間として機能していることが確認されている。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	北海道様似漁港護岸	その他	消波工：L=200m	1994～1995年度施工
T-71	環境	磯根資源	磯根資源	・田老地区の漁業の振興を図るため。 ・主要な磯根資源であるアワビ、ウニを対象とした増殖場の造成するため	創造	1978～1980年度	-	・離岸潜堤：285.6m ・設置位置：真崎地先 ・母貝育成場：5,106m <sup>2</sup> ・幼稚仔育成場：4,357m <sup>2</sup>	不明	岩手県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	岩手県田老地区大規模増殖場開発事業	その他	開水面積 11.6ha	1978～1980年度	
T-72	環境	海岸・海辺	海岸	・新潟西海岸の新たな海岸浸食対策として、海岸地形をより安定的、持続的に防護、維持し、かつ、より快適で潤いのある海岸環境を創出するため	創造	1986年度～継続中	-	・潜堤：位置 現離岸堤沖合400m地点、延長 1,580m、天端幅 40m ・突堤：200m/基 ・養浜：延長 1,630m、養浜砂量 800km <sup>3</sup>	不明	運輸省第一港湾建設局	あり	・水質、底質調査・海生生物調査	不明	あり	水質、底質性状や動植物プランクトンの出現状況については、構造物の設置に伴う顕著な変化はみられないが、離岸堤、潜堤、突堤に付着する生物相は、工事の進捗状況に応じて変化する波などの周辺環境の影響を直接的に受けていることが示唆される。 ・新たに施工された構造物上では、一年目にはアナアサ等の小型緑藻類とカマキリヨコエビ等の小型移動性動物からなる生態系が、二年目以降にはワカメ等の大型褐藻類とムラサキガイ等の大型固着性動物からなる生態系に遷移する過程がみられる。このような遷移に伴い、単位面積当たりの生物量は増加している。 ・離岸堤、潜堤等の構造物に海藻類や付着性動物が着生することによって形成される生態系の単位面積当たりの現存量は、構造物の設置前の砂泥域生態系と比較して飛躍的に増大すると考えられる。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	新潟西海岸浸食対策事業	その他	潜堤：1,580m 突堤：4基(200m/基)、養浜：1,630m	1986年度～継続中
T-73	その他	サンゴ	サンゴ	・防波堤(消波ブロック被覆堤)を設置後2～3年の昭和59年、ブロック表面にサンゴの自然植生が発見され、20年経過した現在ではテーブルサンゴによりブロック表面がほぼ覆い尽くされる状況にあり、環境さえ整えば人工構造物上にもサンゴが成長し、周辺海域の生物生産力の回復に寄与することが確認された。しかし、同一年数が経過した構造物であっても、立地環境や表面形状によってサンゴの着生状況が異なっており、成長や着生に適した環境条件や構造物の存在が示唆されている。	創造	防波堤建設：1975年度～、サンゴ群落調査：1990年度～	-	サンゴの現状調査を行った。	記載なし	沖縄開発庁沖縄総合事務局	あり	・サンゴの着生過程に関する調査・サンゴの着生と環境条件に関する調査・サンゴの増殖と基質形状に関する調査	記載なし	あり	消波ブロック上のサンゴは、水深1m、3mで休息に成長し、水深5m以深では緩やかに成長している。また、種類数、群体系数は6～7年目をピークに減少している。これはサンゴの群体系が成長するに従って群体系間の競争等により死亡する群体系も現れ、群体系数や個体系数は減少すると考えられる。 ・傾度についてみると、0°(上向き)及び45°(斜め上向き)の面においてサンゴの生育が良好である。 ・異形ブロック上のサンゴ及びケーソン直立壁上のサンゴともに海水中の濁りの量に反比例して被度が低下している。 ・異形ブロック上のサンゴの被度と堤前面波高との関係について検討した結果、波高7～11mの範囲にサンゴの被度が高い地点が分布しており、これより波高が大きても小さくても被度は低下している。 ・粗度の大きな角材区、筋区ではサンゴの群体系数多く、粗度の小さなドリル区、ミ区、平滑区では群体系数が少ない傾向がみられる。これは、基質表面の粗度にプラスラ幼生が入り込みやすいことや、微少な渦流や滞留域が生じてプラスラ幼生の着底を促進すること等が原因と考えられる。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	那覇港防波堤	その他	新港第一防波堤：延長 3,380m	防波堤建設：1975年度～、サンゴ群落調査：1990年度～

環境保全措置事例一覧  
(11/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-74	環境	海域	海域環境	・三田尻中間港の防波堤は、閉鎖性湾の湾口に建設されることから、計画時の段階から環境(特に水質と水産)への影響が懸念されてきた。このため整備においては環境への配慮が必要であり、環境との共生を目指した防波堤として整備するため	創造	1994年度～継続中	-	・水質調査 ・生物調査	記載なし	運輸省第四港湾建設局	あり	・水質調査 ・生物調査	1994年9月～1996年1月(記載されている期間)	あり	・水質は、製作ヤードのコンクリート灰汁による影響及び掘削工事による影響はいずれも認められない。 ・海藻の種類数は、各試験礁とも1～6ヶ月後調査では極めて少なく、11ヶ月以降に増加したが、試験礁による差はあまり大きくなかった。 ・海藻の被度は、17ヶ月後調査時にサビ亜科や珪藻綱の増加によりやや目立つようになった以外は非常に少なかった。 ・付着動物の種類数は、各試験礁とも時間の経過とともに増加の傾向を示した。 ・付着動物の被度は、3ヶ月後調査にかけてフジツボ類やイソギンチャク類の増加により急増したが、その後減少の傾向を示した。 ・試験省の表面に堆積する浮泥が、生物の着生、生育を阻害する要因になっていると考えられる。 ・魚類の集積状況は、出現種類数は13～23種で、防波堤全体が魚礁効果を果たしていることが伺えた。また、平坦な試験礁より凹凸の大きな試験礁のほうが集積魚が多くみられている。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	三田尻中間港防波堤	その他	東防波堤: L=470m 西防波堤: L=300m	1994年度～継続中
T-75	環境	海域	海域環境	・湾奥漁業への影響に配慮し、海水交換が悪化しないこと。 ・桜島との間が狭隘となるため、潮流が速くならないように配慮すること。 等	創造	1985～1997年度	-	・そのため生態的特徴、現地において、成長と環境条件との関係などを求めるために現地調査を開始した。	記載なし	運輸省第四港湾建設局	あり	・潮流調査 ・海生生物調査	記載なし	あり	・防波堤内の海水は、半閉鎖性となったため、工事前と比べ停滞気味となるが、防波堤透水孔を通して海水の交換が生じており、海水の堆積緩和に寄与している。 ・防波堤の透水孔の効果として、海藻等の海生生物の付着及び魚類の集積がみられ、水質が良好であることが伺える。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	鹿児島港本港地区防波堤	その他	防波堤(南): 延長700m 防波堤(東): 延長700m	1985～1997年度
T-76	環境	海域	海域環境	・初夏になると蓄養魚が閉止する事故が多発したため。 ・底質についても流れ込んだ海藻等が港奥に堆積・腐敗し、これらが水質に悪影響を及ぼしていると考えられるため	創造	1991～1992年度	-	・潜堤付き孔空き防波堤:60m	記載なし	福岡市農林水産局	あり	・水質(DO、COD)調査 ・底質調査	1990～1994年度	あり	・DO飽和度は、湾奥部では実施前の調査で50%を下回るような値がみられたのに対し、実施後にはそのような値はみられず、昼夜を問わずほぼ一定の値を示し続けた。 ・CODは、実施前が4～7mg/Lであったのに対し、実施後は1～2mg/Lと大幅に改善された。 ・実施前の底質は、完全にヘドロ化しており硫化水素臭が感じられたと報告されていたが、実施後はヘドロ状であったものの硫化水素臭はなかった。特に、導水工付近及び港口部での実施後の強熱減量は小さくなり、底質中の有機物がかなり除去された。粒度試験の結果でも泥分が減少し、改善効果がみられた。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	福岡県志賀島漁港防波堤	その他	潮通し部60m	1991～1992年度
T-77	貝類	ホッキ貝	ホッキ貝	・石狩湾新港では、静穏度確保のために防波堤が建設されているが、防波堤の建設に伴い有用種であるホッキ貝の資源量が増大し、港湾構造物のミチゲーション効果が確認された。	創造	1972～1992年度	-	東防波堤:延長500m、島防波堤:延長1,150m、北防波堤:延長3,900m	記載なし	北海道開発庁北海道開発局	あり	・資源量及び環境調査	1970～1992年度	あり	・ホッキ貝の漁獲量は、昭和47年の防波堤施工とともに増加しており、特に昭和53年以降は急激に増加している。 ・石狩地区及び周辺の小樽、厚田地区におけるホッキ貝の成貝個体数を比較すると、石狩及び小樽地区の個体数が多い。 ・石狩湾新港周辺の資源量調査より、防波堤の建設が進むにつれて資源量の増加が認められる。この原因としては、石狩湾新港の影響、水質等その他の要因が総合的に関わり合ったものと考えられる。 ・石狩湾新港の東側と西側の資源量を比較すると、建設当初は東側の方が西側より資源量が多く、これは東側が、環流による滞留域であり、浮遊幼生の着底が促進されたものと推測される。 ・水温をみると、港内は港外に比較して1程度高くなっているが、経年的に漁獲量、資源量との明確な相関は認められない。溶存酸素量や中央粒径及び波浪についても特に相関が認められない。 ・海浜流の数値シミュレーションによると、東防波堤の基部及び北防波堤の両端では、港湾構造物によって海浜流が変化し、渦流域が出現している。その渦流域とホッキ貝稚貝の発生域は概ね一致していることが明らかになった。	記載なし	・自然と生物にやさしい海域環境創造事例集(平成11年11月、財団法人港湾空間高度化センター港湾・海域環境研究所)	石狩湾新港防波堤	その他	東防波堤:延長500m 島防波堤:延長1,150m 北防波堤:延長3,900m	1972～1992年度
T-78	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	不明	銅製セルダムの設置	記載なし	秩父土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	埼玉県皆野町五十新田沢砂防ダム	その他	記載なし	記載なし
T-79	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	不明	捨て石工、祖染欄、蛇籠をつかい水際線に変化を持たせた。石を使って流速に変化を持たせた。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	ニヶ領本川	その他	記載なし	記載なし
T-80	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	不明	ワンド(止水域)、水制の設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	愛知県木曾川	その他	記載なし	記載なし
T-81	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	不明	水制の設置	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	三重県出雲川	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(12/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-82	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	不明	租租架の設置	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	新潟県荒川水系堤沢川	その他	記載なし	記載なし
T-83	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	不明	租租架の設置	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	北海道幌内川	その他	記載なし	記載なし
T-84	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	魚巣ブロック	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	埼玉県荒川水系露川	その他	記載なし	記載なし
T-85	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	木杭、木柵	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	埼玉県利根川水系綾瀬川	その他	記載なし	記載なし
T-86	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	護岸に捨石護岸工を施工し、所々にバンドを形成。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	鳥取県日野川水系日野川	その他	記載なし	記載なし
T-87	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	低水護岸を空石張りにした。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	青森県岩木川水系大和沢川	その他	記載なし	記載なし
T-88	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	不明	植栽ブロックによる護岸の緑化	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	埼玉県坂戸市荒川水系飯盛川	その他	記載なし	記載なし
T-89	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	不明	蛇籠工	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	埼玉県嵐山町荒川水系都幾川	その他	記載なし	記載なし
T-90	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	ダム護岸、法面の在来種による植栽	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	愛媛県野村ダム	その他	記載なし	記載なし
T-91	両生類	アズマヒキガエル	アズマヒキガエル	記載なし	代償	記載なし	不明	ボックスカルバートのカエル道を設置し、産卵場所と生活場所をつないだ。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	神奈川県箱根町	その他	記載なし	記載なし
T-92	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	全面越流型階段式魚道を改良し隔壁の中央部に非越流部を設けた魚道の設置。	記載なし	東松山土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	埼玉県荒川水系都幾川	その他	記載なし	記載なし
T-93	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	表面を玉石張りにした魚道の設置	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	群馬県利根川水系栗沢川	その他	記載なし	記載なし
T-94	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	鋼製スリット型砂防ダムの設置	記載なし	熊谷土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	埼玉県寄居町日影沢	その他	記載なし	記載なし
T-95	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	スリット型砂防ダム	記載なし	飯能土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	埼玉県飯能市藤入	その他	記載なし	記載なし
T-96	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	工事用道路に表土(良質土厚さ50cm)を客土し、植栽を含む緑化工事を実施して自然環境の復元(再自然化)を行った。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	一般国道28号	その他	記載なし	記載なし
T-97	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	記載なし	不明	水鳥の生息地を通過するため、通行車両のヘッドライトに対して高欄上に高さ1mの遮光壁を設置した。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	東京都首都高速道路湾岸線	その他	記載なし	記載なし
T-98	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	記載なし	不明	カワウの繁殖地である鶴の山を通過するため、夜間のヘッドライトからカワウの生息環境を保護するため遮光シェルターを設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部 埼玉県土木部、自然との共生を目指す道づくり建設省・財団法人道路環境研究所・エコロード検討委員会、道路建設における自然環境保全事例調査報告書 日本道路公団・財団法人道路環境研究所	愛知県南知多道路	その他	記載なし	記載なし
T-99	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	記載なし	不明	天然記念物である野鳥への光による影響を緩和するため、高欄照明を採用した。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	首都高速道路2号線	その他	記載なし	記載なし
T-100	昆虫	ヒメボタル	ヒメボタル	記載なし	代償	記載なし	不明	ヒメボタルへの光による影響を緩和するため、高欄照明を採用した。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	名古屋市長古屋高速道路	その他	記載なし	記載なし
T-101	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	記載なし	不明	照明にルーバーを取り付けて光の拡散を抑える灯具とし、谷津干潟に渡来する鳥類への光による影響をできる限り軽減している。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	関東自動車道路(船橋市若松～習志野市秋津区間)	その他	記載なし	記載なし
T-102	生物全般	小動物	小動物	記載なし	代償	記載なし	不明	小動物脱出用のスロープが着いた側溝を設置。	記載なし	JH横浜	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部 埼玉県土木部、自然との共生を目指す道づくり建設省・財団法人道路環境研究所・エコロード検討委員会	横浜横須賀道路釜利谷ジャンクション	その他	記載なし	記載なし
T-103	両生類	モリアオガエル	モリアオガエル	記載なし	代償	記載なし	不明	モリアオガエルの産卵場所である池が失われることになったので、産卵場所の代替池を設置した。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	栃木県日光宇都宮道路	その他	記載なし	記載なし
T-104	植物	ヨシ、ヤナギ群落	ヨシ、ヤナギ林	記載なし	代償	記載なし	不明	道路によって失われるヨシ・ヤナギを湖岸に移植した。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	滋賀県琵琶湖湖周道路	その他	記載なし	記載なし
T-105	環境	湿原・湿地	湿原・湿地	記載なし	代償	記載なし	不明	インターチェンジ内に既存用水路の水利用により池と湿地を造成し、ピオトープを設置した。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	熊谷バイパス行田インターチェンジ	その他	記載なし	記載なし
T-106	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	コナラ、クヌギ、アラカシ、ヤマモモなどの苗木を植栽し、雑木林作りを行っている。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	神奈川県東名高速道路	その他	記載なし	記載なし
T-107	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	潜在自然植生による幼苗植栽	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	東京都国道16号線拝島	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(13/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-108	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	トンネル化	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	日光宇都宮道路鳴虫山(日光国立公園特別地域)	その他	記載なし	記載なし
T-109	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	トンネル化	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	本州四国連絡橋児島-坂出ルート(瀬戸内海国立公園特別地域)	その他	記載なし	記載なし
T-110	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	トンネル化	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	一般国道56号(国指定天然記念物ミカドアガハの食樹保全)	その他	記載なし	記載なし
T-111	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	トンネル化、橋梁の工夫	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	一般国道108号線鬼首道路(栗駒国定公園)	その他	記載なし	記載なし
T-112	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	トンネル化、橋梁の工夫	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	道道小樽定山溪線(支笏湖鯉国立公園)	その他	記載なし	記載なし
T-113	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	橋梁の工夫	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	一般国道329号線那覇東バイパス(国設鳥獣保護区)	その他	記載なし	記載なし
T-114	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	橋梁の工夫	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	道央自動車道路(ミズバショウ群生地の保全)	その他	記載なし	記載なし
T-115	魚類	イタセンバラ	イタセンバラ	記載なし	低減	記載なし	-	橋梁の工夫(国指定天然記念物であるイタセンバラなどが生息するワンドを保全するため、橋脚数を減らす斜張橋が採用された。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	大阪市菅原城北大橋(国指定天然記念物の保全)	その他	記載なし	記載なし
T-116	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	橋梁の工夫	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	埼玉県エコシビルエンジニアリングガイドブック 平成9年3月 埼玉県土木部	一般国道169号奥静道路	その他	記載なし	記載なし
T-117	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	多自然型川づくり。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT,(財)リバーフロント整備センター 1995.9 1995.9 鳥谷幸宏	ふるさとの川モデル事業	その他	高橋川700m、仁助川1000m	記載なし
T-118	両生類	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	記載なし	代償	記載なし	不明	多自然型川づくり、低々水路の設置、空隙のある護岸、魚やオオサンショウウオが移動できる落差工、玉石・転石の設置。	記載なし	記載なし	あり	放流オオサンショウウオの成長程度	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT,(財)リバーフロント整備センター 1995.8 1995.8 鳥谷幸宏	災害復旧助成事業	その他	円山川11.6km	記載なし
T-119	環境	河川	河川	記載なし	代償	平成4年頃	不明	多自然型川づくり、畑地となっている旧河道を流川として再生、延長約700m、川幅約35m低水路幅10-13m、現地発生の巨石、ネコヤナギ等自然素材の利用、瀬の再生、河岸処理は左岸側は自然石の空積工と柳枝工、右岸側は杭橋工、置石工、編築工、空石積工、飛び石状の置石工の設置による自然の瀬の再現	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT,(財)リバーフロント整備センター 1995.7 1995.7 鳥谷幸宏	河川局部改良事業	その他	記載なし	記載なし
T-120	環境	河川	河川	記載なし	代償	昭和57-58年頃	不明	多自然型川づくり、河道断面の複断面化による低水路と陸部の形成、低水路の蛇行化、人工の瀬、流れの変化を考慮した飛石工の設置ほか。	記載なし	(事業者)	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT,(財)リバーフロント整備センター 1995.6 1995.6 鳥谷幸宏	(横浜市河川部)	その他	記載なし	昭和57-58年
T-121	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	不明	多自然型川づくり、巨石を用いた低水路護岸整備、ホテルの広場、整備。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT,(財)リバーフロント整備センター 1995.5 1995.5 昌子宏	(建設省山口工務事務所)	その他	記載なし	記載なし
T-122	環境	河川	河川	記載なし	代償	平成4年以降	不明	多自然型川づくり、二種類の多自然型護岸。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT,(財)リバーフロント整備センター 1995.5 1995.5 鳥谷幸宏	(建設省熊本工務事務所)	その他	記載なし	平成4-5年
T-123	環境	河川	河川	記載なし	代償	平成4年度	不明	多自然型川づくり、平面計画では流路は蛇行を基本、一部に中の島を設け多様化する、屈曲部はあらかじめ拡幅、横断形状は断面をより広く取り低水路を設ける、低水路護岸は空石積あるいは蛇籠工+ヤシ繊維籠工、流れの変化確保のために流路直角方向に自然石配置、低水路上に小水路設け小支川と連絡。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT,(財)リバーフロント整備センター 1995.4 1995.5 鳥谷幸宏	(静岡県島田土木事務所)	その他	記載なし	平成4年
T-124	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	不明	多自然型川づくり、既設ブロック護岸を取り壊して実施、渓谷状のところを手をつけず保全する区間、周辺公園と一体化を図った水辺の触れ合い区間。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT,(財)リバーフロント整備センター 1995.10 1995.10 鳥谷幸宏	精進川改修工事	その他	約3km	記載なし
T-125	哺乳類	エゾシカ	エゾシカ	エゾシカと自動車の衝突が頻発	代償	1993-1996	不明	線形の改善	学識経験者を含めた会議を設置し、原因の解明と対策を検討した	北海道開発局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	エゾシカの衝突は減少した、最も事故の多い区間に設置された移動路(橋梁)では、エゾシカの通過が確認されている。	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集:亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道334号	一般国道	記載なし	1993-1996	
T-126	哺乳類	エゾシカ	エゾシカ	エゾシカと自動車の衝突が頻発	代償	1993-1996	不明	移動路の設置と誘導	記載なし	北海道開発局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	エゾシカの衝突は減少した、最も事故の多い区間に設置された移動路(橋梁)では、エゾシカの通過が確認されている。	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集:亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道335号	一般国道	記載なし	1993-1996	
T-127	哺乳類	エゾシカ	エゾシカ	エゾシカと自動車の衝突が頻発	代償	1993-1996	不明	侵入防止柵の設置	記載なし	北海道開発局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	エゾシカの衝突は減少した、最も事故の多い区間に設置された移動路(橋梁)では、エゾシカの通過が確認されている。	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集:亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道336号	一般国道	記載なし	1993-1996	
T-128	哺乳類	エゾシカ	エゾシカ	エゾシカと自動車の衝突が頻発	代償	1993-1996	不明	標識の設置	記載なし	北海道開発局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	エゾシカの衝突は減少した、最も事故の多い区間に設置された移動路(橋梁)では、エゾシカの通過が確認されている。	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集:亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道337号	一般国道	記載なし	1993-1996	
T-129	哺乳類	エゾシカ	エゾシカ	エゾシカと自動車の衝突が頻発	代償	1993-1996	不明	誘引を少なくする植栽	記載なし	北海道開発局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	エゾシカの衝突は減少した、最も事故の多い区間に設置された移動路(橋梁)では、エゾシカの通過が確認されている。	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集:亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道338号	一般国道	記載なし	1993-1996	

環境保全措置事例一覧  
(14/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年		
T-130	魚類	魚類全般	魚類	落差工を施工したがこの河川までサケ、マスが遡上する	代償	1991	供用	不明	魚道(サケ、マス)の改善、階段形式の落差工をスロープ式の落差工に改善した	カルバートボックス設置箇所が生息する魚の遡上を阻害する可能性があるため	北海道開発局	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道40号	一般国道	記載なし	1991	供用	
T-131	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	1978	-	線形の検討	道路の縦断勾配をできるだけ地形にすり付けるような線形を検討	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	北海道縦貫自動車道(道央自動車道)	高速自動車国道	記載なし	1978		
T-132	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	1978	-	広幅員の中央分離帯と路側帯を確保	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	北海道縦貫自動車道(道央自動車道)	高速自動車国道	記載なし	記載なし		
T-133	植物	ミズバショウ	ミズバショウ	北海道内有数のミズバショウ群生地であるため	低減	1983	-	橋梁型式の検討	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ミズバショウの群生地は保全された	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	北海道縦貫自動車道(道央自動車道)	高速自動車国道	記載なし	1983		
T-134	植物	ミズバショウ	ミズバショウ	北海道内有数のミズバショウ群生地であるため	低減	1983	-	施工時の配慮	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ミズバショウの群生地は保全された	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	北海道縦貫自動車道(道央自動車道)	高速自動車国道	記載なし	1983		
T-135	鳥類	鳥類全般	鳥類	サギ類の集団生息地は、特別な保護指定はなされていないが、市街地に隣接する生息地として貴重であると考えられたため	低減	1992	3月対策工施工	-	集団生息地の拡大防止のためのネットを設置	集団営巣地の拡大を防止し路線との接触を回避するため	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	南方方向への拡大を防止することができた	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道7号(秋田南バイパス)	一般国道	記載なし	1992	3月対策工施工
T-136	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	1987	竣工	-	道路構造(陽壁の設置・切土勾配の検討)	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道48号(仙台西道路)	一般国道	記載なし	1987	竣工	
T-137	植物	植物全般	植物	記載なし	低減	1987	竣工	-	既存樹木の移植	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道48号(仙台西道路)	一般国道	記載なし	1987	竣工	
T-138	生物全般	動植物	動植物	日光国立公園特別地域内を通過するため	低減	1981	-	トンネルの採用	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	植生や生物相を保全することができた	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	日光宇都宮道路	高速自動車国道	記載なし	1981		
T-139	生物全般	動植物	動植物	日光国立公園特別地域内を通過するため	低減	1981	-	線形の検討	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	日光宇都宮道路	高速自動車国道	記載なし	1981		
T-140	生物全般	動植物	動植物	日光国立公園特別地域内を通過するため	低減	1981	-	橋梁の採用	山麓部分は生き物にとって重要な環境であるため	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	日光宇都宮道路	高速自動車国道	記載なし	1981		
T-141	生物全般	動物	動物	日光国立公園特別地域内を通過するため	代償	1981	不明	移動経路の確保	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	日光宇都宮道路	高速自動車国道	記載なし	1981		
T-142	生物全般	動物	動物	日光国立公園特別地域内を通過するため	代償	1981	不明	立入防止柵の検討	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	日光宇都宮道路	高速自動車国道	記載なし	1981		
T-143	両生類	モリアオガエル	両生類	日光国立公園特別地域内の通過でモリアオガエルの生息地が確認されたため	代償	1981	不明	モリアオガエルの産卵池の整備	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	新たな代替産卵池の利用がある	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	日光宇都宮道路	高速自動車国道	記載なし	1981		
T-144	植物	植物全般	植物	日光国立公園特別地域内を通過するため	代償	1981	不明	表土の保全・復元	記載なし	日本道路公団	あり	記載なし	記載なし	あり	復元されたのりに植栽された樹木の生育は極めて良好で、道路周辺に対する影響も最小限にとどまった	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	日光宇都宮道路	高速自動車国道	記載なし	1981		
T-145	昆虫	ハッチョウトンボ	ハッチョウトンボ	小津山自然公園で最小の種であるハッチョウトンボの生息確認されたため	代償	1985	竣工	不明	貴重種(ハッチョウトンボ)の移設	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	常磐自動車道	高速自動車国道	記載なし	1985	竣工	
T-146	哺乳類	ニホンカモシカ	哺乳類	ニホンカモシカの生息地域で野生動物の衝突事故が発生したため	代償	1991	竣工	不明	立入防止柵の改善(乗上げ)	通行車両の安全と野生動物の保全に防止が必要	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	東北横断自動車道(山形自動車道)	高速自動車国道	記載なし	1991	竣工	
T-147	生物全般	動物	動物	近郊緑地特別保全地区、鳥獣保護区指定のため	低減	82/02/01	-	線形の検討	記載なし	首都高速道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	首都高速道路 湾岸線	首都高速道路等	記載なし	82/02/01		
T-148	生物全般	動物	動物	近郊緑地特別保全地区、鳥獣保護区指定のため	代償	82/02/01	不明	照明設備の検討	記載なし	首都高速道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	首都高速道路 湾岸線	首都高速道路等	記載なし	82/02/01		
T-149	生物全般	動物	動物	近郊緑地特別保全地区、鳥獣保護区指定のため	代償	82/02/01	不明	遮光板の設置	記載なし	首都高速道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	首都高速道路 湾岸線	首都高速道路等	記載なし	82/02/01		
T-150	生物全般	水生生物	水生生物	ホテルやトンボ、カエルなどが多く生息しているため	代償	1990	3月竣工	不明	水生生物の生息する環境の創出	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	横浜横須賀道路	首都高速道路等	記載なし	1990	3月竣工	
T-151	鳥類	鳥類全般	鳥類	ヤマガラスなどの野鳥類や身近な生き物が多く生息しているため	代償	1993	3月対策工竣工	不明	野鳥の繁殖環境の創出	供用後の道路に営巣環境を整備することでのような生き物が生息するのを試験施工した	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	シジュウカラやヤマガラスなどのカラ類やキツキツキ類の利用が認められたが、セキレイ類やフクロウの利用までは認められていない	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	横浜横須賀道路	首都高速道路等	記載なし	1993	3月対策工竣工	

環境保全措置事例一覧  
(15/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-152	鳥類	鳥類全般	鳥類	ヤマガラなどの野鳥類や身近な生き物が多く生息しているため	代償	1993年3月対策工竣工	不明	橋脚の緑化	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	横浜横須賀道路	首都高速道路等	記載なし	1993年3月対策工竣工
T-153	植物	植物全般	植物	貴重な植物や良好な大径木が生育しているため	代償	1985年3月竣工	不明	貴重な植物の移植	移植後の生育状況で必ずしも良好な結果を得ていない場合があるため	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	八王子バイパス	一般国道	記載なし	1985年3月竣工
T-154	生物全般	小動物	小動物	記載なし	代償	1992	不明	脱出可能な構造の拵への改善	小動物が転落しても自力で脱出できるようにするため	神奈川県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	県道514号	一般国道	記載なし	1992
T-155	生物全般	動物	動物	シカなどの大型動物の移動が阻害される可能性があるため	代償	1991~1992	不明	移動路の設置	記載なし	神奈川県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	神奈川県 滝沢林道	大規模林道	記載なし	1991~1992
T-156	植物	植物全般	植物	オオシラビソ群落、ウラジロモミ群落等の貴重な植生域、多様な鳥類やほ乳類の生息環境になっているため	代償	記載なし	不明	自生種によるのり面植栽	記載なし	建設省	あり	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	中部縦貫自動車道(安房峠道路)	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-157	生物全般	動物	動物	けもの道の多くが遮断され、これまでの生息域や分布状態に変化を引き起こす可能性の高いことが予測されたため	代償	1981	不明	移動路の設置	記載なし	長野県	あり	動物の調査	記載なし	あり	けもの道用のボックスカルバートの出入口付近で動物の足跡や毛、糞等確認、通行車両と動物の衝突事故の減少	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	県道美ヶ原公園東餅屋線(霧ヶ峰有料道路美ヶ原線)	その他	記載なし	1981
T-158	生物全般	動物	動物	けもの道の多くが遮断され、これまでの生息域や分布状態に変化を引き起こす可能性の高いことが予測されたため	代償	1986	不明	表土の保全・復元	富士山の火山活動によって多様な土壌が形成されており、それに起因する生物相や生態系が発達していたため	長野県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	県道美ヶ原公園東餅屋線(霧ヶ峰有料道路美ヶ原線)	その他	記載なし	1981
T-159	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1986	不明	自生種による植栽	植栽計画で周辺の樹林構造を調べ、将来的に同様な構造が形成されるような密度と形状を検討した	日本道路公団	あり	植生調査	記載なし	あり	植栽木の健全な生育と道路周辺の生物相の急速な回復が報告され、対策は効果があった	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	東富士五湖道路	一般国道	記載なし	1986
T-160	哺乳類	哺乳類全般	哺乳類	イノシシ、キツネ、タヌキ、ニホンカモシカなどの動物が生息するため	代償	1981	不明	移動路の設置	多くのけもの道が遮断されることが予測されるため	愛知県道路公社	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	県道茶臼山高原設楽線(茶臼山高原道路)	一般国道	記載なし	1981
T-161	鳥類	カワウ	カワウ	カワウの繁殖地を通過するため	代償	1969年4月竣工	不明	遮光トンネルの設置	通行車両の前照灯がカワウの繁殖に影響を及ぼす可能性があると予測されたため	愛知県道路公社	あり	カワウの調査	記載なし	あり	カワウの分布域は10年前から変化がないことや、現在でも、道路周辺で約800個体(1989年)の生息が確認されている	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	半田南知多公園線(南知多道路)	一般国道	記載なし	1969年4月竣工
T-162	鳥類	カワウ	カワウ	カワウの繁殖地を通過するため	代償	1969年4月竣工	不明	施工時の対応(2~3月の産卵期における遮光トンネル工事を避け、夜間工事は行わないようにした。)	記載なし	愛知県道路公社	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	半田南知多公園線(南知多道路)	一般国道	記載なし	1969年4月竣工
T-163	生物全般	動物	動物	伊勢志摩国立公園特別地域や神社林等の自然環境をもつ地域を通過するため	代償	1992	不明	オーバーブリッジ式の移動路の設置	人間と動物の両方の利用が可能になるように配慮するため	日本道路公団	あり	記載なし	記載なし	効果の検証待ち	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	半田南知多公園線(南知多道路)	一般国道	記載なし	1969年4月竣工	
T-164	鳥類	鳥類全般	鳥類	伊勢志摩国立公園特別地域や神社林等の自然環境をもつ地域を通過するため	代償	1992	不明	鳥類の横断誘導植栽	記載なし	記載なし	あり	記載なし	記載なし	記載なし	植栽された樹木が十分成長していないため、効果は不明	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	近畿自動車道 関伊自動車道	高速自動車国道	記載なし	1992
T-165	環境	河川	植物	天然記念物のイタセンバラやユモドキなどが生息するワンドの発達し、右岸側高水敷にヨシ原があるため	低減	1981	-	橋梁型式の検討	記載なし	大阪市	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	菅原城北大橋(淀川)	その他	記載なし	1981
T-166	生物全般	動物	動物	野生動物の衝突事故発生のため	代償	1991~1992(対策工竣工)	不明	立入防止柵の改善	全区間にわたって立入防止柵の調査を行い、侵入防止の対策を検討した	阪神高速道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	阪神高速道路 北神戸線	高速自動車国道	記載なし	1991~1992(対策工竣工)
T-167	両生類	オオサンショウウオ	両生類	オオサンショウウオが生息する河川があるため	代償	1992	不明	オオサンショウウオの移動可能な水路の検討	実験の結果をもとにオオサンショウウオが歩行することのできる構造を検討した	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	中国横断自動車道(岡山米子線)	高速自動車国道	記載なし	1992
T-168	は虫類	カメ	両生類	通行車両によるカメの轢死が多く発生したため	代償	1978供用・1986対策工竣工	不明	立入防止柵の改善(金網の併設)	道路が繁殖地に向かう経路を分断しているため	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	中国縦貫自動車道	高速自動車国道	記載なし	1978供用・1986対策工竣工
T-169	植物	シロバナカザグルマ	シロバナカザグルマ	シロバナカザグルマの自生地を通過するため	回避	1987	-	橋梁の採用	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	近畿自動車道	高速自動車国道	記載なし	1987
T-170	植物	シロバナカザグルマ	シロバナカザグルマ	シロバナカザグルマの自生地を通過するため	低減	1987	-	天然記念物(シロバナカザグルマ)の移植	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	近畿自動車道	高速自動車国道	記載なし	1987
T-171	昆虫	ゲンジボタル	ゲンジボタル	ゲンジボタルの生息地	低減	1983~90	-	片棧道型式の採用	記載なし	徳島県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道193号	一般国道	記載なし	1983~90
T-172	植物	イブキ	イブキ	天然記念物のイブキがあるため	回避	記載なし	-	路線の選定	保全する対象に対し、路線選定段階で検討	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道11号(川之江三島バイパス)	一般国道	記載なし	記載なし	

環境保全措置事例一覧  
(16/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-173	昆虫	ミカドアゲハ	ミカドアゲハ	ミカドアゲハとその生息地が特別天然記念物に指定されているため	回避	1991	1991	トンネルの採用	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道56号(土佐道路)	一般国道	記載なし	1991
T-174	哺乳類	ニホンザル	哺乳類	トンネル部の尾根がニホンザルの主要な渡り道となっているため	代償	1989	1989	ニホンザル専用のオーバーブリッジ式移動路の設置	ニホンザルの渡り道が離れているので移動を容易にするため	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	九州横断自動車道(大分自動車道)	高速自動車国道	記載なし	1989
T-175	哺乳類	哺乳類全般	哺乳類	野生動物の衝突事故発生のため	代償	1981	1981	立入防止柵の改善	通行の安全性の確保と野生動物の保全のため、衝突を発生させない対策が必要になったため	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	九州縦貫自動車道・九州横断自動車道	高速自動車国道	記載なし	1981
T-176	植物	植物全般	植物	ヤブツバキ林に対する改変が大きいことが明らかになったため	低減	1984	1984	擁壁の採用	当初、長大な盛土構造であったため	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道224号	一般国道	記載なし	1984
T-177	環境	干潟	干潟	漫湖鳥獣保護区に指定され、バードウォッチングが楽しめる場所	低減	1987	1987	橋梁形式の検討	鳥獣保護区の干潟に出現する鳥類の飛来と飛翔の状況を検討	沖縄総合事務局	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道329号(那覇東バイパス)	一般国道	記載なし	1987
T-178	環境	干潟	干潟	記載なし	低減	1987	1987	施工時の配慮(騒音低減、干潟の形状をできるだけ変えない)	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	一般国道329号(那覇東バイパス)	一般国道	記載なし	記載なし
T-179	生物全般	小動物	小動物	キシノウエトカゲ、ミノウズラ、モクスガなどの小動物が生息しているため	代償	1993	1993	脱出可能な側溝の設置	小動物が転落しても自力で脱出できるようにするため	沖縄県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	県道白浜南風見線	一般国道	記載なし	1993
T-180	昆虫	カラスシジミ	カラスシジミ	カラスシジミの生息地を分断することが明らかになったため	代償	記載なし	記載なし	代替生息環境の復元・創出	記載なし	イギリス交通省(DOT)	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	イギリス M40	その他	記載なし	記載なし
T-181	両生類	カエル	両生類	産卵期にカエルのロードキルが発生するため	代償	記載なし	記載なし	侵入防止柵の設置	カエルの生息地と繁殖池をつなぐ移動路を横断して道路が建設され、ロードキルが発生したため	チューリッヒ州(段差や柵の設置作業は自然保護団体による)	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコロード 生き物にやさしい道づくり 編集: 亀山章 ソフトサイエンス社	スイス アイゲンタール	その他	記載なし	記載なし
T-182	哺乳類	ナキウサギ	ナキウサギ	記載なし	回避	1999	1999	事業中止	生物多様性条約の観点から中止を訴えた	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道	一般国道	記載なし	記載なし
T-183	生物全般	動植物	動植物	記載なし	回避	1995	1995	事業中止	生物多様性条約の観点から中止を訴えた	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道占冠村	一般国道	記載なし	記載なし
T-184	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	記載なし	造成地法面に既存二次林の幹を用いた幹挿しによる樹林復元。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	常緑広葉樹種ではアラカシ、ヤブツバキ、イヌツギ、サカキ、ネズミモチに良好な結果。落葉広葉樹種ではクスギ、アベマキ、コナラ、リョウブ、ネジキに可能性あり。	福岡県鞍手郡若宮町	その他	記載なし	記載なし	
T-185	哺乳類	ニホンリス	ニホンリス	記載なし	代償	1998	1998	給餌台、巣箱の設置。移動路となる吊橋の確保。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ニホンリスの生息を確認。橋の利用をビデオにて確認。	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	山梨県大月市	宅地造成事業	記載なし	記載なし
T-186	鳥類	ハヤブサ	ハヤブサ	記載なし	代償	記載なし	記載なし	工事工程の配慮。営巣代替施設の設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	巣への定着行動の確認	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道	一般国道	記載なし	記載なし
T-187	生物全般	動植物	動植物	富士箱根伊豆国立公園特別地域のため	回避	1999	1999	事業中止	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	静岡県	一般国道	記載なし	記載なし
T-188	哺乳類	ヤマネ	ヤマネ	記載なし	代償	1998	1998	移動路の確保	記載なし	山梨道路公社	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ヤマネブリッジでヤマネの巣を確認	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	山梨県	一般国道	記載なし	記載なし
T-189	植物	カザグルマ	カザグルマ	日光国立公園のため	代償	1981	1981	カザグルマの移植。	記載なし	日本道路公団	あり	記載なし	記載なし	記載なし	あり	カザグルマの生育を確認。	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	日光宇都宮道路二期区間	高速自動車国道	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(17/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-190	両生類	モリアオガエル	モリアオガエル	日光国立公園のため	代償	1982	不明	モリアオガエルの産卵場の創出。	記載なし	日本道路公団	あり	記載なし	記載なし	あり	モリアオガエルの卵塊を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・3分科会	日光宇都宮道路二期区間	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-191	生物全般	動物	動物	日光国立公園のため	代償	1983	不明	動物の移動路の確保。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・4分科会	日光宇都宮道路二期区間	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-192	昆虫	ギフチョウ	ギフチョウ	播磨中部丘陵県立自然公園のため	代償	記載なし	不明	代替生息地の整備、食草移植、飼育、放蝶。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	飼育、放蝶中止後も生息を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県	一般国道	記載なし	記載なし
T-193	生物全般	動物	動物	一部国定公園にかかるため	代償	1987～88	不明	U字側溝の改良(道いあがり実験)	林道建設に伴う小動物の移動経路の分断	沖縄県北部林業事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	傾斜角60度まで道いあがり可能。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-194	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1995	不明	切土によってはぎ取られた表土を盛土法面に移植。郷土種による緑化。	記載なし	長野県北安曇地方事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	法面に草本・木本類の侵入を確認、植被率が顕著に伸びた。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	長野県北安曇郡白馬村	大規模林道	記載なし	記載なし
T-195	生物全般	動植物	動植物	高知県立自然公園のため	代償	1996	工事中	動物が脱出できる側溝、集水溝の設置。けもの道を分断しない工法の採用。補強土工や在来植物の移植による緑化。粗面仕上げコンクリート構造物の採用。	記載なし	森林開発公団高知地方建設部	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	高知県	大規模林道	記載なし	記載なし
T-196	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	1995	不明	道路側溝に落下した小動物の道いあがり実験	記載なし	新潟大学	記載なし	記載なし	記載なし	あり	スロープタイプ:スロープ入口があると脱出率が高い。石積タイプ:サンショウウオの脱出率が高い。改良型:改良前と同じ。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-197	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1996	不明	貴重植物の移植。木柵、フシカゴによる土砂、濁水の流出防止。コンクリート使用量削減。	記載なし	栃木県矢板林業事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	栃木県塩原町	大規模林道	記載なし	記載なし
T-198	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	1998	不明	補強土工によるはぎ取り軽減。小動物が道いあがれる構造の排水施設とした。路側に植栽。	記載なし	鹿児島県大島支庁農林課	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	奄美大島	大規模林道	記載なし	記載なし
T-199	環境	河川	水辺	記載なし	代償	1995	不明	集水溝を利用した水辺の創出。巣箱、止まり木の創設。ピオトープ植栽。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	シジュウカラが産卵、キツキが利用。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	横浜横須賀道路	首都高速道路等	記載なし	記載なし
T-200	鳥類	サギ	サギ	住宅地に形成されたサギコロニーの騒音、悪臭のための引越	低減	1990	-	繁殖期、サギの巣がない竹を伐採。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	サギがコロニーを移動させた。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	宇都宮市	その他	記載なし	記載なし
T-201	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1996	不明	ポーラスコンクリートによるコンクリート構造物の緑化	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	永続的な植物育成が期待できる。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-202	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1997～1998	不明	道路における雑草対策工を試験施工	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	マサ土固化工法や防草シートによる工法の評価が高い。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	愛媛県松山市	その他	記載なし	記載なし
T-203	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	動物用の道路横断施設のエコダクト等の設置。動植物の生態を考慮に入れた設計、施工、維持管理。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	道路路傍が動植物にとって重要な生息環境として機能することが確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	オランダ	その他	記載なし	記載なし
T-204	植物	植物全般	植物	道路建設に伴い法面が裸地化するため	代償	1998	不明	植生筒袋工、まんぶくダンゴ、たねシューを実施。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	松山自動車道	高速自動車国道	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(18/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-205	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	跨道橋・カルバート等の横断構造物の設置。侵入防止柵の設置。ピオトープの整備。	エコロードの推進	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	第二名神高速道路	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-206	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	線形の調整。トンネルや橋梁構造の採用。けもの道の採用。侵入防止柵の設置。自生種による樹林化。	エコロード整備	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	日光宇都宮道路	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-207	両生類	トウキョウサンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	記載なし	代償	記載なし	不明	トウキョウサンショウウオの産卵地の復元	エコロード整備	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	日光宇都宮道路	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-208	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	線形の調整。トンネルや橋梁構造の採用。けもの道の採用。侵入防止柵の設置。自生種による樹林化。	エコロード整備	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	千葉東金道路	首都高速道路等	記載なし	記載なし
T-209	両生類	トウキョウサンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	記載なし	代償	記載なし	不明	トウキョウサンショウウオの産卵地の復元。	エコロード整備	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	千葉東金道路	首都高速道路等	記載なし	記載なし
T-210	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	線形の調整。トンネルや橋梁構造の採用。けもの道の採用。侵入防止柵の設置。自生種による樹林化。	エコロード整備	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	中央自動車道	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-211	両生類	トウキョウサンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	記載なし	代償	記載なし	不明	トウキョウサンショウウオの産卵地の復元。	エコロード整備	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	中央自動車道	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-212	生物全般	動物	動物	中部山岳国立公園のため	代償	1997	不明	動物用ボックスカルバートの設置。側溝内にアンマルスロープ等を設置。	エコロード整備	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北アルプス横断安房トンネル	その他	記載なし	記載なし
T-213	植物	植物全般	植物	中部山岳国立公園のため	代償	1997	不明	現存植生の復元。	エコロード整備	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北アルプス横断安房トンネル	その他	記載なし	記載なし
T-214	鳥類	オオタカ	オオタカ	開発に伴う営巣環境の減少	代償	1994～1995	不明	2ヶ所のモミの木の下向きへV字状に伸びた枝に人工巣を設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	1995年に人工巣1ヶ所で産卵、孵化を確認。その後雛が巣から消失したため繁殖は失敗。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京日の出町	その他	記載なし	記載なし
T-215	鳥類	アホウドリ	アホウドリ	営巣環境悪化のため	代償	1991～1996	不明	新営巣地にアホウドリのデコイ設置。求愛ダンス時の鳴き声を再生し、新営巣地へ誘致。	記載なし	(財)山階鳥類研究所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	1995年に新営巣地で抱卵を確認。1996年に2つがい産卵を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	伊豆諸島鳥島(東京都)	その他	記載なし	記載なし
T-216	鳥類	キツツキ	キツツキ	開発に伴う営巣環境の減少	代償	1991	不明	住宅の庭にあるクリ、ミズナラの倒木の枝を固定し、営巣場所として整備。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	設置後約1ヶ月後にコグラが飛来し、4卵を産卵。2羽のひなが巣立つ。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-217	鳥類	ブッポウソウ	ブッポウソウ	コンクリート電柱に立て替へに伴う営巣場所の消失	代償	1997	不明	コンクリート電柱に巣箱設置	記載なし	中国電力・NTT広島	記載なし	記載なし	記載なし	あり	営巣を継続している。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-218	植物	植物全般	植物	ダムの冠水に伴うカタクリなどの生育地の水没	代償	1996	不明	カタクリなどの春植物を新しい居住地の裏山に土壌ごと移植。	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	翌年花を咲かせた。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	広島県三良坂町	ダム	記載なし	記載なし
T-219	植物	植物全般	植物	道路建設に伴う裸地の出現	代償	記載なし	不明	複相的な生育基盤を設けた。重層的緑化による植生遷移期間の短縮化。	記載なし	建設省中部地方建設局高山国道工事事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり		記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	岐阜県、長野県安房峠	一般国道	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(19/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-220	生物全般	動植物	動植物	自然公園内の道路拡幅のため	代償	1998	不明	表土還元による法面緑化、巨石を用いた動物用ボックスカルバート設置。巨石積み上げによる法面保護。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	志賀エコロード	一般国道	記載なし	記載なし
T-221	環境	河川	水辺	河辺生態系の埋立のため	代償	記載なし	不明	開発サイトから13km上流に三日月湖を含む河辺生態系の代償ミティゲーション事業を実施。	記載なし	記載なし	あり	写真、航空写真による植栽樹木の生長、現地調査による野生生物のモニタリング調査。	記載なし	あり	5年目の当初目標が達成されたと判断。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	アメリカ・カリフォルニア州 サクラメント	その他	記載なし	記載なし
T-222	生物全般	動植物	動植物	ダム建設による土地の改変のため	代償	1996～1997	不明	国道のルートの一部変更、低振動、低騒音の機械使用。工事工程の見直し、夜間照明の使用を控える。	記載なし	水資源開発公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	岐阜県藤村	ダム	記載なし	記載なし
T-223	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	高速道路外縁法面にコナラ、クヌギ、アラカシ、ヤマモモなどを植栽。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	植栽後6年でムラサキシジミ、クロコノマチョウ、ウグイス、アオジ等の多様な生物の生息空間として機能し始める。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	静岡県浜松市	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-224	鳥類	オオタカ	オオタカ	記載なし	低減	記載なし	-	オオタカの巣周辺2haを計画区域から除外。博覧会場を12haに縮小。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	福井県勝山市	その他	記載なし	記載なし
T-225	鳥類	オオタカ	オオタカ	造成による生息地の改変のため	低減	1997	-	オオタカ営巣木周辺7～8haを保全区域とし、立入禁止。営巣地近くに計画の総合運動公園の建設断念。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	愛媛県今治市	その他	記載なし	記載なし
T-226	鳥類	鳥類全般	鳥類	鳥類の窓ガラスへの衝突のため	代償	1996	不明	ドット模様(縦1cm横1.5cmのメッシュ)の描かれた大型ガラスを使用。	記載なし	宇都宮美術館	記載なし	記載なし	記載なし	あり	平成8年8月～平成9年4月にガラスに衝突した鳥類は2羽で、一定の効果があったと判断。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	宇都宮美術館	その他	記載なし	記載なし
T-227	鳥類	オオタカ	オオタカ	土地区画整理事業による土地の改変に伴う森の消滅のため	低減	1991～1992	-	土地区画整理事業と都市公園整備事業とで区域を分断して約25haの森林を保全。オオタカ保護ゾーンの設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	市野谷の森	土地区画整理事業	25ha	記載なし
T-228	鳥類	クマタカ	クマタカ	送電線の架設工事による影響のため	低減	1995	-	工事期間の短縮。運搬経路の見直し。低騒音の建設機械の使用。鉄塔工事現場に目隠しシート設置。	記載なし	関西電力(株)	記載なし	記載なし	記載なし	あり	平成8年10月に幼鳥の飛翔が確認され、繁殖の成功が確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県赤穂郡上郡町	その他	記載なし	記載なし
T-229	鳥類	イヌワシ	イヌワシ	記載なし	代償	1979	不明	巣の傾斜がきついため巣床を平たく広くするためコンクリート人工補修	記載なし	日本イヌワシ研究会	記載なし	記載なし	記載なし	あり	補修翌年1980年ヒナが誕生、以来この巣が使用。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-230	鳥類	イヌワシ	イヌワシ	記載なし	低減	1998	-	小型カメラを設置してイヌワシを観察、巣周辺の公共事業検討や工事の自粛を求めた。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-231	鳥類	キツツキ	キツツキ類	記載なし	代償	1991	不明	人工営巣木を設置	記載なし	東京大学	記載なし	記載なし	記載なし	あり	設置1ヶ月後コガラが飛来、4羽のヒナが孵化した。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-232	鳥類	シジュウカラ類	シジュウカラ類	記載なし	代償	1992	不明	巣箱を森林公園内に設置。	記載なし	三木山森林公園	記載なし	記載なし	記載なし	あり	平成10年12月102個中10個の巣箱が利用されていた。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	三木山森林公園	その他	記載なし	記載なし
T-233	鳥類	イワツバメ	イワツバメ	新橋梁に営巣を誘導するため	代償	記載なし	不明	旧橋梁の営巣場所類似のコンクリートを粗面仕上げ、旧橋梁の撤去時期を検討。	記載なし	水資源開発公団	あり	繁殖期のモニタリング	記載なし	あり	46個の巣が確認された。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	丹羽ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-234	植物	植物全般	植物	真面国定公園内のため	代償	1977	不明	ダム法面に周辺樹林地の表土まきだしによる植生の回復。	記載なし	記載なし	あり	平成12年度までモニタリング調査継続	記載なし	あり	アカメガシワ等の埋土種子起源の先駆低木種が成長。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	大阪府真面川ダム	ダム	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(20/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-235	植物	ヒメコウホネ	ヒメコウホネ	道路建設に伴う池の改変のため	代償	1997	不明	数十m離れた所にあるため池を移植に利用、遺伝子レベルの種内多様性保全のため集団ごとに株を採取。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県加古川市	一般国道	記載なし	記載なし
T-236	両生類	ダルマガエル	ダルマガエル	記載なし	代償	1995～1996	不明	ダルマガエル岡山種族の孤立した一群体群から幼体を採取、飼育下で繁殖させ幼生を工事終了後の水田に放流。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	1995年には個体群が減少、1996年には回復の兆し。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	広島県	その他	記載なし	記載なし
T-237	両生類	トウキョウサンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	道路建設に伴う繁殖池の消滅のため	代償	1993～1996	工事中	代替の繁殖池が完成するまで採卵のための産卵池をつくり、採取した卵を予定地に放す。	記載なし	日本道路公団	あり	代替繁殖池での産卵確認調査	記載なし	あり	卵嚢を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	千葉県東金道路	首都高速道路等	記載なし	記載なし
T-238	環境	湿原・湿地	湿原	排水路整備に伴う地下水位の変化のため	代償	1960年代	不明	排水路の影響として200～300mの緩衝地帯が必要。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道	その他	記載なし	記載なし
T-239	環境	湿原・湿地	湿原	道路建設に伴う地下水位の変化のため	代償	1985～	不明	側溝を短い区間で仕切り、地下水流動の阻害に配慮。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	道路両側の植生に近似化の傾向が見られる。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道霜多布湿原	一般国道	記載なし	記載なし
T-240	環境	湿原・湿地	湿原	湿地溝による乾燥化のため	代償	1991	不明	地下水位を堰上げる遮水シートを等高線に沿って550m蛇行して施工。泥放地の乾燥によるササ繁茂の抑制。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	サロベツ原生花園探勝木道	その他	記載なし	記載なし
T-241	環境	湿原・湿地	湿原	豪雨時の冠水、非灌漑期の乾燥化、水質悪化のため	代償	1987～1990	不明	簡易水位調整施設施工、土嚢敷設、中央水路侵食防止工、迂回水路整備、水門、ポンプ施設整備。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	乾燥条件に比較的強いイシモチソウやモウセンゴケの生育の回復の兆し。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	千葉県成東町成東湿原	その他	記載なし	記載なし
T-242	環境	湿原・湿地	湿原・湿地	記載なし	代償	1997	一部供用	兵衛川水系軸への水循環システムの導入、谷戸生態系の保全・再生。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	平成5年度に整備したビオトープ空間にこの地の急急種の自然復帰確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都八王子市	土地区画整理事業	記載なし	記載なし
T-243	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	1989(計画決定)	不明	代替谷戸の造成と生物の移植・移動、地下水遮水壁設置、防風林造成、道路のトンネル化。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	茨城県ひたちなか市	港湾計画	記載なし	記載なし
T-244	生物全般	動植物	動植物	河川改修による土地の改変のため	代償	1990	不明	法面裾部は土羽による緩傾斜護岸を計画、河岸沿いに鳥が好む実のなる木等を植栽。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	カモ、シギ等の水鳥が見られ、水際にヨシが復元。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	徳島県吉野川水系多田窪川	その他	記載なし	記載なし
T-245	環境	河川	河川	記載なし	代償	1991	不明	水裏は緩傾斜の土の堤、護岸は多孔質構造、木工沈床を施工。既存樹木の保存、低性ヤナギ、ワンドではヨシなどを植栽。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県明石川水系伊川	その他	記載なし	記載なし
T-246	生物全般	動植物	動植物	緑地環境保全地区のため	代償	1990～1999	不明	自然保護のためのルート選定、計画道路幅員の縮小、橋梁形式への変更、沈砂地の設置、夜間工事、道路照明設置しない、法面に餌木植栽。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	宮城県仙台市	一般国道	記載なし	記載なし
T-247	生物全般	動物	動物	記載なし	回避	1997	-	オオタカとホクリクサンショウウオの生息地を除いた企業誘致の計画断念。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	富山県小矢部市	その他	記載なし	記載なし
T-248	鳥類	コウノトリ	コウノトリ	記載なし	代償	1997	不明	コウノトリの郷公園計画内に営巣場所候補地選定、水鳥等の生息場所整備、ワンド、池、湿地等の整備。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県豊岡市	その他	記載なし	記載なし
T-249	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	1986～1987	不明	安全確保の隠れ場設置、池周辺を立入禁止区域とする。雑石の空積み、水生生物が成長できる環境の確保。	水鳥の飛来地の保護	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	オナガガモ、コガモ、ヒドリガモ、マガモ、カイツブリ、カルガモ等の飛来地となっている。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	長野県長野市巽池	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(21/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-250	鳥類	ケリ	ケリ	田起こし、水入れ等の農業活動による巣の破壊のため	代償	1991	不明	プラスチック製バットに巣を嵩上げ、段階的に移動。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	2羽のヒナの巣立ちを確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	広島県広島市西条町	その他	記載なし	記載なし
T-251	鳥類	鳥類全般	鳥類	非干渉距離の確保のため	代償	記載なし	不明	非干渉距離が取れるようなゾーニングを行う。道敷植栽を行う。アシ原等の避難場所を設ける。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-252	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	盛土内をトンネル化して移動路を確保。トンネル内は舗装せず落ち葉を敷き詰め、水路を設けて両生類の移動空間を確保。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-253	鳥類	鳥類全般	鳥類	避難場所の確保のため	代償	記載なし	不明	オープンスペースではブッシュや樹木を配置して避難場所を確保。水域ではアシ原や中の鳥を設けたり水辺に樹木を配置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-254	植物	ヨシ(群落を含む)	ヨシ	ウォーターフロント開発による消失のため	代償	1977	不明	マット植栽法	記載なし	水資源公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	琵琶湖	土地区画整理事業	記載なし	記載なし
T-255	植物	植物全般	植物	記載なし	回避	1997	-	耕作放棄水田を環境保全エリアとして維持管理。	記載なし	大阪ガス	あり	植生変化を調査	記載なし	あり	湿生草本類や多年生草本類、マコモ、ヨシ、オキが優先種となった。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	福井県敦賀市	その他	記載なし	記載なし
T-256	環境	湿原・湿地	湿原	記載なし	回避	1997	-	栗東トンネル東坑口の貧栄養湿地での河川改修中止。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	第二名神高速度道路	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-257	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1997	不明	生息環境の復元。回復が期待できない植物の移植。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	第二名神高速度道路	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-258	植物	湿原植生	湿原植生	湿生植物圏造成のため	代償	1990	不明	湿原植生の掘り取りと植栽。	記載なし	岡山県自然保護センター	記載なし	記載なし	記載なし	あり	湿原植生の移植はほぼ順調に推移。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	岡山県自然保護センター	その他	記載なし	記載なし
T-259	環境	湿原・湿地	湿原	記載なし	代償	1997	不明	地下水を均一に流下させ下方侵食を防ぐ。水の供給を確保。周辺樹木を伐採して日照を確保。土砂流入を防止する堰を導水路に設置。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	湿原面積が約4.6倍に拡大。ハッコウトンボを含むトンボ類が確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	岡山県	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-260	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	1997～1998	不明	ヒメタイコウチの生息できる湿地の確保。救出と移動。カスミサンショウウオの産卵場の作成。魚巣ブロック設置。用水路の形状工夫。二枚貝の救出、移動。	記載なし	兵庫県土地改良事務所	あり	追跡調査	記載なし	あり	ヒメタイコウチの次代の生育確認。コンクリートU字溝の水たまりにアカガエルが繁殖。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県小野市	その他	記載なし	記載なし
T-261	昆虫	昆虫全般	昆虫類	記載なし	代償	1998～1999	不明	ガマ群落内に池の創出。自然型水路への改変、新水路の創出。水生植物の植栽。	記載なし	船橋市環境保全課	記載なし	記載なし	記載なし	あり	シオカラトンボ、アマガエルの卵確認。ヤコ、ホタルの幼虫の生息域拡大。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-262	環境	河川	水辺	記載なし	代償	1995	不明	クレソンなどの植物を配置。	水質の浄化のため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ドジョウ、アユ、ウナギ、ドブガイが増加。タナゴ類の産卵床となった。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-263	環境	湖沼	湖沼	若狭湾国定公園内のため	代償	1992	不明	底泥除去。水田への嵩上げと浚渫土の天火乾燥。	記載なし	福井県敦賀土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	マコモなど水性植物やヤナギが多数生えた。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	三方湖浄化事業	その他	記載なし	記載なし
T-264	環境	湖沼	湖沼	記載なし	代償	記載なし	不明	底泥浚渫。アオコ除去。植生浄化。霞ヶ浦導水。	水質の浄化のため	建設省霞ヶ浦工務事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	茨城県潮来町霞ヶ浦	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(22/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-265	環境	河川	河川	記載なし	代償	1981	不明	アシ移植による浄化。	記載なし	建設省霞ヶ浦工務事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	マコモ・アシが計画植生密度の1/2～1/3であった。植生密度が計画値に近づけば期待できる。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	山王川	その他	記載なし	記載なし
T-266	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	小動物保護型側溝、ノグテラの営巣木、魚道の設置。マングロープ植栽。自然石積み護岸、湿地帯整備。リュウキュウアユの陸封化、赤土流出対策。	記載なし	沖縄開発庁 沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	福地ダムにおいて3年目にリュウキュウアユの稚魚の遡上、定着、産卵、孵化を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	沖縄県	ダム	記載なし	記載なし
T-267	環境	湿原・湿地	湿原・湿地	記載なし	代償	1974(完成)	不明	土師ダム貯水池による水位変動を利用し、生態湿地公園を整備。	記載なし	建設省中国地方建設局	あり	記載なし	平成9年度 平成11年度	あり	植生、トンボ類、魚類、底生生物の種の増加を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	土師ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-268	植物	ヨシ(群落を含む)	ヨシ	記載なし	代償	1992	不明	種子から育てたヨシの苗をポット苗移植、大株苗移植、小株苗移植、地下茎苗移植法により移植。	記載なし	水資源開発公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	平成9年度、草津川北地区のヨシ植生面積が88%増加。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	琵琶湖開発事業	その他	記載なし	記載なし
T-269	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	1993	不明	水生植物を生育させる人工浮島を浮かべ、景観回復、動物の生息環境を確保。	記載なし	建設省関東地方建設局霞ヶ浦工務事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	移植種以外の植物、魚類、鳥類の営巣が確認。昆虫類、真正クモ類が確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	霞ヶ浦	その他	記載なし	記載なし
T-270	環境	湿原・湿地	湿原・湿地	記載なし	代償	記載なし	不明	調整池内にタコノアシの生育できる湿地帯を創出。表土撒きだしによる植生復元。絞り水を用いた池の造成。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	表土撒きだしによりコナギ、ホタルイ、ウキヤガラ、ショウブ等の植生が回復。池ではトウキョウサンショウウオの産卵が確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	千葉県東金市	土地区画整理事業	記載なし	記載なし
T-271	環境	湖沼	湖沼	記載なし	代償	記載なし	不明	浮島によるキシヨウブとクレソンの植栽。	調整池の水質改善とヤブ蚊等の発生抑制	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	水質改善と同時に浮島周辺に生物が増加し、ヤブ蚊の抑制に効果。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	千葉県沼南町	土地区画整理事業	記載なし	記載なし
T-272	環境	湖沼	湖沼	記載なし	低減	1993	-	3つの工法を組み合わせる複合的に湖岸の侵食防止、軽減を図る。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	琵琶湖	その他	記載なし	記載なし
T-273	環境	湖沼	湖沼	中部山岳国立公園特別保護地区、特別名勝・特別天然記念物のため	低減	1977	-	急激な堆砂に対処するための浚渫。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	大正池	その他	記載なし	記載なし
T-274	両生類	モリアオガエル	モリアオガエル	日光国立公園(特別地域)のため	代償	1981(供用)	不明	道路用地外に代替産卵池(直径2m、水深50cm、皿状)を整備。樹木植栽。代替池から樹林までを自然の状態に連続させる。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	当初から産卵の利用を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	日光宇都宮道路	高速自動車国道	代替池直径2m水深50cm	記載なし
T-275	生物全般	動物	動物	ダム周辺の山林に小動物が多数生息	代償	1992(竣工)	不明	約130mの河道の護岸を自然石積み、オヒルギ、メヒルギ等マングロープ苗木の植栽。小動物保護型の皿状の側溝を採用。魚道スロープ設置によるハゼ類、甲殻類の移動路の確保。	ハゼ類、甲殻類の生息に適した環境整備のため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	沖縄県漢那ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-276	環境	湿原・湿地	湿地	チゴザサ、ハイビキ等の湿性植物、メダカ、トンボ類、水生生物の生息が確認されていたため	代償	1993	不明	堰を設置することで水位を上昇させ、従来の湿地帯を約2倍の1.2haに拡大し、ピオトープ創出。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	あり	記載なし	平成7年度	あり	事後調査で湿性植物、トンボの生息が確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	沖縄県漢那ダム	ダム	湿地1.2ha	記載なし
T-277	昆虫	トンボ	トンボ	記載なし	代償	1988～1990	不明	公園内の既存の池をエコアップした。3段水深差を設け、異なる水草を植栽。細流や多孔質空間の整備。	トンボの生活史に配慮し多様な水底環境をつくるため	横浜市本牧市民公園トンボ池	あり	市民団体がトンボ類のモニタリング調査を実施	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-278	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1994	不明	人工の浮島にヒサカキ、ネズミモチ、ヤブツバキ、アキニシ、ナツハゼ、ヤマツツジ、キハギ等を植栽。周囲にヨシ、ガマ等の抽水植物を植栽。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	魚類、水生生物、鳥類の利用が確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	茨城県霞ヶ浦	ダム	記載なし	記載なし
T-279	環境	海域	海域	記載なし	代償	1991～1993	不明	海域に堆積した有機汚泥の上を航路浚渫により発生した砂で被覆。	記載なし	建設省第三港湾建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	底生生物量の増加、多様化の確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	香川県津田湾	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(23/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-280	植物	シチメンソウ	シチメンソウ	希少種相当の塩生植物	代償	1996～1997	不明	種子保存、堤内育成、地盤改良箇所、押さ丸盛土先端への移植、自生地保全。	記載なし	建設省九州地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	成果は良好。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	佐賀県有明海岸	その他	記載なし	記載なし
T-281	環境	海岸・海辺	海岸	記載なし	代償	1971～1997	不明	離岸堤設置、流す砂防工事、サンドリサイクル、大水深離岸堤設置。	波による海岸の浸食のため	建設省中国地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	海岸侵食はほぼ止まっているが、引き続き継続中。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	鳥取県皆生海岸	その他	記載なし	記載なし
T-282	環境	底質環境	底質環境	記載なし	代償	1971～1976	不明	下水処理事業推進、汚泥浚渫除去。	記載なし	建設省第四港湾建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	底泥中の総水銀含有量の大幅減少、海域生物・鳥類の生態系の回復。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	福岡県洞海湾	その他	記載なし	記載なし
T-283	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1979	不明	落差工を自然石を使用して前面魚道に改善	記載なし	群馬県沼田土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ヤマメの遡上が可能、魚の隠れ場拡大。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	群馬県野川	その他	記載なし	記載なし
T-284	環境	海岸・海辺	海岸	記載なし	代償	1996	不明	エコウォールとマルチブロックの配置、シオクグとヨシの植栽。	消波と土壌、植物の流出防止のため	横浜市	記載なし	記載なし	記載なし	あり	汽水域に多様な生物の生息環境を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	よこはまポートサイド水際公園	その他	記載なし	記載なし
T-285	両生類	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	特別天然記念物	代償	1992～1994	不明	階段水路の形状工夫、低勾配の水路に休憩所設置。	記載なし	岡山県真庭地方振興局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	魚道内での遡上を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	岡山県湯原町	一般国道	記載なし	記載なし
T-286	魚類	魚類全般	魚類	蔵王国定公園のため	代償	1995	不明	階段式で自然石を用いた魚道の整備。	記載なし	山形県東南村山地方事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	イワナの遡上確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	山形県山形市	その他	記載なし	記載なし
T-287	昆虫	ゲンジボタル	ゲンジボタル	記載なし	代償	1992～1995	不明	L型コンクリート擁壁構造整備。	ゲンジボタル、カワニナの生息に配慮した護岸整備のため	京都市	記載なし	記載なし	記載なし	あり	平成6、7年の5～6月にピーク日で100～200匹のゲンジボタルを確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	京都府鴨川	その他	記載なし	記載なし
T-288	環境	河川	河川	記載なし	代償	1991～1994	不明	ワンドの整備、生態系の連続性の維持、水辺植生の保全、魚道新設。	記載なし	建設省中部地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	生物相の多様化、個体数の増加を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	木曾川	その他	記載なし	記載なし
T-289	環境	河川	河川	記載なし	代償	1991～1995	不明	ワンドの整備、生態系の連続性の維持、水辺植生の保全、魚道新設。	記載なし	建設省中部地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	生物相の多様化、個体数の増加を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	長良川	その他	記載なし	記載なし
T-290	環境	河川	河川	記載なし	代償	1991～1996	不明	ワンドの整備、生態系の連続性の維持、水辺植生の保全、魚道新設。	記載なし	建設省中部地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	生物相の多様化、個体数の増加を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	揖斐川	その他	記載なし	記載なし
T-291	魚類	イワナ	イワナ	記載なし	代償	記載なし	不明	アイスハーバー型魚道を3基設置。	治山ダムに伴う渓流の遮断のため	福島県	記載なし	記載なし	記載なし	あり	放流魚による遡上調査の結果、14.6%の遡上確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	福島県南会津郡舘岩村	その他	記載なし	記載なし
T-292	環境	河川	河川	記載なし	代償	1983(運転開始)	不明	接触酸化池(19m <sup>2</sup> )と水生植物栽培地(250m <sup>2</sup> )設置。	記載なし	安土町	記載なし	記載なし	記載なし	あり	除去率BOD67%、COD54%、T-N51%、T-P26%達成。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	滋賀県蒲生郡安土町	その他	接触酸化池19m <sup>2</sup> 水生植物栽培地250m <sup>2</sup>	記載なし
T-293	環境	湖沼	湖沼	記載なし	代償	1984(テストプラント設置)	不明	接触酸化水路(48m <sup>2</sup> )と水生植物栽培池(1,800m <sup>2</sup> 、160m <sup>2</sup> )設置。	記載なし	エンジニアリング振興協会	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	茨城県つくば市	その他	接触酸化水路48m <sup>2</sup> 水生植物栽培池1,800m <sup>2</sup> 、160m <sup>2</sup>	記載なし
T-294	環境	海水	海水	記載なし	代償	1993	不明	石積み堤防の設置	海水浄化のため	シーブルーテック/ロジック研究会	記載なし	記載なし	記載なし	あり	SS、クロロフィル、CODの除去確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	愛知県三河湾	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(24/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-295	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	1990	不明	代替干潟25haを造成。	鳥類の採餌場確保のため	広島県	記載なし	記載なし	記載なし	あり	造成1年後で種類数、個体数の回復を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	広島県広島市	公有水面埋立及び干拓	代替干潟25ha	記載なし
T-296	魚類	アユ	アユ	記載なし	代償	1996	不明	プレキャスト魚道ブロックを設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	アユ、サケの遡上確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道羽幌町	その他	記載なし	記載なし
T-297	環境	湖沼	湖沼	記載なし	代償	1997	不明	自然公園として保全、整備。	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ミクリ、チョウトンボの生育、生息を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	三つ又沼自然学習公園	公有水面埋立及び干拓	記載なし	記載なし
T-298	環境	湿原・湿地	湿原	記載なし	代償	1999	不明	旧河道の復元後、表土を覆工し流出防止ネットを施工。	記載なし	北海道稚内土木現業所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道稚内市	その他	記載なし	記載なし
T-299	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1998	不明	多自然型護岸の施工。	護岸植生の衰退のため	北海道	記載なし	記載なし	記載なし	あり	法面部や法尻部の植生回復を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-300	その他	サンゴ	サンゴ礁	記載なし	代償	1993～1994	不明	圃場整備の実施	赤土流出の防止のため	沖縄県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	沖縄県恩納村	その他	記載なし	記載なし
T-301	両生類	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	記載なし	代償	1994～1995	不明	自然石護岸、魚巣ブロック、巣穴の設置。	記載なし	兵庫県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県養父町	その他	記載なし	記載なし
T-302	植物	キシシマツツジ	キシシマツツジ	記載なし	代償	1992～1993	不明	堤抜幅と通水パイプ布設による根茎部への水供給。	記載なし	長岡京市	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	京都府長岡京市	その他	記載なし	記載なし
T-303	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1993	不明	隔壁3タイプ、16基の魚道を施工。	記載なし	栃木県今市林事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	遡上率イワナ、ヤマメ25%、連続遡上イワナ11%/日、ニジマス8%/日	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	栃木県塩谷郡栗山村	その他	記載なし	記載なし
T-304	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1992	不明	折り返し階段式魚道設置	記載なし	記載なし	あり	サケ、マス、ヤマメ、オシロコマ再捕調査	記載なし	あり	サシレイ川:サケ260、オシロコマ87 ボン春効古丹:サケ114、オシロコマ32、ヤマメ28	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道根室市羅白町	その他	記載なし	記載なし
T-305	植物	バイカモ	バイカモ	記載なし	代償	1995	不明	バイカモの移植方法の試験	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	鉢植えにしてコンクリートブロックの穴に入れたものは残存。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道十勝川水系	その他	記載なし	記載なし
T-306	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	1995	不明	河床の片側に勾配をつけたりプールを造成、現地の植物を植栽、オオサンショウウオの保護、人工巣穴の設置。	自然環境全てに配慮した工事のモデルケース	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県多紀郡笹山町	その他	記載なし	記載なし
T-307	環境	河川	水辺	記載なし	代償	記載なし	不明	沿河岸に植物帯を設置。流入河川に水質浄化施設を設置。	湖沼、河川の水質改善のため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	千葉県我孫子市柏市沼南	その他	記載なし	記載なし
T-308	環境	河川	河川	遡上の妨害	代償	記載なし	不明	固定堰の一部を取り除く	自然河川に近い河道形成	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	福岡県	その他	記載なし	記載なし
T-309	環境	河川	河川	記載なし	代償	1982	不明	ガマ、モコモ等抽水植物、ササハモ、ヤナギモ等沈水植物群落による浄化。	やすらぎと潤いある川づくり	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	水質が改善	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	埼玉県春日部市	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(25/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-310	環境	河川	ワンド	河川の単調化ワンドの減少	代償	記載なし	不明	人工ワンドの形成	ワンドの保全	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	貝類の増加, タナゴ類の増加, 魚類24種確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	大阪市東淀川区	その他	記載なし	記載なし
T-311	両生類	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	天然記念物	代償	1991	不明	オオサンショウウオ185個体保護, 低々水路の設置, 護岸に空隙整備, 移動確保の落差工, 玉石, 軽石の設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	放流した個体の体重増加を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県養父郡養父町	その他	記載なし	記載なし
T-312	環境	河川	河川	記載なし	代償	1982	不明	河道を複断面化, 低水路河岸に人工植物帯整備, 人工瀬を復元。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ハビタットの復元, 維持,	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	神奈川県横浜市	その他	記載なし	記載なし
T-313	環境	河川	河川	記載なし	回避	記載なし	-	河川沿いに公園を隣接,	ハビタット同士のネットワーク保全	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ハビタット分断を回避,	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	神奈川県大和市	その他	記載なし	記載なし
T-314	環境	河川	水辺	記載なし	回避	記載なし	-	水辺緑地の保存, 公園, 自然観察園, 水生植物園の計画,	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都	その他	記載なし	記載なし
T-315	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1974	不明	地形と湧水を活かした庭園の公園整備,	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都国分寺市南町2丁目	その他	記載なし	記載なし
T-316	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1986	不明	自然観察園の整備, ボランティアによる管理,	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	植生の保存,	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都小金井市三鷹市	その他	記載なし	記載なし
T-317	環境	湖沼	湖沼	記載なし	代償	1977	不明	蛇籠等による緑化護岸化, 植生の回復,	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	カタクリが自生, 川辺空間の形成, ホタルの生息,	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都世田谷区4丁目	その他	記載なし	記載なし
T-318	環境	河川	水辺	記載なし	代償	1983	不明	野川から水を引き込み浄化, 水田と次大夫堀の復元, 資料館, 民家園を整備, 土壌浄化方式による水質浄化,	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都世田谷区喜多見5丁目	その他	記載なし	記載なし
T-319	環境	緑地	緑地	記載なし	代償	1970	不明	海浜公園, 埠頭公園, 緑道公園の整備,	埋め立て地に新しい緑地創出	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都	港湾計画	記載なし	記載なし
T-320	環境	海岸・海辺	海辺	記載なし	代償	1970	不明	海浜公園の設置, 野鳥保護, 水族館のある臨海公園整備,	三枚州の保全と利用のため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都江戸川区臨海町	その他	記載なし	記載なし
T-321	環境	海岸・海辺	海岸	記載なし	代償	1987	不明	入り江を活かした海浜公園の造成, 緩傾斜護岸整備, 生態的植栽, 野鳥の観察小屋等の設置,	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都品川区, 大田区	公有水面埋立及び干拓	記載なし	記載なし
T-322	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	不明	蛇行する低水路形成, 落差工のスロープ化, 木工沈床, 土羽護岸,	自然な水辺の創造	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	植生の回復, 隣接公園の樹林との景観的一体化,	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	神奈川県横浜市	その他	記載なし	記載なし
T-323	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	不明	河道間をはらばとして整備, 割石積み, 乱杭, 瀬の造成,	自然の川らしさを取り戻すため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	神奈川県横浜市	その他	記載なし	記載なし
T-324	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	不明	自然河川の渓谷的雰囲気を残した親水公園の整備, 湧水を残す, 野鳥の観察窓の設置,	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	神奈川県横浜市	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(26/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-325	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	不明	低水路に河原、瀬、淵、州、蛇行等を造成。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	神奈川県横浜市	その他	記載なし	記載なし
T-326	昆虫	ホタル	ホタル	記載なし	代償	記載なし	不明	河床を複断面化し蛇行させる。玉石空張り、ヤナギ、ヨモギ、カンスガ、セリの植栽。	ホタルの棲める水辺と植生回復	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	山口県山口市	その他	記載なし	記載なし
T-327	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	1978	不明	淡水、汽水、海水の池で植生回復、保全、ビオトープの造成。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都大田区東海	その他	記載なし	記載なし
T-328	昆虫	ホタル	ホタル	公園のインセクタリウム計画	代償	1973	不明	ホタルの飼育場形成。延長80mの屋外水路の造成。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都日野市程久保	その他	屋外水路80m	記載なし
T-329	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	不明	堤防に約170kmの桜並木整備。	多自然型川づくり	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県	その他	約170km	記載なし
T-330	環境	河川	河川	記載なし	代償	1993	不明	ヨシ、マコモ等の水生植物や川岸植物の生育に配慮。緩勾配の川岸線復元、浅瀬、静水域設置。	多自然型川づくり	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-331	環境	河川	河川	記載なし	低減	1982～1983	-	水生植物や藻食性魚類による窒素、リンの削減。	水質浄化のため	大阪大学工学部	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	16～93%の削減が確認。	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-332	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	不明	多自然型川づくりによる河川浄化の実施。	水質浄化のため	建設省土木研究所	記載なし	記載なし	記載なし	なし	多自然型川づくりは多少の汚水には効果があるが、水質の悪いところでは逆効果。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都	その他	記載なし	記載なし
T-333	環境	干潟	干潟	記載なし	代償	記載なし	不明	二枚貝増殖による干潟改良。DO供給による底泥海域の改良。	底質改良、浄化のため	福井県立大学	記載なし	記載なし	記載なし	あり	底生動物増大。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-334	植物	藻類	藻類	記載なし	代償	1988～1999	不明	護岸に藻場を造成。	埋め立ての代替措置として	関西空港(株)	記載なし	記載なし	記載なし	あり	90%以上に付着を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	関西空港	飛行場	記載なし	記載なし
T-335	環境	河川	河川	記載なし	代償	1993～1996	不明	法面の緑化	多自然型川づくり	建設省東北地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	完成から2年で周囲との違和感が無くなる。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	秋田県	その他	記載なし	記載なし
T-336	魚類	アユ	アユ	記載なし	代償	記載なし	不明	アユが遡上する必要条件の検証	多自然型川づくり	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	粗石付斜曲面式魚道の成功例として有名	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	高知県	その他	記載なし	記載なし
T-337	両生類	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	特別天然記念物	代償	1995～1997	不明	卵塊の保護と放流。	多自然型川づくり	兵庫県土木部	記載なし	記載なし	記載なし	あり	複数の遡上、産卵が確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県	その他	記載なし	記載なし
T-338	植物	河畔林	河畔林	記載なし	代償	1998	不明	河畔林の保護。	多自然型川づくり	兵庫県土木部	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県	その他	記載なし	記載なし
T-339	植物	植物全般	植物	希少植物の保全のため	低減	1990～	-	帰化植物の除去	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	オオバクサの減少を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	埼玉県上尾市・桶川市	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(27/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-340	植物	藻類	藻類	記載なし	代償	1993～1999	不明	空港島護岸に海藻を移植。	藻場の創出のため	関西空港(株)	記載なし	記載なし	記載なし	あり	藻場を中心とした新たな生態系の形成確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	関西空港	飛行場	記載なし	記載なし
T-341	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	1993～1994	不明	水路の一部を空石積みや練り石積みの護岸構造に整備	記載なし	農林水産省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	滋賀県甲良町	その他	記載なし	記載なし
T-342	植物	カワラノギク	カワラノギク	増水による分布域の消失のため	代償	記載なし	不明	種子による移植	記載なし	東京都	記載なし	記載なし	記載なし	なし	開花は見られたが期待ほどではなかった。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都府中市	その他	記載なし	記載なし
T-343	魚類	魚類全般	魚類	治山ダム施工による遡上が困難なため	代償	1994～1995	不明	対象魚に合わせた魚道の設置。	記載なし	青森県営林局	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	青森県	ダム	記載なし	記載なし
T-344	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1992～1994	不明	折り返し、直線式、屈曲式、階段式魚道設置。	記載なし	埼玉県	記載なし	記載なし	記載なし	あり	7cm以上のイワナ、ヤマメの遡上確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	埼玉県大滝村	その他	記載なし	記載なし
T-345	鳥類	コアジサシ	コアジサシ	中州減少による営巣地の保護のため	代償	1986～1993	不明	浸水しない場所の造成、除草作業。	記載なし	建設省千曲川工事事務所・日本野鳥の会長野支部	記載なし	記載なし	記載なし	あり	1993年に造成地に13つがいの営巣確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	犀川、千曲川	その他	記載なし	記載なし
T-346	環境	河川	河川	記載なし	代償	1988	不明	緩傾斜護岸、低木類の植栽、斜路工、玉石護岸、遊水池と越流堤を併設。	多自然型工法による河川改修のため	横浜市	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	横浜市梅田川	その他	記載なし	記載なし
T-347	鳥類	コアジサシ	コアジサシ	営巣地の消滅のため	低減	1998	-	公園事業計画工程の変更、巢立ちまで着工延期、立入制限、多目的広場面積の変更。	記載なし	尼崎市	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県尼崎市	その他	記載なし	記載なし
T-348	環境	干潟	干潟	記載なし	代償	1977～1990	不明	人工干潟の造成	記載なし	広島県	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ヒドリガモ、ユリカモメ、オナガガモ、モンムリカイツブリ、ハマシギ、オカヨシガモ、スズガモなどの多くの野鳥が飛来。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	広島市佐伯区五日市町	港湾計画	記載なし	記載なし
T-349	鳥類	コアジサシ	コアジサシ	記載なし	代償	1992(調査)	不明	営巣地への立入禁止、周辺での工事工程の変更、営巣地の創出。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし
T-350	環境	湿原・湿地	湿地	記載なし	代償	1984～1989	不明	周辺隣接地へ湿地の復元。	記載なし	東京都	記載なし	記載なし	記載なし	あり	樹林性の鳥類も見られるようになった。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	東京都大田区	その他	記載なし	記載なし
T-351	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	1982	不明	淡水池と干潟になる2つの池を整備、池周辺をヨシ原とする。野鳥の飛来地の立入を禁止、学習の場を設置。	記載なし	大阪市	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	大阪南港野鳥公園	その他	記載なし	記載なし
T-352	貝類	ホッキ貝	ホッキ貝	記載なし	代償	～1990	不明	沖合に人工リーフ設置。	波浪に対する面的な防御のため	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	周辺生態系への影響は良好、水産資源の増加。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道胆振海岸	その他	記載なし	記載なし
T-353	は虫類	ウミガメ	ウミガメ	貴重種	代償	記載なし	不明	産卵に適した環境の形成。コンクリートブロックを50cm下げ、砂地の確保。	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	産卵率の上昇。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	宮崎県住吉海岸	その他	記載なし	記載なし
T-354	植物	海浜植物	海浜植物	貴重種	代償	1982	不明	ナミキ草など20種以上の海浜植物保全区域の設定。砂止め護岸、保護柵の設置。	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ナミキ草など海浜植物が開花。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月(社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	岩手県大野海岸	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(28/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年	
T-355	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1969～	不明	自然環境に配慮した治山ダムの補修、イワナ、ヤマメなどに配慮した魚道の設置。	記載なし	東北森林管理局青森分局岩手南部森林管理署	記載なし	記載なし	記載なし	あり	魚道内の堆砂、水位、流速、水温の測定により効果を確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	岩手県産女川市流域	その他	記載なし	記載なし	
T-356	環境	海域	海域	記載なし	代償	1977～1982	不明	浚渫土砂の利用による人工漁礁の造成。	記載なし	運輸省港湾局環境整備課	記載なし	記載なし	記載なし	あり	付着生物の増加が見られる。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし	
T-357	環境	干潟	干潟	記載なし	代償	1981～1986	不明	人工干潟の造成	記載なし	運輸省港湾局環境整備課	記載なし	記載なし	記載なし	あり	野鳥の生息場所等の海辺の利用拡大。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	広島湾	港湾計画	記載なし	記載なし	
T-358	環境	海域	海域	記載なし	代償	記載なし	不明	海底に覆砂施工	記載なし	運輸省港湾局環境整備課	記載なし	記載なし	記載なし	あり	栄養塩の溶出削減が可能、生物回復効果、水質改善効果。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし	
T-359	環境	河川	河川	記載なし	代償	1969～1984	不明	排水基準の設定、汚泥浚渫、浄化用水導入、貯木場の廃止。	記載なし	徳島県河川課	記載なし	記載なし	記載なし	あり	BODが削減され多くの魚種が生息可能になった。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	徳島県新町川	その他	記載なし	記載なし	
T-360	環境	干潟	干潟	記載なし	代償	1989	不明	干潟造成、河口の移動、潟湖入口に管路を敷設。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	低湿地としての水面から干潟へと発達。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	仙台湾蒲生干潟	港湾計画	記載なし	記載なし	
T-361	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	1987	不明	ガン・カモなど水鳥の生息場所として消失干潟とほぼ同面積の干潟の造成。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	モロコカイ、イトゴカイの確認、鳥類の飛来、底生生物の生息量増加。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	広島県五日市市地区	公有水面埋立及び干拓	記載なし	記載なし	
T-362	環境	干潟	干潟	記載なし	代償	1979	不明	砂浜干潟の造成	記載なし	横浜市	記載なし	記載なし	記載なし	あり	アオヤギ、シオフキガイ等の発生、アサリの優占。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	横浜市金沢区	土地区画整理事業	記載なし	記載なし	
T-363	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	魚道設置実験	記載なし	佐賀県内水面漁場管理委員会	記載なし	記載なし	記載なし	あり	稚魚が遡上する場合、傾斜は30度以内で直径10cm前後の石を植え付けると更に効果あり。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし	
T-364	環境	河川	河川	記載なし	代償	1982	不明	緑化護岸の整備(桜並木の復元、低木植栽等)	記載なし	千葉県	記載なし	記載なし	記載なし	あり	人、イヌ、ネコが立入れなくなり、泥州が生物の生活空間となった。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	千葉県真間川	その他	記載なし	記載なし	
T-365	環境	海域	海域	記載なし	代償	2000	不明	エコシステム式海域環境保全工法、生態系の物質循環機能により内湾の環境改善を行う。	生態系物質循環機能による新しい水質・底質浄化方式、沿海岸のビotope。	運輸省第3港湾運輸局小松島港湾空港工事事務所	記載なし	記載なし	記載なし	なし	実験継続中	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	徳島県小松島港	その他	記載なし	記載なし	
T-366	環境	河川	河川	記載なし	代償	1998	不明	柳工の実施	多自然型川づくり	建設省豊橋工事事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	河岸侵食、沈下に強く土砂が堆積しやすく屈撓性、追従性に優れている。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	愛知県矢作川	その他	記載なし	記載なし	
T-367	環境	河川	河川	記載なし	代償	1998	不明	オリジナルな蛇行河川復元、運河埋め戻し、ダム撤去、ブラックバス、ワニ、キャトルイーグル、サジサリア(睡蓮)に配慮。	記載なし	南フロリダ水管理局	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	アメリカ キスミー川	その他	記載なし	記載なし
T-368	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	1996	不明	東京都田中川、中川、北十間川、日本橋川に浮島を設置し、生物多様性実験。	記載なし	東京都	記載なし	記載なし	記載なし	あり	単調な都市河川において水生生物や鳥類に生息環境を提供すると考えられる。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	不明	その他	記載なし	記載なし	
T-369	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1995	不明	魚道の改築、フロートゲート採用、アイスハーバー改良型階段式魚道整備、登り口部の敷高の工夫。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	様々な魚類にのほりやすい魚道に改善されたことが確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	山口県下関市木屋川大野堰	その他	記載なし	記載なし	

環境保全措置事例一覧  
(29/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-370	昆虫	ヒヌマイトンボ	ヒヌマイトンボ	記載なし	回避	記載なし	-	計画中止	ヒヌマイトンボの生息地の保全	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県城崎	公有水面埋立及び干拓	記載なし	記載なし
T-371	昆虫	ヒヌマイトンボ	ヒヌマイトンボ	記載なし	回避	記載なし	-	ワンドの保全のため橋脚の位置をずらした。	ヒヌマイトンボの生息地の保全	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	淀川	その他	記載なし	記載なし
T-372	植物	藻類	藻類	記載なし	代償	1988～1990	不明	6種の海藻を選定し、種苗を採取、養成し、人工島護岸に移植。	記載なし	関西国際空港(株)	あり	記載なし	1988～1999	あり	92年からピーク時に護岸面積の9割に海藻着生、安定した藻場の形成。藻場を中心として魚介類など多様な生態系が形成。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	関西国際空港	飛行場	記載なし	記載なし
T-373	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	魚道の新設と改築、床固工上部を全断面転石型プールタイプ魚道とした(新設)。全断面魚道とした(改築)。	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	新設・プール内の置石は魚の隠れ場となる。改築・落差が少なくなり遊泳力の小さな魚ものびやすくなった。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	山形県小国町	その他	記載なし	記載なし
T-374	環境	河川	河川	記載なし	代償	1978～(浄化対策)1998(水生生物生息環境整備)	不明	河床ヘドロの浚渫、覆土、湾筋に曲がりを作り、ワンド、トンボ池造成。	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	全国ワースト3位から近畿ベスト2位に。ワンド、トンボ池で魚類、甲殻類、水生昆虫類等が確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	兵庫県播磨川	その他	記載なし	記載なし
T-375	環境	海域	海域	記載なし	代償	1987	不明	覆砂工事を東西150m、南北100m、厚さ50～60cmで実施。	記載なし	運輸省	あり	記載なし	1987～1996	あり	COD値の減少(栄養塩値はその後徐々に増加)、底生生物の生息環境の改善。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	愛知県三河湾	その他	東西150m、南北100m、厚さ50～60cm	記載なし
T-376	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1993～1994(竣工)	不明	デニール型魚道を施工。既設床固工の放水路より50cm下に魚道の呑み口を設置。	記載なし	北海道空谷支庁	記載なし	記載なし	記載なし	あり	上流域でサクラマスとフクドジョウを確認。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	北海道頓別川	その他	記載なし	記載なし
T-377	環境	干潟	干潟	記載なし	代償	1988～1991	不明	人工干潟の造成	記載なし	広島県	記載なし	記載なし	記載なし	なし	ヒドリガモが常食にしていたアオサが発生しなくなった。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	広島県八幡川	港湾計画	記載なし	記載なし
T-378	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1991～1993	不明	表層土壌まきだしによる河畔床と冠水草原の植生復元	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	まきだし直後に多数の実生が出現。絶滅危惧植物の実生も発芽し、貴重種を含む植物の復元に効果あり。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	茨城県小貝川	その他	記載なし	記載なし	
T-379	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1980～1990	不明	水俣湾等公害防止対策事業、漁業の再開を目指した水俣湾の魚介類対策事業。	記載なし	運輸省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	94年に魚類全種で0.4ppmを下回った。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	熊本県水俣湾	その他	記載なし	記載なし
T-380	環境	湖沼	湖沼	記載なし	代償	1998～	不明	高圧薄層脱水システム導入による浚渫底泥の再利用。	記載なし	建設省・(財)先端建設技術センター	記載なし	記載なし	記載なし	あり	10の泥水を容積1/5に減量した。高圧薄層脱水処理土を歩道ブロックに再生利用。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	千葉県手賀沼	その他	記載なし	記載なし
T-381	環境	湖沼	湖沼	記載なし	代償	1989(事業認定)	不明	46780のヘドロを浚渫し、浚渫土は遊休地に埋め立てる。	記載なし	岩手県	記載なし	記載なし	記載なし	あり	順調に進行中	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	岩手県古川沼	その他	記載なし	記載なし
T-382	環境	河川	水辺	記載なし	代償	記載なし	不明	高度処理水を大阪城外濠へ送水、せせらぎの復活(今川、駒川、細江川)。	記載なし	大阪府	記載なし	記載なし	記載なし	あり	下水処理の有効利用が都市環境の創造に有効。新たな技術開発が必要。	記載なし	生態系に関する調査・予測・評価の技法の研究 動植物に係る自然環境保全技法に関する研究中間報告書 平成13年6月 (社)日本アセスメント協会・研究部会 自然環境影響評価技法研究会第1・2分科会	大阪市	その他	記載なし	記載なし
T-383	生物全般	動植物	動植物	日光国立公園特別地域のため	回避	1971	-	道路の開設を中止	環境庁長官が県知事を説得、知事が計画中止を決定	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	尾瀬道路	一般国道	記載なし	記載なし
T-384	生物全般	動植物	動植物	大雪山国立公園特別地域および特別保護地区のため	回避	1973	-	道路計画を撤回	自然公園審議会が諮問、否定的意見が大勢で答申を得ないまま事業者が撤回	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	大雪山道路	一般国道	記載なし	記載なし
T-385	生物全般	動植物	動植物	日南海岸国定公園第二種特別地域のため	回避	1978(港湾)1982(石油備蓄)	-	数次にわたる計画規模の縮小	世論や環境庁の感触に配慮	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	新大隅開発計画	公有水面埋立及び干拓	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(30/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-386	生物全般	動植物	動植物	霧島屋久国立公園第一種特別地域(世界遺産地域)のため	回避	1997	-	既存1車線道路の拡幅計画を白紙化	環境影響調査の結果や世界遺産登録などを避け自ら白紙化を公表	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	屋久島西部林道	大規模林道	記載なし	記載なし
T-387	魚類	ネコギギ	ネコギギ	希少種	低減	記載なし	-	ネコギギの生活に配慮した工法を効果的に導入した道路建設	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	岐阜県	その他	記載なし	記載なし
T-388	植物	ヨシ(群落を含む)	ヨシ	宇治川向島のツバメの増地のため	代償	記載なし	不明	河川敷の一部に地下茎を移植。約2.5ha規模の代償地を創生。	架橋の位置変更などの回避策が困難だったため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ツバメの増地の一部として利用が確認。	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	宇治川	一般国道	代償地2.5ha	記載なし
T-389	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	1990概成	不明	埋立地護岸外側に延長約1km幅250mの干潟造成。野鳥公園を隣接して設ける。河口域海岸線を緑地とし冬鳥の飛来に配慮した工事工程の検討。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	五田市地区港湾環境整備事業	港湾計画	干潟24ha	記載なし
T-390	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	1983	不明	海浜延長1.2km(干潟40ha)造成。シギ・チドリ類、ゴカイ類、アサリに配慮。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	千葉港船橋海浜公園	港湾計画	海浜延長1.2km(干潟40ha)	記載なし
T-391	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	浅場250ha造成。マコガレイ・マハゼ等の稚魚、メバル、アサリに配慮。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	東京湾羽田空港	港湾計画	浅場250ha	記載なし
T-392	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	1978(第1次)	不明	公園25ha造成。水鳥やゴカイ等に配慮。植栽。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	東京港大井野鳥園	港湾計画	公園25ha	記載なし
T-393	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	1983開園	不明	公園19ha造成。シギ・チドリ類、ガン・カモ類、ゴカイ等に配慮。植栽。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	大阪南港野鳥園	港湾計画	公園19ha	記載なし
T-394	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	1988開園	不明	砂浜25ha(全域400ha)造成。鳥類、ゴカイ類、アサリに配慮。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	東京港葛西海浜公園	港湾計画	砂浜25ha(全域400ha)	記載なし
T-395	貝類	アサリ	アサリ	記載なし	代償	1979概成	不明	海浜9ha造成	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	横浜港金沢海の公園	港湾計画	海浜9ha	記載なし
T-396	貝類	貝類	貝類	記載なし	代償	1991	不明	干潟・浅場6ha造成。アサリ、アマモ等に配慮。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	厳島港シーブルー事業	港湾計画	干潟・浅場6ha	記載なし
T-397	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	1998	不明	干潟30ha造成。アサリ、クルマエビ、アマモ等に配慮。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	蒲郡地区シーブルー事業	港湾計画	干潟30ha	記載なし
T-398	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	1988護岸概成(1994開港)	不明	護岸延長9km造成。クロメ、カジメ、ホンダワラ類、アイナメ、カサゴ、サザエ、アワビ等に配慮。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	関西国際空港	港湾計画	護岸延長9km	記載なし
T-399	その他	サンゴ	サンゴ礁	記載なし	代償	記載なし	不明	第一防波堤3km造成。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	那覇港	港湾計画	第一防波堤3km	記載なし
T-400	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	不明	港堤延長150m造成。コンブ、アイナメ、ウニ、アワビ等に配慮。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	奥尻港海岸エココスト事業	港湾計画	港堤延長150m	記載なし
T-401	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	1992	不明	調整池と公園を兼ねたビオトープを復元・創出。小さなトンボ池の造成。	記載なし	住宅・都市整備公社	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	大阪府高槻市公園阿武山団地	その他	記載なし	記載なし
T-402	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	古い団地3.6haの建替え事業。外周部急斜面の法面を蛇かごや空石積みと郷土種を用いて修復。クラインガルテン設置。	記載なし	都市基盤整備公社	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	レーベンスガルテン山崎	その他	3.6ha	記載なし
T-403	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	1997竣工	不明	約1500㎡のビオトープ空間を造成。地下貯水タンクから雨水を循環。	記載なし	都市基盤整備公社	あり	モニタリング継続	記載なし	あり	タコアシ、ミソウジウの生育やチョウ類、トンボ類、カルガモなどの水鳥の利用が確認。	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	都市基盤整備公社総合研究所技術センター	その他	1500㎡	記載なし
T-404	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	記載なし	不明	3階建てのビルの屋上にビオトープを造成。中低木や草本による里山樹林の形成。池の配置。水の自動点滴設備。	記載なし	都市基盤整備公社	記載なし	記載なし	記載なし	あり	鳥類が水のみ水浴びに利用。	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	都市基盤整備公社総合研究所技術センター	その他	記載なし	記載なし
T-405	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	第一期工事跡に排水路やエコロジーこう緑化工法を導入。無土壌岩盤法面への種子吹付け工実施。	既存施設の利用による増設工事	関西電力(株)	記載なし	記載なし	記載なし	あり	緑化が進行	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	奥多々良木発電所	水力発電所	記載なし	記載なし
T-406	昆虫	蝶類	蝶類	記載なし	代償	記載なし	不明	オオムラサキの繁殖林の造成。エノキの移植。コナラ、クヌギの植栽。ギフチョウの食草カンアオイを数箇所に分けて移植。カタクリ、スマレの植栽。	オオムラサキやギフチョウの餌の確保のため	国土交通省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	宮ヶ瀬ダム	その他	記載なし	記載なし
T-407	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	土捨場平坦地に人工溪流の復元。ため池、人工築山、石積み空間を配置。	記載なし	国土交通省	あり	追跡調査	記載なし	あり	哺乳類、野鳥類、両生類、は虫類、昆虫類など多様な生物が出現。	記載なし	ミティゲーション・自然環境の保全・復元技術・ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	宮ヶ瀬ダム東沢	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(31/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-408	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	エコロジー緑化	記載なし	関西電力(株)	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション - 自然環境の保全・復元技術 - ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	関西電力南港発電所	その他	記載なし	記載なし
T-409	植物	アマモ	アマモ	記載なし	代償	記載なし	不明	アマモ場の造成	記載なし	環境省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション - 自然環境の保全・復元技術 - ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	津田湾アマモ植栽実証事業	その他	記載なし	記載なし
T-410	環境	干潟	干潟	記載なし	代償	記載なし	不明	人工干潟の造成(五日市地区)、藻場の移植(出島地区)。	記載なし	環境省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション - 自然環境の保全・復元技術 - ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	広島港環境修復事業	その他	記載なし	記載なし
T-411	環境	干潟	干潟	記載なし	代償	記載なし	不明	人工干潟の造成(浦崎地区)、藻場の造成(貝野地区)。	記載なし	環境省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション - 自然環境の保全・復元技術 - ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	尾道系崎港環境修復事業	その他	記載なし	記載なし
T-412	環境	干潟	干潟	記載なし	代償	記載なし	不明	人工干潟の造成	記載なし	環境省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	ミティゲーション - 自然環境の保全・復元技術 - ソフトサイエンス社 2001 森本・亀山編	水島港玉島ハーバーランド環境修復事業	その他	記載なし	記載なし
T-413	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	1997～1999	不明	保全エリア10haの利用動線に木道を設置、トンボ類やゲンゴロウ等の池沼やホタル水路の整備、整備作業時期の配慮、デンジソウ、ミスアオイ、ミストラノオ群落の補完的な移植、自然観察の場として展示棟を整備。	記載なし	大阪ガス	あり	動植物モニタリング 中池見全域の植生調査	1997 1998 1999	あり	アセスメント調査時(1994年度)を上回る種数が確認、新たな池沼では動物の自然移入が確認。	記載なし	自然復元特集7農村ビオトープ - 農業生産と自然との共存 - 信山社サイテック 2000 自然環境復元協会編 杉山・中川監修	敦賀市中池見	その他	10ha	1993～2000
T-414	環境	河川	水辺	記載なし	代償	1993	不明	延長150mのワンドを創造。水衝部以外は土羽のまま、水衝部も木杭と蛇かごで法面を安定させた。	記載なし	日野市	あり	水質や生物のモニタリング調査	記載なし	あり	程久保川本流3倍以上の16種の魚類を確認。	記載なし	都市に水辺をつくる 環境資源としての水辺計画 技術書院 1999 藤原宣夫	程久保川	その他	150m	記載なし
T-415	環境	河川	水辺	記載なし	代償	1993	不明	潤徳小学校に向島用水を引き込み2つのワンドを創造、伝統的河川工法を駆使し、郷土種を植栽。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	都市に水辺をつくる 環境資源としての水辺計画 技術書院 1999 藤原宣夫	向島用水親水路	その他	記載なし	記載なし
T-416	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1981竣工	不明	湧水を公園内に引き入れ自然を復元、小川に乱杭の土止めを整備、クヌギ、コナラ、ハンノキの植栽。カタクリ、ニリンソウの移植。	記載なし	日野市	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	都市に水辺をつくる 環境資源としての水辺計画 技術書院 1999 藤原宣夫	日野市山王下公園	その他	公園面積576㎡	記載なし
T-417	環境	湖沼	動植物	記載なし	代償	1980	不明	湧水を利用して2ヶ所の池を造成。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	コシアキトンボ他12種が確認、公園内にはタカノカンアオイ他410種の植物が確認。	記載なし	都市に水辺をつくる 環境資源としての水辺計画 技術書院 1999 藤原宣夫	南平丘陵公園	その他	公園面積4ha	記載なし
T-418	生物全般	動植物	動植物	記載なし	回避	記載なし	-	自然地区では自然環境保全を目的とし、観察施設や侵入防止施設は必要に応じて設置。	鶴殿のヨシ原や城北のワンドなど自然的価値が高い区域であるため	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	都市に水辺をつくる 環境資源としての水辺計画 技術書院 1999 藤原宣夫	淀川河川公園事業	その他	213ha	記載なし
T-419	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	野草広場地区ではタマリを設け、草原性植物、湿性植物を植栽。	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	都市に水辺をつくる 環境資源としての水辺計画 技術書院 1999 藤原宣夫	淀川河川公園事業	その他	213ha	記載なし
T-420	魚類	イバラトミヨ	イバラトミヨ	記載なし	代償	記載なし	不明	湧泉と水路の一体的な保全、流速が15～20cm/sの場合、5cm/s以下となるえぐれ部分を持つ水路構造とする。えぐれの配置や連続性の検討が必要、1/500の緩勾配とし、木杭による護岸構造が望ましい。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元5淡水生物の保全生態学 - 復元生態学に向けて - 信山社サイテック 1999 森誠一	秋田県仙北平野	その他	記載なし	記載なし
T-421	環境	河川	河川	記載なし	代償	1992～継続中	不明	既設のコンクリートブロックを壊し、緩傾斜護岸や丸太格子護岸を使用、複雑な水際を形成。水深が大きいオーバーハングの護岸を設置。	多自然型川づくり	北海道	あり	水生生物や植生などの追跡調査	1993～1998	あり	水生生物15種確認。以前は魚類が生息していなかったが冬期通水や下流落差工に魚道が整備され、イバラトミヨ、エソウグイ、フクドジョウなど魚類6科15種確認。	記載なし	自然復元5淡水生物の保全生態学 - 復元生態学に向けて - 信山社サイテック 1999 森誠一	精進川ふるさとの川づくり事業	その他	記載なし	記載なし
T-422	魚類	アユ	アユ	アユ漁場の創出のため	代償	1990～1992	不明	巨石投入による漁場の創出。	物理的環境と餌条件の改善	記載なし	あり	物理的環境 付着藻類現存量 種類構成 はみあと 魚類生息数	記載なし	あり	アユなど魚類の生息を確認。友釣りができる漁場となった。1996年の聞き取り結果、巨石は出水のために埋まっていた。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1999 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	北海道尻別川	その他	記載なし	記載なし
T-423	魚類	アユ	アユ	記載なし	代償	記載なし	不明	巨石投入	大石減少による生息数の減少	記載なし	あり	藻類生産量の変化	記載なし	あり	藻類生産量が増加、1996年の聞き取り結果、毎年巨石の掘り起こし作業が必要。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1999 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	宮城県鳴瀬川	その他	記載なし	記載なし
T-424	魚類	アユ	アユ	記載なし	代償	記載なし	不明	木枠に直径50～60cmの巨石を詰め込む。	物理的環境と餌条件の改善	記載なし	あり	漁獲尾数、平均体重、全長、肥満度の変化	記載なし	あり	漁獲尾数、平均体重が良好になった。1996年の聞き取り結果、巨石のほとんどが埋まってしまった。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1999 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	新潟県三面川	その他	記載なし	記載なし
T-425	魚類	魚類全般	魚類	河川改修による魚類の生息環境の消失	代償	記載なし	不明	木工沈床等の護岸を整備、直径40cm以上の巨石投入。	物理的環境と餌条件の改善	記載なし	あり	河川の形状、水深、流速、魚類の生息状況の変化	記載なし	あり	他区間より魚類の採捕量が多かった。1996年の聞き取り結果、同時に作った淵は埋まってしまった。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	長野県農具川	その他	記載なし	記載なし
T-426	魚類	アユ	アユ	記載なし	代償	記載なし	不明	巨石投入	物理的環境と餌条件の改善	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	なし	出水により巨石は流されるか砂に埋もれてしまった。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	群馬県神流川	その他	記載なし	記載なし
T-427	魚類	アユ	アユ	中州拡大による生息数の減少のため	代償	記載なし	不明	中州を除去し、大石を残した。	物理的環境と餌条件の改善	記載なし	あり	流量、川床、釣り場所、釣果、はみあとの範囲の変化	記載なし	あり	釣果が向上。1996年の聞き取り結果、一時的に生息環境は良好になるが常にメンテナンスが必要。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	広島県西城川	その他	記載なし	記載なし
T-428	魚類	アユ	アユ	河川改修による魚類の生息環境の消失	代償	記載なし	不明	巨石投入	物理的環境と餌条件の改善	記載なし	あり	流れの形状の変化	記載なし	あり	早瀬や淵が形成され生息場所が確保。1996年の聞き取り結果、大出水で巨石は埋まるか流された。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	広島県太田川	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(32/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-429	魚類	アユ	アユ	定住場所の拡大のため	代償	記載なし	不明	川路を川石の多い河川中央部に移動。	物理的環境と餌条件の改善	記載なし	あり	友釣りによる釣果の変化	記載なし	あり	釣果が向上。1996年の聞き取り結果、大出水で巨石は埋まるか流された。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	広島県太田川	その他	記載なし	記載なし
T-430	魚類	カジカ	カジカ	遡上力が弱く環境の変化に敏感な魚種の代表種	代償	1995	不明	せせらぎ魚道の整備	遊泳力が弱い小型の魚種の遡上経路の確保	建設省	あり	アユ、サツキマス、カジカ類など魚類のモニタリング調査	1995 1996	あり	小卵型カジカは他の魚道に比べ採集量が多く、遡上に有効に機能していることが確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	長良川河口堰	その他	記載なし	記載なし
T-431	環境	河川	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	ダム下流の河川維持流量を確保(集水面積100km <sup>2</sup> 当り0.2~0.3 /s)、排砂門ゲートの一部改造、魚道と流木路の活用。	記載なし	東京電力(株)	あり	記載なし	1996	あり	維持流量が確保され、瀬切れ区間の解消と景観が改善。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	片品川 柵之滝、鎌田、幅谷、千鳥、伏田発電所群	その他	記載なし	記載なし
T-432	環境	河川	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	取水ダムから放流し、河川維持流量を確保(集水面積100km <sup>2</sup> 当り0.2 /s)。	記載なし	四国電力(株)	記載なし	記載なし	記載なし	あり	10cm水位が上昇し、景観が大幅に改善。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	祖谷川 高柳、一字、出会の発電所	その他	記載なし	記載なし
T-433	環境	河川	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	サイフォン式放流施設を新設、河川維持流量を確保(集水面積100km <sup>2</sup> 当り0.2 /s)。	記載なし	電源開発(株)	記載なし	記載なし	記載なし	あり	瀬みの解消による清流復活。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	美里別川 足寄発電所	その他	記載なし	記載なし
T-434	環境	河川	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	支川の奥平取水堰から1.0l /s以上を確保。	記載なし	電源開発(株)	記載なし	記載なし	記載なし	あり	減水区間の解消、濁水長期化の改善。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	新宮川 十勝川第一発電所	その他	記載なし	記載なし
T-435	魚類	魚類全般	魚類	琵琶湖の固有種	代償	1981~1986年度	不明	ホンモロコやニゴロブナの増殖場の造成、産卵繁殖場、浮き産卵床、仔魚保護礁、消波施設、親魚誘導礁の整備、水際にヨシ、マコモ、ヤナギを植栽。	記載なし	滋賀県	記載なし	記載なし	記載なし	あり	浮島に植栽したツルヨシの根に産卵が確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	大規模増殖場造営事業	その他	浮き産卵床設置面積2,268m <sup>2</sup>	記載なし
T-436	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	記載なし	不明	面積約100m <sup>2</sup> のひょうたん状浮島を設置、水際部にスロープ設置、イヌコリヤナギ植栽。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	平成7年よりカルガモの営巣が確認、浮島上部にアカマツ、エビヅル、オカトラノオ、キジムシロ等の生育が確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	那珂川水系飯田ダム	その他	記載なし	記載なし
T-437	環境	湿原・湿地	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	赤土流入防止のための第二貯水池を利用して湿地ビオトープを造成。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	湿性植物、水生昆虫類、水辺の鳥類のにおいて種の増加が確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	沖縄県漢那ダム	その他	記載なし	記載なし
T-438	環境	湿原・湿地	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	不規則な水たまりを多数造成し湿地ビオトープとしている。マコモ、ガマ、セキショウ、ミクリ、スゲ、ヤナギを植栽。	記載なし	記載なし	あり	モニタリング調査	1993~1996	あり	トンボ類は93~95年種数、個体数ともに増加、96年には植物産卵型は個体数が減少、水面産卵型は種数減少、個体数は増加。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	神奈川県宮ヶ瀬ダム	その他	記載なし	記載なし
T-439	植物	湿原植生	湿原植生	記載なし	代償	1991(完成)	不明	開発によって消失するイヌノハナヒゲが優占する貧栄養型湿原の移設。	記載なし	岡山県自然保護センター	記載なし	記載なし	記載なし	あり	開園後5年(1996)で貧栄養型湿原植生が定着。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	岡山県自然保護センター 湿性植物園	その他	面積0.8ha	記載なし
T-440	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1988	不明	破壊が危惧される植物群落を土壌とともにコピー移植。	記載なし	千葉県立中央博物館	記載なし	記載なし	記載なし	あり	移植後4年間に190種出現、2年後に出現のビークが見られる。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	千葉県立中央博物館生態園	その他	記載なし	記載なし
T-441	植物	植物全般	植物	明治の森箕面国定公園内のため	代償	1980~	不明	表土まき出し法による植生の復元。	記載なし	記載なし	あり	追跡調査	記載なし	あり	2~3年後には埋土種子起源のアカメガシワが優占する二次林となった。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	箕面川ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-442	環境	湖沼	動植物	記載なし	代償	1988~1989	不明	底泥の浚渫、流入生活排水の切り直し、魚類の除去。	有機物や栄養塩類の負荷の低減と透明度の維持のため	千葉県立中央博物館	記載なし	記載なし	記載なし	あり	改修後2年間で改修前の2倍の87種の水生生物が確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	千葉県立中央博物館舟田池	その他	0.98ha	記載なし
T-443	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	橋梁下部5ヶ所、カルバート・ボックス3ヶ所、コルゲート・パイプ1ヶ所が設置。鳥類の道路横断のための高木植栽。	記載なし	日本道路公団	あり	目撃記録、足跡調査、自動撮影調査	1981 1982 1984 1992	あり	全ての横断施設において利用が確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	日光宇都宮道路	首都高速道路等	記載なし	記載なし
T-444	生物全般	動植物	動植物	国立公園内のため	代償	記載なし	不明	道路盛土法面に前付け植栽を実施。チョウジギゼル等の小動物に配慮した地域の植生に近い種類の植栽。	記載なし	記載なし	あり	追跡調査	記載なし	あり	道路建設、供用に伴って周辺植生や生物相に大きな変化は認められない。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	日光宇都宮道路	首都高速道路等	記載なし	記載なし
T-445	両生類	モリアオガエル	モリアオガエル	記載なし	代償	記載なし	不明	道路敷地外に繁殖池(コンクリート製、直径約150cm、深さ25cm)2ヶ所を造成。	記載なし	日本道路公団	あり	記載なし	記載なし	あり	モリアオガエルの卵塊が確認、近傍の排水溝等でも卵塊が確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	日光宇都宮道路	首都高速道路等	繁殖池(2ヶ所)コンクリート製、直径約150cm、深さ25cm	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(33/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-446	鳥類	ヤマセミ	ヤマセミ	付替道路工事で営巣を確認	低減	平成5～6年	-	付替道路工事で発生した法面の吹き付け緑化を一時中断、ヤマセミ営巣地周辺を保存、緑化。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	平成6年春、巣立ちを確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	熊本県川辺川ダム	その他	記載なし	記載なし
T-447	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	平成2年	不明	法面をヤマハギ、イタチハギの播種により緑化。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	平成10年8月ヒヨドリの営巣を確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	福島県三春ダム	その他	記載なし	記載なし
T-448	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	付替道路法面の小段や擁壁上部に雨水を貯める水場を設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	水場に哺乳類の糞や足跡等が多数確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	熊本県川辺川ダム	その他	記載なし	記載なし
T-449	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	都市公園内の芝生を在来野草種につくり変える。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	カールスルーエ市内の公園の野生化事業	その他	記載なし	記載なし
T-450	植物	植物全般	植物	記載なし	低減	記載なし	-	都市公園内の在来種の草地管理を刈り込む所と刈り込まない所を設定。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	カールスルーエ アルプ川	その他	記載なし	記載なし
T-451	環境	湿原・湿地	動植物	記載なし	代償	1994	不明	ピオトプ空間の整備、棚田の池、溜まり、湿地、水路などの水環境と林の形態の多様性に配慮した整備。	記載なし	記載なし	あり	記載なし	1995～1997年度	あり	鳥類は水辺や樹林性、砂礫地性、農耕地性などの多様な環境に依存する種群が確認。トンボは97年度37種、チョウは51種を確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	八王子ニュータウン ホタル沢緑地	その他	記載なし	記載なし
T-452	環境	湿原・湿地	動植物	記載なし	代償	1986～1988	不明	北の森サンクチュアリ、トンボの湿地、水鳥の池サンクチュアリを整備し、内部・外部のネットワークが図られる。	記載なし	国営昭和記念公園	記載なし	記載なし	記載なし	あり	1990年に4科18種のトンボが確認され、イトトンボの仲間が増加。鳥類は27科59種確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	国営昭和記念公園	その他	公園開園面積125ha	記載なし
T-453	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	昭和60年開設	不明	バードサンクチュアリの整備。樹林地、草地、疎林、湿地、流れ、池、州浜、中の島を配置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	16科24種の野鳥が確認。当初計画した大部分の鳥相を誘致。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	光ヶ丘公園バードサンクチュアリ	その他	記載なし	記載なし
T-454	環境	湿原・湿地	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	湿地の整備。アサザ、ガガバタ、オニバス等の植栽。湖から池に適上可能な連絡水路を設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	水路内ではナマズ、モズクガニ、ウナギを確認。ミスオイ池ではクルマサヨリ、ボラ、テナガエビを確認。アサザ池ではギンヤンマ、イトトンボの産卵を確認。菜山橋穴にカワセミの繁殖を確認。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	茨城県潮来町 水郷トンボ公園	その他	記載なし	記載なし
T-455	環境	河川	水辺	記載なし	代償	記載なし	不明	遊び場としての川づくり、生物の連続性としての整備、堤防の保全。	良好な水辺環境の創出・保全のため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	梅田川水辺楽校プロジェクト	その他	対象区間1.12km	記載なし
T-456	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	道路法面や環境施設帯に地域に最適な植栽。	記載なし	建設省相武国道工事事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	圏央道ふるさとの森づくり	その他	記載なし	記載なし
T-457	昆虫	ギフチョウ	動植物	記載なし	代償	平成4～8年度	不明	ヒメカンアオイ、ギフチョウの道路建設地からの移植。ギフチョウの飼育、放蝶。	記載なし	加古川市(平成9年度～)	あり	生息環境、整備地の環境調査	記載なし	あり	平成10年自然状態でギフチョウのサナギが発見。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	山陽自動車道	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-458	植物	イチリンソウ	イチリンソウ	記載なし	低減	記載なし	-	イチリンソウ保護のためアオキを除去する下刈作業を実施。生育地への立入制限のロープ設置。	記載なし	世田谷区・地元自治会	記載なし	記載なし	記載なし	あり	イチリンソウの出現と開花が増加。	記載なし	増補応用生態工学序説 - 生態学と土木工学の融合を目指して - 信山社サイテック 1996 応用生態工学序説編集委員会編 廣瀬利雄監修	世田谷区大蔵3丁目公園	その他	記載なし	記載なし
T-459	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	オーバーブリッジ、アンダーパスによりけもの道を確保し、顔場や休息場となる緑地を整備しネットワークを形成する。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	土木技術資料 第43巻 第10号 2001.10 国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所監修(財)土木研究センター	不明	その他	記載なし	記載なし
T-460	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1999～2000	不明	浚渫土処分地内に90㎡の止水域を設定し、土壌シールドバンクの実験実施。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	2種の沈水植物を含む10種の水生生物を確認。	記載なし	「湖沼沿岸の植生帯の衰退と土壌シールドバンクによる再生の可能性」土木技術資料 第42巻第12号 2000.12 国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所監修(財)土木研究センター	不明	その他	90㎡	記載なし
T-461	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	アウトジャンプの設置	道路に進入した動物が脱出できるため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	土木技術資料 第41巻第8号 1999.8 建設省土木研究所(財)土木研究センター	北海道国道334号	その他	記載なし	記載なし
T-462	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	切り取り法面のラウンディング	勾配が緩和され周辺植生の侵入が容易になるため	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	樹林化が助長され、周辺環境との調和が図られている。	記載なし	土木技術資料 第41巻第8号 1999.8 建設省土木研究所(財)土木研究センター	名神高速道路象鼻山付近	その他	記載なし	記載なし
T-463	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	自然植生を利用したユニット苗工法	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	土木技術資料 第41巻第8号 1999.8 建設省土木研究所(財)土木研究センター	中央自動車道八王子JCT付近	その他	記載なし	記載なし
T-464	環境	湿原・湿地	動植物	記載なし	代償	1993	不明	1000㎡の人工浮島を設置(湿式フレーム有り)	記載なし	建設省関東地方建設局霞ヶ浦工事事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	植物群落の主要種はヨシ、マコモ、ツルヨシ、キショウブの4種。魚類はブルーギル、モツゴなどの当歳魚。鳥類はオオシキリ、パンの営巣が確認。昆虫類35科53分類群、真正クモ類8科18分類群確認。	記載なし	「人工浮島の機能と技術の現状」土木技術資料 第41巻第7号 1999.7 建設省土木研究所(財)土木研究センター	霞ヶ浦土浦港	その他	1000㎡	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(34/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年	
T-465	環境	湿原・湿地	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	琵琶湖に約1500m <sup>2</sup> の人工浮島(浮産卵礁)設置。	記載なし	滋賀県	記載なし	記載なし	記載なし	あり	コイ、フナ、ホンモロコの産卵、8,500万粒確認。	記載なし	「人工浮島の機能と技術の現状」土木技術資料 第41巻第7号 1999.7 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	琵琶湖	その他	1500m <sup>2</sup>	記載なし	
T-466	環境	河川	水辺	記載なし	代償	平成9～10年度	不明	ダム貯水池に人工生態礁(6m×6m)を設置、1mの人工根をつるし糸状藻類を移植して実験。	記載なし	建設省土木研究所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	人工礁を設置した水界の透明度は良好。	記載なし	「土師ダムにおける人工生態礁現地実験」土木技術資料 第41巻第5号 1999.5 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	広島県土師ダム	その他	記載なし	記載なし	
T-467	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	ボックスカルバート、オーバーブリッジの設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	水道管用オーバーブリッジをテンが利用。	記載なし	土木技術資料 第40巻第5号 1998.5 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	宮崎自動車道	その他	記載なし	記載なし	
T-468	甲殻類	オカガニ	オカガニ	記載なし	代償	記載なし	不明	道路下にボックスカルバートを設置、誘導用スロープの整備。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	土木技術資料 第40巻第5号 1998.5 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	国道58号	その他	記載なし	記載なし	
T-469	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	動物専用ボックスカルバートの設置	記載なし	建設省東北地方建設局湯沢工務事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	カモシカ、タヌキ、キツネ、ノウサギの利用が確認。	記載なし	土木技術資料 第40巻第5号 1998.5 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	国道108号鬼首道路	その他	記載なし	記載なし	
T-470	生物全般	動物	動植物	国立公園内のため	代償	記載なし	不明	エコダクトの設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	シカをはじめとする様々な動物の移動が確認、大規模な施設は分断された植生の連続性を確保。	記載なし	土木技術資料 第40巻第5号 1998.5 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	オランダ	その他	記載なし	記載なし	
T-471	植物	植物全般	植物	河原固有の生物の保全のため	代償	記載なし	不明	カワラサイコ、カワラヨモギを河原植物保全研究ゾーンへ移植。	記載なし	自然共生研究センター	記載なし	記載なし	記載なし	あり	移植後の生存率はカワラヨモギ82%、カワラサイコ66%。	記載なし	土木技術資料 第40巻第5号 1998.5 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	木曾川北派川	その他	記載なし	記載なし	
T-472	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	記載なし	不明	深作調整池の整備、乱杭、中島、浮島、浅瀬、ヨシ・ガマなど抽水植物、緑化ブロックなどの整備。	記載なし	記載なし	あり	鳥類生息調査、ルートセンサス、定位記録法。	平成5年 平成6年	あり	平成5年度は14科23種の鳥類が確認、オオヨシキリ、バン、ヨシゴイ、カイツブリの営巣を確認。	記載なし	「鳥類を対象とした調整池のビオトープ整備」土木技術資料 第40巻第5号 1998.5 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	綾瀬川深作川	その他	記載なし	記載なし	
T-473	植物	植物全般	植物	ダム貯水池の緑化	代償	記載なし	不明	ダム法面に試験植物の導入(播種、植栽、挿し木など)	記載なし	建設省	あり	記載なし	記載なし	あり	多くのダムで平均植被率が70%を超えた。	記載なし	「ダム貯水池法面の緑化対策」土木技術資料 第40巻第5号 1998.5 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	不明	その他	記載なし	記載なし	
T-474	環境	海岸・海辺	海岸	記載なし	低減	平成6～7年度	-	サンドリサイクルシステムの導入実験、6年度は没深した土砂を海上輸送で侵食域に投入、7年度は陸上採取し、トラック輸送で侵食域に養浜。	記載なし	建設省中国地方建設局日野川工務事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	6年度は初期汀線より大幅な後退は生じなかった、7年度は汀線の回復が確認。	記載なし	「マヅ海岸におけるサンドリサイクルシステム現地実験」土木技術資料 第39巻第7号 1997.7 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	鳥取県マヅ海岸	その他	記載なし	記載なし	
T-475	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	不明	旧河道の復元。昔どおりの淵や瀬の整備。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	土木技術資料 第38巻第2号 1996.2 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	鳥取県八東川	その他	記載なし	記載なし	
T-476	環境	湿原・湿地	湿原	記載なし	代償	記載なし	不明	橋梁構造の工夫	湿原内に橋脚を立てないため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	土木技術資料 第38巻第2号 1996.2 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	北海道縦貫自動車道	高速自動車国道	記載なし	記載なし	
T-477	環境	河川	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	鋼矢板護岸に植栽フィン施工	水際植生の回復と景観の向上のため	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	マコモ、ガマの生育が良好、魚類の産卵場、稚魚の生息場所の創造が確認。	記載なし	土木技術資料 第38巻第2号 1996.2 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	土浦市備前川	その他	記載なし	記載なし	
T-478	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	低水河岸植生導入工法による施工	法面に植生域を創造し水際部との連続性確保のため	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	土木技術資料 第38巻第2号 1996.2 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	建設省土木研究所	その他	記載なし	記載なし	
T-479	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	緑化ボースコンクリートを河川堤防に試験施工	記載なし	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	植物は良好に生育、コンクリートの劣化も見られない。	記載なし	土木技術資料 第38巻第2号 1996.2 建設省土木研究所 (財)土木研究センター	那珂川	その他	記載なし	記載なし	
T-480	環境	湿原・湿地	湿地	記載なし	低減	記載なし	-	道路構造を盛土から橋梁に変更	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	大保ダム	ダム	記載なし	記載なし	
T-481	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	付替道路は貯水池上を橋を連続させるルートとする。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	大保ダム	ダム	記載なし	記載なし	
T-482	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	堤体材料の採取は水没予定地を優先。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	ダム	記載なし	記載なし	
T-483	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	貯水池内に水没する沢を残し処分地とし、跡地を湖畔公園として整備。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	ダム	記載なし	記載なし	
T-484	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	-	尾根部の道路で縦断線形を上げて、切土の面積を縮小化。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	大保ダム	ダム	記載なし	記載なし	
T-485	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1989	不明	道路法面の裸地に在来種の苗木植栽、播種による早期緑化。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-486	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	切土法面に小苗を植栽し、在来樹種の種子を混ぜた土を表面に吹付ける。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	大保ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-487	生物全般	動植物	動植物	記載なし	低減	記載なし	工事中	シートを敷いた上に工所用仮設侵入路を施工。	工事終了後の撤去及び渓流環境の保全のため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	羽地ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-488	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	骨材製造プラント跡地に苗木植栽。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	ダム	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(35/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-489	植物	ソルラン	ソルラン	記載なし	代償	記載なし	工事中	工事予定区域外への移植	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	羽地ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-490	植物	マングローブ	マングローブ	記載なし	代償	1991	不明	ダム下流の汽水域にマングローブ類の苗木の植栽。虫のシェルターの設置。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-491	昆虫	フタオチョウ	フタオチョウ	希少種(国、沖縄県)	代償	記載なし	不明	フタオチョウの食草木の植栽	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	羽地ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-492	昆虫	昆虫全般	昆虫類	記載なし	代償	記載なし	不明	貯水池の周囲に伐採木をシェルターとして設置。	昆虫や小動物の棲み処や隠れ場所とするため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	倉敷ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-493	哺乳類	オキナワコキクガシラコウモリ	オキナワコキクガシラコウモリ	危急種(沖縄県)	代償	記載なし	不明	代替洞窟として天井に石を埋め込んだボックスカルバートを残土処分に埋設。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	羽地ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-494	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	廃道となる旧道を撤去して、溪流環境を復元。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	大保ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-495	鳥類	ノグチゲラ	ノグチゲラ	記載なし	代償	1990	不明	貯水池周辺の林内に伐採木を利用した人工営巣木を設置。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	辺野喜ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-496	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1992	不明	エビ、カニ、ハゼ、ウナギが行き来できる魚道の設置。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-497	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	ボックスカルバートの設置	沢の連続性の確保のため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-498	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	1989	不明	小動物保護型側溝の設置	小動物が落ちて自力ではい上げられる形状のため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-499	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	1995	工事中	河川の切替区間に切り残された水生生物を捕獲し、切替区間外へ移動。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	羽地ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-500	生物全般	動物	動物	記載なし	低減	記載なし	-	布シートによる残土処分の仮囲い	工事現場に小動物が森から迷い込まないため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	羽地ダム	ダム	記載なし	記載なし
T-501	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	低減	記載なし	-	官吏棟の窓ガラスにウシタカ類の絵を貼る。	小鳥の衝突事故を防ぐため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	北部ダム事務所	その他	記載なし	記載なし
T-502	昆虫	昆虫全般	昆虫類	記載なし	低減	記載なし	-	湖畔公園でナトリウムランプ照明を使用。	誘虫性が低いため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	その他	記載なし	記載なし
T-503	環境	湿原・湿地	動植物	記載なし	代償	1993	不明	湿地ビオトープの創出。鳥類のエサとなる実を付ける木の植栽。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	漢那ダム	その他	記載なし	記載なし
T-504	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1995	不明	魚道の設置。魚道の途中にひょうたん池を整備。	魚道が長く途中の休憩場所とするため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	倉敷ダム	その他	記載なし	記載なし
T-505	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	記載なし	不明	人工浮島の設置	水鳥の餌場を兼ねた生息場所とするため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	福地ダム	その他	記載なし	記載なし
T-506	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	1996	不明	人工河川の創出	エビ、カニ、ハゼなどの生息場所とするため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	倉敷ダム やんばるの川	その他	記載なし	記載なし
T-507	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	1996	不明	ダム流入河川の遡上障害除去	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	安波ダム	その他	記載なし	記載なし
T-508	魚類	リュウキュウアユ	リュウキュウアユ	記載なし	代償	1992(開始)	不明	貯水池に流入する河川にリュウキュウアユの稚魚を放流。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	福地ダム サンヌマク川	その他	記載なし	記載なし
T-509	魚類	リュウキュウアユ	リュウキュウアユ	記載なし	代償	1994(開始)	不明	リュウキュウアユの陸封化	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	安波ダム	その他	記載なし	記載なし
T-510	魚類	リュウキュウアユ	リュウキュウアユ	記載なし	代償	1995(開始)	不明	リュウキュウアユの陸封化	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	辺野喜ダム	その他	記載なし	記載なし
T-511	環境	河川	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	残土処分跡地に溪流ビオトープを創出。	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	羽地ダム	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(36/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年	
T-512	環境	河川	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	下流河道のビオトープ化	リュウキュウアユなどの流水性生物の生息に適した環境を整えるため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	羽地ダム	その他	記載なし	記載なし	
T-513	哺乳類	コウモリ	コウモリ	記載なし	代償	記載なし	不明	ダム完成後、不要となった仮排水路の天井や出入口の形状加工や、出入口周辺の植栽。	コウモリなどの生息に適した洞窟環境の創出のため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	羽地ダム	その他	記載なし	記載なし	
T-514	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	1995	不明	実のなる木や樹液の多い木の植栽。	鳥や昆虫の餌とするため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	倉敷ダム	その他	記載なし	記載なし	
T-515	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	1996	不明	橋台、橋脚に人工営巣木の設置。	へびに襲われたり雨の降り込む心配が少ないため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	大保ダム	その他	記載なし	記載なし	
T-516	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	橋脚の外壁部に八二カム板を設置。	小鳥やハチの営巣のため	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	大保ダム	その他	記載なし	記載なし	
T-517	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	網場(流木止)を幅広くして植栽	記載なし	沖縄総合事務局北部ダム事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	エコダム宣言 - 生態系保全親時代 - 平成9年2月 沖縄総合事務局北部ダム事務所 社団法人沖縄建設弘済会	大保ダム	その他	記載なし	記載なし	
T-518	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	1987～1988	不明	鴨川市の開発予定地内の照葉樹林を生態園内にコピー移植。	破壊の危惧される植物群落を移動させる可能性についての研究のため	千葉県立中央博物館	記載なし	記載なし	記載なし	あり	1991年に常緑12種、落葉広葉44種と種数が移植前の2倍に増加、落葉種の新出が著しい。	記載なし	都市につくる自然 - 生態園の自然復元と管理運営 - 信山社 1996 沼田真監修	千葉県立中央博物館生態園	その他	記載なし	記載なし	
T-519	植物	ススキ(植栽群落)	ススキ植栽群落	記載なし	代償	1987～1990	不明	外来種の影響を防ぐため裸地を造成し、ススキやハギ類を植栽。	記載なし	千葉県立中央博物館	あり	植物社会学的方法による植生調査	1989～1992	あり	1992年にはススキの優占度は出現植物の中で最も高くなった。生活型組成では多年生草本が50%以上を占めた。	記載なし	都市につくる自然 - 生態園の自然復元と管理運営 - 信山社 1996 沼田真監修	千葉県立中央博物館生態園	その他	記載なし	記載なし	
T-520	植物	海岸植物	海岸植物	記載なし	代償	1989～1992	不明	海岸から種子や枝を採取して直接播種したり、実生や挿し木から苗を育てて順次植栽。年2～3回程雑草の手作業による除去。	記載なし	千葉県立中央博物館	記載なし	記載なし	記載なし	あり	多くの海岸植物は海水散布など特別な処理を施さなくても概ね生存した。雑草の除去の効果が高いと考えられる。生存率が低いのはボタンボウフウとハマゼリのみ。	記載なし	都市につくる自然 - 生態園の自然復元と管理運営 - 信山社 1996 沼田真監修	千葉県立中央博物館生態園	その他	記載なし	記載なし	
T-521	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	河口堰の左右岸に呼び水式魚道とロック式魚道を併設。呼び水式魚道はスライドゲートを設置し、玉石魚道やデニール魚道を採用。ロック式魚道は植石を設置。	多種多様な魚類の遡上効果を高めたり、休息や逃避行動に配慮。	建設省中部地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	アユは3日間で推定約13万尾遡上の他、サツキマスなどの多くの魚類の遡上を確認。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	長良川	その他	記載なし	記載なし	
T-522	環境	干潟	干潟	木曾三川河口部の地盤沈下などにより干潟が消失しているため	代償	記載なし	不明	損壊・長良川河口部に4箇所、損壊川河口沖に2箇所の干潟を造成。	記載なし	建設省中部地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	予定した形の干潟ができてつづつある。桑名市沖の約20haの干潟では多くの水鳥が確認。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	渚プラン	その他	桑名市沖約20ha	記載なし	記載なし
T-523	植物	植物全般	植物	ブランケットや浚渫による植物群落の一部消失のため	代償	記載なし	不明	治水可能な所ではブランケット(高水敷)の前面で植生を復元。魚層ブロックや捨石の施工。	水生生物への影響の緩和を合わせて図るため	建設省中部地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	植生の回復とともに多くの小動物を確認。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	長良川	その他	記載なし	記載なし	
T-524	環境	河川	ワンド	記載なし	代償	記載なし	不明	多自然型護岸整備。低水護岸の位置を変更し、矢板護岸整備。緩傾斜に玉石を詰め、空隙の多い沈床工とした。	植生の回復と魚類などの水生生物の生息に配慮	建設省中部地方建設局	記載なし	記載なし	記載なし	あり	植生の復元、多くの魚類の生息を確認。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	長良川中小敷地区	その他	記載なし	記載なし	
T-525	は虫類	アカウミガメ	アカウミガメ	天然記念物(宮崎県・市)	代償	昭和62年度～	不明	改良型緩傾斜護岸を施工。従来型護岸中央部10mを50cm下げボケットを設置。	アカウミガメの産卵に必要な砂厚の確保	宮崎県土木部	あり	記載なし	平成2～4年度	あり	平成4年度は直立護岸や従来型護岸に比べ産卵率が高い。砂の堆積量の減少により、平成3年度に比べ4年度は産卵率が悪化。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	宮崎県住吉海岸	その他	改良型緩傾斜護岸0.45km	記載なし	記載なし
T-526	植物	植物全般	植物	記載なし	回避	記載なし	-	休憩施設の園地に既存林を保存。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	道央自動車道富浦P.A.	高速自動車国道	記載なし	記載なし	
T-527	植物	植物全般	植物	記載なし	回避	記載なし	-	既存林の保存。道路両側20m幅の緩衝帯と12m幅の中央分離帯の整備。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	道央自動車道富浦P.A.	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-528	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	盛土法面へのシラカシ、ヤマモモの苗木植栽。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	16年後の現在、樹林となっている。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	九州自動車道	高速自動車国道	記載なし	記載なし	
T-529	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	道路敷内の表土をはぎとり、盛土法面に利用。周辺植生の樹種を植栽。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	法面が早期樹林化。昆虫相の回復状況は良好。チョウ相への影響の軽減が確認。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	日光宇都宮道路	首都高速道路等	記載なし	記載なし	
T-530	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	表土の有効利用と周辺植生と同種の植樹。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	東富士五湖道路	高速自動車国道	記載なし	記載なし	
T-531	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	植生遷移を利用した切土法面の復元	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	28年後は周辺と同様の樹林が復元。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	名神高速道路	高速自動車国道	記載なし	記載なし	
T-532	生物全般	動物	動物	国立公園内のため	代償	記載なし	不明	橋梁下部5箇所、カルバートボックス3箇所、コルゲートパイプ1箇所の道路横断施設の設置。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	あり	供用初期からの動物の利用が確認。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	日光宇都宮道路	首都高速道路等	国立公園区間2km	記載なし	記載なし
T-533	両生類	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	記載なし	代償	記載なし	不明	遡上に配慮した階段を設けた水路の整備。水路下部に魚層ブロックの設置。	遡上と移動の際の隠れ家とするため	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	米子自動車道	高速自動車国道	記載なし	記載なし	

環境保全措置事例一覧  
(37/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-534	昆虫	ホタル	ホタル	記載なし	代償	記載なし	不明	自然風水路整備。水量を一定に保ち、両岸に植樹、水際に木杭を設置。	ホタルの生息環境に配慮	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	横浜横須賀道路釜利谷JCT	首都高速道路等	記載なし	記載なし
T-535	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	不明	水路を蛇行させ、遡上の助走スペースの確保。水路下部に避難場所を設け、底部に自然石を埋める。	記載なし	日本道路公団	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	不明	その他	記載なし	記載なし
T-536	鳥類	鳥類全般	鳥類	記載なし	代償	記載なし	不明	掘削し1.5mmの防水シートを張り、雨水を貯めて水鳥の池を造成。隣接した敷地にバードサンチュアリを設置。カワセミのための巣箱を設置、人工崖を造成。	記載なし	国営昭和記念公園	記載なし	記載なし	記載なし	あり	岸辺はススキ、クズ、カタツリグサ、ガマ等の群落が生長し、約110種の鳥類が確認。人工崖にカワセミ1つがいが営巣、6羽が巣立った。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	国営昭和記念公園	その他	水面積5ha	記載なし
T-537	昆虫	トンボ	トンボ	記載なし	代償	記載なし	不明	約1haの湿地を整備	記載なし	国営昭和記念公園	記載なし	記載なし	記載なし	あり	18種のトンボを確認。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	国営昭和記念公園	その他	約1ha	記載なし
T-538	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	人工丘陵にクスギ、ケヤキ、イヌシデ、エノキ等の雑木林の樹種1万本を植栽。小動物や昆虫のサンチュアリを設置。	記載なし	国営昭和記念公園	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	国営昭和記念公園	その他	記載なし	記載なし
T-539	植物	植物全般	植物	記載なし	回避	記載なし	-	以前から存在していた樹高15m以上のアカマツ、樹冠幅20mに達するスダジイ等の樹木は極力現存位置に保存。現位置に保存できないものは根回しを施し再利用。	記載なし	国営昭和記念公園	記載なし	記載なし	記載なし	あり	整備着手10年余で緑豊かな鬱蒼とした環境が形成されつつある。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	国営昭和記念公園	その他	記載なし	記載なし
T-540	植物	植物全般	植物	記載なし	回避	記載なし	-	敷地内で採取した表土を適切に保存し、植栽地の造成時に再利用。	記載なし	国営昭和記念公園	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	国営昭和記念公園	その他	記載なし	記載なし
T-541	植物	植物全般	植物	記載なし	代償	記載なし	不明	園内70万株のネジバナの開花期を避け、草刈りの時期や回数を設定。未供用区域のカントウタンボボを移植、播種。その他武蔵野の野草の保全や播種。	記載なし	国営昭和記念公園	記載なし	記載なし	記載なし	あり	カントウタンボボは現在1万株以上が園内に定着。	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	国営昭和記念公園	その他	記載なし	記載なし
T-542	生物全般	動物	動物	記載なし	低減	記載なし	-	'みんなの原っぱ'周辺部では刈り込みを年数回に減少。同一箇所を一齐に刈り取らない。	昆虫、草党性鳥類、ノウサギ等の棲息に適した草丈の高い草地の増加のため	国営昭和記念公園	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	国営昭和記念公園	その他	記載なし	記載なし
T-543	環境	湿原・湿地	湿原	記載なし	代償	記載なし	不明	ミスギボウシ、イヌノハナビゲ類、オオミスズク等湿原植生の植栽。サウギキョウ、ミソハギ等の移植、木道の設置。	記載なし	岡山県自然保護センター	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	岡山県自然保護センター	その他	記載なし	記載なし
T-544	生物全般	動物	動物	記載なし	代償	記載なし	不明	動物用の横断トンネルやオーバーブリッジ、小動物が通り出せる側溝、カエルの産卵池の植物の移植。	エコロードとして	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	霧ヶ峰有料道路	高速自動車国道	記載なし	記載なし
T-545	魚類	アユ	アユ	記載なし	代償	記載なし	不明	人工の常設産卵河川の設置。	記載なし	滋賀県	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	琵琶湖総合開発事業	その他	記載なし	記載なし
T-546	植物	水生植物群落	水生植物群落	記載なし	代償	記載なし	不明	ヨシ等水生植物の人工浮島を創出	魚類や水鳥の生息空間であるヨシ等の水生植物群落の復元。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	霧ヶ峰湖岸	その他	記載なし	記載なし
T-547	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	砂礫や土による多孔質な河岸の創出。抽水植物帯や中流部の植生の再生。オギ、タチヤナギ等代表的な植生を活かした河岸を創出し、高水敷の自然利用整備。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	東京都多摩川	その他	記載なし	記載なし
T-548	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	自然を公園の中に取り入れたビオトープ整備。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	JACIC情報 第35号VOL.9NO.3 1994 財団法人日本建設情報総合センター	埼玉県北本自然観察公園	その他	記載なし	記載なし
T-549	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	工事中	上流の公園内でコンクリート護岸を緩傾斜の土の護岸に再改修。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	神奈川県大和市引地川	その他	記載なし	記載なし
T-550	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	工事中	遊水地内で河道を大幅に広げ、緩傾斜の岸辺を創出。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	静岡市浅畑川	その他	記載なし	記載なし
T-551	魚類	カワバタモロコ	カワバタモロコ	記載なし	代償	記載なし	工事中	河道わきにしほり水を利用した細流を創出。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	静岡県藤枝市藪田川	その他	記載なし	記載なし
T-552	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	工事中	コンクリート護岸に代えて柳枝工と粗朶沈床による護岸を採用し、水衝部に杭出しを併設。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	愛知県矢作川	その他	記載なし	記載なし
T-553	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	工事中	低水護岸に栗石粗朶工が施工、根固工として粗朶沈床と捨石が採用。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	信濃川	その他	記載なし	記載なし
T-554	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	工事中	フン籠、木工沈床、粗朶構工などの活用。下流部では聖牛、木工沈床、蛇籠などを間伐材を活用して設置。	魚類に良好な生息環境の創出のため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	島根県高津川	その他	記載なし	記載なし
T-555	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	工事中	段差のない斜路工に変更、根固工として木工沈床を採用。	魚類の遡上を可能にするため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	横浜市梅田川	その他	記載なし	記載なし
T-556	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	工事中	木工沈床、杭構工、蛇籠、空石積みで整備。	魚類の生息環境の改善のため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	長野県農具川	その他	記載なし	記載なし

環境保全措置事例一覧  
(38/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-557	環境	河川	動植物	記載なし	代償	記載なし	工事中	低水護岸の改修に水制を用いる。	近自然河川工法。平常時の水位から数10cmの範囲での動植物の生息空間の創出。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	スイス ツール川	その他	記載なし	記載なし
T-558	環境	河川	河川	記載なし	代償	平成3年度	工事中	災害復旧工事に際し、護岸法覆工に丸太格子枠にヤナギの枝を埋め、高水時に流出しない石を水制兼床止めとした。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	愛知県加納川	その他	記載なし	記載なし
T-559	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	工事中	床止工群を川床に隠し込み、大小の玉石を水際線上に設置。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	愛知県井山川	その他	記載なし	記載なし
T-560	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	工事中	2種の工法をジョイントさせた根固め水制による施工	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	愛知県巴川	その他	記載なし	記載なし
T-561	環境	河川	河川	記載なし	代償	平成4年度(完成)	工事中	平水調整タイプの水制と中州の砂利を利用した根固めによる護岸・根固め水制の施工。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	愛知県矢作川	その他	約800m	記載なし
T-562	環境	河川	河川	記載なし	代償	記載なし	工事中	根固め水制の施工	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	徳島県那賀川	その他	記載なし	記載なし
T-563	環境	河川	水辺	記載なし	代償	記載なし	不明	松杭、松板橋等で土留補修を実施。危険箇所は玉石積で補修。	記載なし	日野市	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	日野市よそう森掘	その他	記載なし	記載なし
T-564	昆虫	トンボ	トンボ	記載なし	代償	平成4～5年度	不明	潤徳小学校の裏庭560㎡にトンボ池を造成。コンクリート護岸を緩傾斜の土の護岸に改修。土留として松杭を設置。水衝部等は玉石積や蛇籠を施工。将来を想定して高木の本数をおさえ、用水路に沿って周辺にある種を植栽。	記載なし	日野市、用水組合、潤徳小学校、地域住民	記載なし	記載なし	記載なし	あり	第1期工事後1ヶ月足らずで小魚の群れやカワセミが見られるようになった。夏にはトンボやヤゴが生息しはじめた。	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	向島用水親水路整備計画	その他	記載なし	平成4～6年度
T-565	環境	河川	ワンド	記載なし	代償	平成4年	不明	デルタ地帯を3000㎡掘削し、水衝部に乱杭を打ち、蛇籠を設置。浅川との合流部の程久保川の護岸にヒューム管を通して水を引き込んだ。	市民グループから「ワンドを掘ろう」という要望が絵とともに提出された。	日野市	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ワンドで確認された魚類は程久保川本流より5種類上回っていた。	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	程久保川	その他	記載なし	記載なし
T-566	環境	河川	動植物	記載なし	代償	1991～1992	不明	源兵衛川右岸沿いに岩で造られたる過耕と浄化水路を設置し、「川のみち」により本流から分離する。	流入する生活排水を浄化し、源兵衛川の原風景の再生と創造を目指す。	静岡県東部農林事務所	あり	自然環境追跡調査	記載なし	あり	水生植物は川の清掃によってかきとられたことがあった。開放的になったことで野鳥には敬遠された。ホトケドジョウの増加が確認。ゲンジボタルが繁殖しはじめ、ヒル類やミズミシは減少し浄化水路の効果が確認。	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	県営灌漑排水事業	その他	第2ゾーン200m	1990～1992
T-567	環境	河川	動植物	記載なし	代償	記載なし	工事中	河道と低水路を蛇行させ、勾配を変化させる。瀬や淵を造成。護岸は土と柳による植生で整備。	多自然型川づくり	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	あり	植生は徐々に回復しつつあり、自然の状態に近い。コイやフナ、アメリカザリガニ、メダカが確認。カルガモ、セキレイの個体数が増え、コサギ、カワセミが見られるようになった。	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	大和市引地川	その他	区間延長200m	記載なし
T-568	環境	河川	動植物	記載なし	代償	1992(3号床固工完成)	工事中	低水護岸は玉石張とし、緩勾配区間はブロック護岸を土砂で隠し護岸とする。巨石を水衝部に設置して淵を造成。アキグミ、ヤナギ類は仮移植や播種を実施。魚道を設け、石を張り下流部に深みを創出。	カワヤナギ、タチヤナギ、アキグミ等の植物とイワナ、ヤマメ、カジカ等魚類の生息に配慮。	建設省北陸地方建設局松本砂防工事事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	長野県松川	その他	姫川合流部～上流約5km区間、河道幅150～200m	昭和63年度着手～
T-569	環境	湖沼	動植物	記載なし	代償	記載なし	不明	調整池低段部の護岸や越流堤には自然石を設置。中段部の湿生植物園にはタコアシ、ショウブ、アヤメを植栽。ひょうたん池は乱杭、蛇籠を設置。右岸には浅い小川を造成。左岸にはホタルの小川を創出し、幼虫を放流。耐湿性樹木や湿生植物を植栽。	豊かな自然環境を有する雨水調整池を「自然とのふれあいの場」としての多目的利用を市民が提案。	大和市	記載なし	記載なし	記載なし	あり	ショウブ等の湿生植物は冠水状況に良く適応している。	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	上草柳調整池多目的利用調整事業	その他	湛水面積3.1ha	昭和60年度～平成2年度
T-570	環境	湖沼	動植物	記載なし	代償	平成元年度完成	不明	A遊水池東端には漁礁を設置。水際にヨシ群落を保全し、中の島や乱杭を整備。抽水、沈水性植物を植栽。樹林や草地。湿地。トンボ繁殖池を整備。B遊水池ではシラカシ等の高木、低木、草木を植栽。抽水植物とコウホネ等浮葉植物を植栽。広場には野草を植栽。	「アーバンみらい東大宮」街づくりの一環として、生物の生息空間を確保した自然性の高い遊水池を整備	住宅・都市整備公団	あり	生態系調査	平成5年度	あり	A遊水池では再造成後、29種の植物が生育し、木本類、帰化植物も確認。	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	深作川多目的遊水池事業	その他	遊水池面積21ha	昭和52年～平成元年度(修景整備平成3～6年度)
T-571	環境	湿原・湿地	動植物	ダム周辺は一部国定公園、県立自然公園に指定されているため	代償	1992～1993	不明	東沢にせせらぎ水路や池、湿地を造成。小山や崖地を造成。湿地や池にガマ類、ジュンサイ、マコモ等、水際にセリ、カンガレイ、スゲ等植栽。	シカやイノシシがスタ場として利用し、水生生物が生育するような湿地ビオトープを整備。	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	あり	シカ、イノシシ等の哺乳類、鳥類、両生類、トンボ類等、宮ヶ瀬の一般的な種のに他に水辺に生息する種が多く確認。	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	宮ヶ瀬ダム	ダム	湛水面積460ha	1991～1993(150万打設終了)
T-572	植物	植物全般	植物	ダム周辺は一部国定公園、県立自然公園に指定されているため	代償	記載なし	不明	原石山の長大法面を着生植生により緑化。アラカシ、シラカシ等の他、標高400mまではタブノキも植栽。落葉樹は現況植生を考慮し、クスギ・コナラ群集より選定、SF吹付工法実施。	原石採取後に生じる長大法面の緑化のため	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	宮ヶ瀬ダム	ダム	法面4万㎡	1991～1993(151万打設終了)
T-573	昆虫	蝶類	蝶類	ダム周辺は一部国定公園、県立自然公園に指定されているため	代償	記載なし	不明	宮ヶ瀬ダム水没地内の在来種の移植。エノキ、クスギ、灌木等の植栽。	ダム水没地周辺で確認されているギフチョウ、オオムラサキ等の蝶や昆虫の生育環境の整備	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	宮ヶ瀬ダム	ダム	記載なし	1991～1993(152万打設終了)
T-574	生物全般	動物	動物	ダム周辺は一部国定公園、県立自然公園に指定されているため	代償	記載なし	工事中	橋の下やトンネルを獣道に設定し、障害物を排除。フェンス、ガードレールは緑に塗ったり、シカが入りできる程度に改良。法面の土砂による埋め戻しや植栽を実施。	工事により移動や個体交流の制約を受けているため	建設省	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	宮ヶ瀬ダム	ダム	記載なし	1991～1993(153万打設終了)

環境保全措置事例一覧  
(39/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類別	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年	
T-575	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	工事中	両岸に呼び水水路をもつ階段式魚道と閘門式魚道を設置。魚道上流端に逆流防止のフラップゲート3連設置。	魚道設計に当たり「筑後大堰魚道検討委員会」を設置し、水理模型実験等の調査、検討が行われた。	水資源開発公社	あり	堰下流の魚類分布調査 稚アユ対象調査 稚ガニ対象調査 閘門式魚道の調査	昭和59～現在(平成6年)	あり	堰下流の魚類はアユ、オイカワ等15種採取。稚アユ遡上量は年間50～200万尾である。稚ガニ遡上量は約3千～7万3千個体と推定。階段式・閘門式魚道合わせて魚類39種、甲殻類4種を確認。	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	筑後大堰	その他	総延長約500mの可動堰	記載なし	
T-576	魚類	魚類全般	魚類	記載なし	代償	記載なし	工事中	隔壁間の高低差を可能な限り小さくし、魚道上り口につながる水路を堰下流に設置。	魚道設計に当たり「中津川大堰魚道検討委員会」を設置し、堰付近の魚類調査をもとに検討が行われた。	建設省	あり	遡上量調査(自視観察と採取調査)	平成3年以降	あり	魚類22種、甲殻類6種を確認。ギギが比較的多く、カワヤツメ、アカザ、オヤニラミなど稀少な淡水魚の生息が確認。稚アユの遡上は約30～90万尾と推定される。	記載なし	自然復元3水辺ビオトープ - その基礎と事例 - 1994 自然環境復元研究会編 桜井善雄監修	平成大堰	その他	全長218mの可動堰	記載なし	
T-577	植物	ヨシ(群落を含む)	ヨシ	ヨシ生育環境の復元	低減	1995-1997	供用後	没水型低水護岸の設置。高水敷の法面にはカゴマットを設置。	景観上の配慮。ヨシ生育環境の確保。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	日経コンストラクション 1998年3月 日系B P社	東四ツ木底水護岸工事	その他	整備延長約615m	1995-1997	
T-578	植物	ヨシ(群落を含む)	ヨシ	ヨシ生育環境の復元	低減	1995-1997	供用後	ワンドや水路の護岸に板柵を用いた。	ヨシの根定着のための板柵構造で、その後は腐食する。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	日経コンストラクション 1998年3月 日系B P社	東四ツ木底水護岸工事	その他	整備延長約615m	1995-1997	
T-579	生物全般	水生生物	水生生物	湿原には希少植物が生育するため	低減	1994以前	-	道路法面を擁壁に変更、測道は建設取りやめ。	湿原を極力保全するため。	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	日経コンストラクション 1997年10月 日系B P社	ひいご谷湿原移設・保存	その他	記載なし	1994-1996	
T-580	生物全般	水生生物	水生生物	湿原には希少植物が生育するため	代償	1994-1996	工事中	湿原の移設	設計変更が難しい段階に至っていたため	道路公社から総社市に引き渡し。	あり	水量、水質	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	日経コンストラクション 1997年10月 日系B P社	ひいご谷湿原移設・保存	その他	約3900㎡(JH用地は約500㎡)	1994-1996	
T-581	植物	ヨシ、ヤナギ群落	ヨシ、ヤナギ群落	滋賀県琵琶湖のヨシ群落保全条例	代償	1993-1995	供用後	移植	道路建設予定地のため	滋賀県長浜土木事務所	あり	移植後の定着確認	1997	あり	移植したヨシの定着率は9割	記載なし	FRONT 1998年7月(財)リバーフロント整備センター	琵琶湖総合開発関連事業、の都市計画街路「世継相模線」	その他	長さ1524m、幅25.0m	1993-1995	
T-582	魚類	リュウキュウアユ	リュウキュウアユ	絶滅危惧種であり、生息環境の保全などの緊急な対策が叫ばれている	回避	記載なし	-	産卵期や遡上期の工事を全面休止	赤土流出がアユの産卵に影響を与えるため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT 2000年5月(財)リバーフロント整備センター	不明	その他	記載なし	記載なし	
T-583	魚類	リュウキュウアユ	リュウキュウアユ	絶滅危惧種であり、生息環境の保全などの緊急な対策が叫ばれている	低減	記載なし	-	工事中の沈砂池、汚濁フェンスの設置	赤土流出がアユの産卵に影響を与えるため	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT 2000年5月(財)リバーフロント整備センター	不明	その他	記載なし	記載なし	
T-584	生物全般	水生生物	水生生物	水域の連続性が絶たれているため	低減	1994-	供用後	落差工を多段式に改修	河川の連続性確保	徳島県川島土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT 2001年6月(財)リバーフロント整備センター	宮川内谷川 土木環境共生事業	その他	記載なし	1994-	
T-585	生物全般	水生生物	水生生物	陸域と水域が分断されているため	低減	1994-	供用後	法面勾配の急なコンクリート護岸の緩傾斜の土の河岸化	陸域と水域の連続性確保	徳島県川島土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT 2001年6月(財)リバーフロント整備センター	宮川内谷川 土木環境共生事業	その他	記載なし	1994-	
T-586	植物	河畔林	河畔林	緑地のつながりを回復するため	代償	1994-	供用後	川沿いの河畔林形成のための植樹	緑地のつながりを回復するため	徳島県川島土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	あり	樹林帯が形成されつつある	記載なし	FRONT 2001年6月(財)リバーフロント整備センター	宮川内谷川 土木環境共生事業	その他	記載なし	1994-	
T-587	生物全般	動植物	動植物	記載なし	代償	1994-	供用後	ビオトープ公園の造成	記載なし	徳島県川島土木事務所	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	FRONT 2001年6月(財)リバーフロント整備センター	宮川内谷川 土木環境共生事業	その他	記載なし	1994-	
T-588	生物全般	水生生物	水生生物	記載なし	代償	記載なし	供用後	ビオトープ整備(ホタルの里復元)	記載なし	住宅・都市基盤整備公社	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	記載なし	公園緑地 1997年5月(社)日本公園緑地協会	八王子みなみ野シティ	その他	394ha	記載なし	
T-589a	植物	水生植物群落	一年生の水田雑草	乾田化などによって希少となった水田の一年生水生・湿性植物の保全	創造	1997-1999	-	休耕田の耕起など試験的な植生管理を実施。	放棄された湿田では、無管理状態では放棄後の植生変化に伴い一年生草本を主体とする水田雑草の多くが消失するため。	大阪ガス	有	管理を行った区画の一部で小型の水田雑草類の割合が減少したことから、保全対策の再検討を行う必要が生じたため。	1999	有	耕放棄水田において田起こしや除草、水位調整を行った。	有	ランドスケープ研究65(5)585-590	敦賀市中池見湿地				
T-590a	両生類	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	平成2年に起きた豪雨の災害復旧において防災工事を行う際に、オオサンショウウオに配慮。	創造	1990年以降	-	環境護岸工(木工沈床、落差工など)の施工	不明	不明	無						ランドスケープ研究58(4)409	兵庫県養父郡建屋川				
T-591a	昆虫類	トンボ類	トンボ類	不明	創造	不明	-	住宅団地の調整池にトンボ池を設置	不明	不明	有	モニタリングの詳細は不明だが、その結果を踏まえて追加措置(池の深さを三段階にする、石組みによる生息空間創出など)を実施。	不明	有	不明	有	ランドスケープ研究58(4)409	高槻市公団住宅阿武山団地上の池ビオトープ	ビオトープ創造			
T-592a	生物全般	生物全般	野鳥や水生生物	不明	創造	不明	-	都市公園に数ヘクタールの池の護岸構造を変えることで、レクリエーションゾーンと保護ゾーンに区分。	不明	不明	無						ランドスケープ研究59(3)198-205	松戸21世紀の森と広場	公園	50ha		
T-593a	環境	森林	森林	不明	低減	不明	不明	公園を作るに際して谷戸の環境構造を壊さないよう配慮。山のゾーンではボードウォークにより踏みあらしを防止。	不明	不明	無							ランドスケープ研究59(3)198-205	座間谷戸公園	公園		
T-594a	環境	干潟	干潟	不明	創造	不明	-	谷津干潟の周辺にエコトーンを創造(古い石を並べて緩傾斜のスロープを造った)。後背湿地に淡水池を創造してヨシの湿地を作った。	不明	不明	有	詳細は不明	不明	有	施工5ヶ月後には湿地と池の間はかなり草本が生えた。	無	ランドスケープ研究59(3)198-205	習志野緑地	緩衝緑地	60ha		
T-595a	植物	シダ	シダ	シダの谷を造成する	創造	不明	-	対象種の移植	生物資源の活用可能性調査を企画段階で行い、計画・設計段階では計画サイトから生育状況の調査結果に対応した候補地の生育条件や数量を上げて設計。	不明	無						ランドスケープ研究59(3)198-205	横浜市金沢公園				

環境保全措置事例一覧  
(40/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年	
T-596a	昆虫類	トンボ類	トンボ類	不明	創造	不明	-	土壌の入れ替え、植栽をやり直した。作業は部分的に順次行った。	当初造成した池で粘土粒子によって水が濁ったため、改造のために既存の生息環境を奪わないように、部分的に少しずつ改造を行った。	建設省土木研究所	無					ランドスケープ研究59(3)198-205	国営昭和記念公園					
T-597a	環境	河川・水辺	河川	不明	創造	不明	-	リサイクル素材を利用。例としてコンクリート製の空積み護岸を設置し、空隙に植物の侵入を容易にした。施工前の川幅から拡幅し、法面には起伏を持たせて水際に変化を持たせた。	不明	不明	無						ランドスケープ研究59(3)198-205	北海道精進川河畔公園				
T-598a	魚類	サケ	サケ	経済動物(漁業資源)であるため	代償	不明	事業後	サケの生息環境を創出	道路の拡幅のために土砂採取が行われた跡地の水たまりの地下水位がかなり高いことが判明したため、それを活用した。	不明	無						ランドスケープ研究59(3)198-205	カナダ・ブリティッシュコロンビア州の道路事業				
T-599a	魚類	ホトケドジョウ	ホトケドジョウ	湧水にホトケドジョウが住み着いていたため。	創造	不明	不明	浅川に流入する湧水起源の小さな流れ込みに Pond を作ることで、ホトケドジョウの生息地とした。	浅川本流はもともホトケドジョウが生息できるような水質ではないが、洪水の後の清流期に増水によって下流に流されたホトケドジョウが復讐遊上する過程でこの清流に住み着いたと考えられる。	不明	無						ランドスケープ研究59(3)198-205	東京都日野市浅川				
T-600a	環境	河畔植生	ダム湖周辺の斜面緑地	湛水裸地斜面の緑化は「河川環境(水質・景観・生態系等)の整備と保全上からも意義が大きい。	代償	35339	事業後	土壌の代わりにヤシ繊維ロールを用いた。	ダム湖周辺の裸地斜面に、鉄筋欄に植生土壌と汎用土壌を積んでポット苗を植栽したが、土壌固定が十分でなく、水位上昇時に移動・流亡したため、新たな固定方法を検討した。ヤシ繊維ロールは軽量、柔軟性があり、地盤や植物を保護する強度を持つことから選定された。	建設省北上川ダム統合管理事務所	有	施工後2年目に植生の生存率、生育量などを調査。	1996年10月～1998年9月	有	ヤシ繊維ロールを用いた工法は、構造的劣化や植栽植物の流亡が少なく、生存率も安定し、樹高・草丈も増加傾向にあった。またそうした植物由来と思われる実生やその他植物も確認された。	無	ランドスケープ研究62(5)517-520	北上川ダム				
T-601a	生物全般	水生生物	水生生物	不明	創造	不明	-	既存の緑道の改修に際して、下水の高度処理水を利用して生き物がすめる流露を復元。流速、水深、底質、護岸などが水生生物の生息に適したものであるよう設計。	不明	立川市建設部公園緑地課	有	水生生物の調査	不明	有	水草による水質浄化作用や14種の魚類の生息、鳥類による魚類の採餌が確認された。植栽した水草・湿性植物の生育も良好。	無	ランドスケープ研究63(2)134-136	東京都立川市根川緑道				
T-602a	生物全般	水生生物	水生生物	工業団地予定地でアセス調査によりヤマトミクリ、ヨツボシトンボ、サラサヤマガが確認されたため。	代償	不明	不明	保全対策としてヤマトミクリは3年かけて試験移植を行った。トンボは採卵による移植を試みた。	不明	住宅・都市整備公団関西支社	有	移植生物の成育調査	不明	有	ヤマトミクリは水中の方が陸上より生育がよいことを確認。トンボ類は移植翌年の初夏に成虫が確認されたが、移植した卵から羽化したという直接的証拠は得られなかった。	無	ランドスケープ研究63(2)134-136	滋賀県水口町近江水口第二テクノパーク				
T-603a	環境	全般	全般	不明	創造	1998年2～6月	-	6階建てのビルの屋上に、池・小川(50m2)、水田(9m2)、湿地(6m2)、植栽部(55m2)から構成されるビオトープを造成し、両生類6種、魚類10種、昆虫類21種、甲殻類1種、貝類5種を導入。	不明	(株)テクノ中部	有	自然飛来した種の調査	1998年夏	有	鳥類3種、昆虫類11種が自然飛来しているのを確認。今後、物理環境条件(気温・水温)と導入種の生育、生息状態、自然飛来種との関係をモニタリングする予定。	無	ランドスケープ研究63(2)134-136	愛知県名古屋(株)テクノ中部本店ビル本館				
T-604a	生物全般	生物全般	動植物	不明	代償	不明	不明	丘陵地の住宅地開発において、動植物保全のために「エコ・キーパー」精度を設け、きめ細かい環境作業を行った。保全対象種の移植や、移植先での環境管理を行った。	従来の業務発注では実施が難しい現場の様子を見ながら臨機応変に作業を行うことが可能。	住宅・都市整備公団黒川開発事務所	無						ランドスケープ研究63(2)134-136	神奈川県川崎市多摩ニュータウン黒川地区	住宅地開発	80ha		
T-605a	環境	全般	全般	大都市の真ん中での自然復元と環境教育のため。	創造	不明	-	自衛隊駐屯地の跡地を利用して、残されていた谷戸地形を生かし流れや池を設置した。自然保護区域(立入禁止)自然観察区域・自然交流区域などにゾーニングして目的に応じた植栽を行った。植栽木の来歴も全て記録し、自然保護区域では自然遷移に任せる。	不明	北区建設部河川公園課	有	自然保護区域での生態系復元過程の長期的モニタリング	不明	不明	不明		ランドスケープ研究63(2)134-136	東京都北区赤羽自然観察公園	公園	5.4ha		
T-606a	生物全般	生物全般	動植物	不明	代償	不明	不明	インターチェンジ内に山裾の農村の水辺を模したビオトープを創出	不明	日本道路公団東京第一管理局	有	植物、哺乳類、爬虫類、鳥類、チョウ類、トンボ類など多くの種を対象に5年間にわたりモニタリングを行った。	不明	有	全ての種群で、整備直後と比較して種数が増加。種数の変化は植生遷移や水辺の変化と関係が深いことが伺えた。チョウ類、トンボ類では繁殖場所、鳥類では移動の中継地点の機能を果たしていると考えられた。複数の哺乳類、爬虫類が確認されており、水路や草地が移動経路となっていると考えられた。	無	ランドスケープ研究63(2)134-136	東名高速大井松田IC	高速自動車道			
T-607a	環境	海浜	磯浜	水保湾に面した海陸にまたがる公園緑地の整備の一環。海浜生物の観察ができる磯浜造成のため。	創造	不明	不明	緩岩護岸、ソイルセメント、海砂などで基盤を造成し、ソーラーポンプで海水を汲み上げて流した。	不明	熊本県土木事務所	無							ランドスケープ研究63(2)134-136	熊本県水保市水保エコロジカル公園港湾緑地	港湾整備		
T-608a	生物全般	水生生物	水生生物	放棄水田の水生生物を保全し、谷全体の種多様性を維持するシステムを検討する。	創造	1996年、1999年	-	様々な状態の水田を常に配置するシフティング・モザイク・システムを試験的に導入した植生管理を行った。	様々な湿性環境を主な生育・生息環境とする各種水生生物の存在が可能となるため。	京都府企画環境部	有	措置後の生物相、植生変遷の調査を実施。	1997年(一部1995年と1998年)	有	水田雑草・希少植物の保全にはカンガレイ群落、コナギ群落、チゴザサ群落の維持が望ましい。水田に生息するトンボ類、ゲンゴロウ類も確認。管理によって遷移初期の状態に復元できた。	有	ランドスケープ研究64(5)571-576	京都府宮津市丹後リゾート公園	公園	144ha		
T-609a	環境	河川・水辺	河川	自然環境の保全を図るため。	創造	1999	-	相互砂州の保全を目的に低水敷の平面形状を維持し、水域から陸域への推移帯の形成を目的に低水敷の掘削法面を緩傾斜(1:30)にする。植物の根茎を含む表土を取り置き掘削後の低水敷表面に敷くこと(表土の埋め戻し)、の三点を配慮し掘削工事を行った。	今後、自然環境の保全・復元に配慮した河川整備を進めていくためには、こうした事例を調査・分析し、手法の有効性や課題を明らかにしておくことが必要のため。	国土交通省近畿地方整備局猪名川工事事務所	有	植生調査と植物相調査。	1999、2000年	有	河川本来の植生の保全・復元に効果が見られた。平面形状を保全したことで、河川本来の作用により砂州や湾入部の発達が見られ、植生の多様化をもたらした。	有	ランドスケープ研究65(5)591-594	兵庫県尼崎市推道地先の猪名川	河川整備	3.4-4.4km区間、幅約120m。低水敷の面積は左岸18976m <sup>2</sup> 、右岸11196m <sup>2</sup> (1998年当時)		

環境保全措置事例一覧  
(41/42)

ID	分類群	保全対象(改)	保全対象	対象選択の理由	措置の種類	措置実施年	措置実施の時期	措置の内容	措置選択の根拠	措置の実施主体	事後調査の有無	事後調査内容	事後調査時期	措置の効果の有無	措置の効果の有無を判断した根拠	追加措置の有無	情報源	事業名	事業種別	事業規模	事業実施年
T-610a	環境	湿地	湿地・湖沼	希少となっている池沼や湿地の生態系の保全・創出	代償	1996	事業後	緩斜面に実験用池を2箇所造成。	湿地全体として生物多様性を維持・増加させるのが国営公園計画上の課題となっているため。	国営みちのくの湖畔公園工事事務所	有	水温・気温・水深の物理的環境、植物社会的植生調査、水生生物の採集による定量調査	1998-1999年	有	生物の生息に適した物理環境を確認。	有	環境システム研究27, 477-487	国営みちのくの湖畔公園	ダム、公園整備		
T-611a	鳥類	鳥類	鳥類	綾瀬川流域の総合治水対策の一環として、支川である深作川の流出量を調節するため深作調整池が整備された。これと併行して住宅団地(アーバンみらい東大宮)の開発が隣接して行われたため、開発地区の公園としての機能も併せ持つ、鳥類の誘致を目的とする。	創造	不明	-	調整池内を親水ゾーンと生物保全ゾーンに区分けし、乱杭、中島・浮島、浅瀬の設置、ヨシ原、ガマ帯などの抽水植物、緑化ブロック、緩傾斜基盤を設置。	鳥類の誘致のため。	不明	有	調整池内の鳥類の種数・個体数を調査し、生息域と地形的な違いを観察した。	1997-1998年	有	水鳥の営巣、休息、採餌などが観察され、生息環境が上手く創出され活用されていると言える。	無	土木技術資料40-520-25	綾瀬川深作調整池			
T-612a	環境	河川・水辺	水辺環境	ダム造成前に存在した渓流等の水辺環境を住み場所にしてきた生物の生息環境の復元による、ダム湖の環境改善。	代償	1997	事業後	付近の湧水を導水した湧水汲み場、湧水水路環境の整備と生物生息状況の関連を調べるため。	水路環境の整備と生物生息状況の関連を調べるため。	栃木県土木部那珂川水系ダム管理事務所	有	水生生物調査、両生類調査	1998-1999年	有	カジカガエルなど数種のカエル類の生息を確認。	無	環境システム研究論文集28, 233-240	栃木県内のダム(名称不明)	ダム		
T-613a	植物	草本	エビネ、キンラン、ササバギンラン等	アセス調査で確認された植物注目種のうち、自生環境が改変されるもの。	代償	不明	工事中	移植に先立って適地の検討を行った。移植は事業地内5ヶ所で行った。エビネは確認できたものを全て、他は確認したものの一部を適地に移植。エビネ、キンラン、ギンラン、クモキリソウは危険分散のため適地以外にも移植。掘り取り個体は当日移植し、自生地での密度の2倍いじょうにならないようにした。	移植密度は他事業の実績や情報をもとに検討。	都市基盤整備工団千葉地域支社	有	各個体ごとに生育状況の判定。	2001年	有	イカリソウ、ササカサなどは生育状況が良かった。しかし園芸植物としても栽培困難とされているギンランなどは生育状況が良くなかった。	有	環境影響評価に関する事後調査報告等 収集整理解析事業(環境省)	千葉県印旛中央土地区画整備事業	住宅地開発		
T-614a	植物	草本	フジバカマ、オオチゴユリなど	全国的・地域的な希少種	代償	不明	工事中	開花期等の地上部が確認できるときに移植対象にマーキング、表土ごと掘り取って移植。移植は多摩地区内で実施。種の特性グループごとにまとめて移植。	不明	日本道路公団東京建設局八王子工事事務所	有	移植対象の開花期ごとに月に数回程度実施。生育面積、個体、活力、開花等を確認。	不明	有	移植対象がも個体が存続しているかという点から移植の成否を判断。	有	環境影響評価に関する事後調査報告等 収集整理解析事業(環境省)	首都圏中央連絡道路建設事業	一般国道	24.4km	
T-615a	両生類	トウキョウサンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	準絶滅のおそれのある地域個体群(LP)に視認されているため	代償	不明	工事中	造成に先立って工事中に仮設の試験産卵地を設置して利用状況を確認。工事中は影響を減らすために確認された卵のうを人工池に移植。また産卵期には工事を中止、工事完了後に人工産卵池を造成。	トウキョウサンショウウオは帰巢性があり、幼生時期を過ごした場所に戻って産卵する修正があるため。	日本道路公団東京建設局八王子工事事務所	有	卵のうの確認。	不明	一部有り	人工産卵地ではなく上流の沢との合流地点に出来た水たまりに産卵する事例が多い	無	環境影響評価に関する事後調査報告等 収集整理解析事業(環境省)	首都圏中央連絡道路建設事業	一般国道		
T-616a	植物	草本	キンラン、エビネ等	廃棄処分場の拡張地に希少植物が生育するため	代償	1992-1993年	不明	放棄された農業用のため池周辺に移植。	移植場所は事業影響を受けにくく、既存の生息地と類似する環境として選定。	神戸市環境局施設課	有	移植個体の確認。	不明	一部有り	エビネ、シライソウなどは定着したがイヌタヌキモ、ウラボシマダヒ等は消失。	有	環境影響評価に関する事後調査報告等 収集整理解析事業(環境省)	布施畑環境センター拡張事業			
T-617a	植物	草本	キヨスミウツガなど	我が国における保護上重要な植物リスト(1989)に該当する種	代償	1991年	工事中	アセスで確認されたもの以外にも事業途中で確認された種は順次移植。移植実験、増殖などの試験も実施。危険分散のため事業地以外に植物園等にも移植。	不明	神戸市港湾整備局新都市整備本部新都市計画課	有	移植試験。移植個体の定着状況の確認。動物の生息状況も確認。	不明	一部有り	移植地では移植表土から希少種個体が芽生えている。しかしヤマホオズキは定着していない。	有	環境影響評価に関する事後調査報告等 収集整理解析事業(環境省)	西神流通業務団地・西神第3地区工業団地造成事業			
T-618a	植物	草本	セツブンソウ等	希少種	代償	不明	工事中	工事事務所内や生活再建地周辺の神社の社や墓地の斜面に移植。移植対象は表土ごと移した。堆積岩地は生育に不適であることから安山岩質の場所に移植。ヤマトレンギョウは挿し木で移植した。	移植対象の選定は専門家が関与。	国土交通省中国地方整備局江の川総合開発工事事務所	有	個体数の確認	1997年から2年間	有	現状維持はできている。カタクリはほぼ全て開花・結実している。	無	環境影響評価に関する事後調査報告等 収集整理解析事業(環境省)	江の川水系灰塚ダム建設事業	掘削30万m3		
T-619a	植物	アマモ	アマモ	藻場の生息基盤の一部が消失するため	代償	不明	不明	ダイバーがアマモ株を採取し、移植場所に一定間隔で差し込む。移植に先立ち、生育を阻害するアナアオサ、牡蠣殻を除去。	徳島県及び阿南市との環境保全協定において代替藻場の造成を約束。	四国電力(株)橘湾発電所	有	移植個体の確認。	不明	一部有り	2年間のモニタリングの結果、造成区域岸側の50mの範囲は順調に生育していたが、これより沖ではアナアオサの繁殖により生育が阻害されていた。	無	環境影響評価に関する事後調査報告等 収集整理解析事業(環境省)	橘湾発電所	公有水面等埋め立て		